諸寄砥

硯材

寒風石

硝子原料

アヂノール板岩との二種にして、剃刀研及び其の他の研材として、需用多し。又和歌山縣西牟婁郡富田村・平村・新庄村等よりは富田石又は大村砥石と稱する淡灰色細粒質の第三紀砂岩にて製したる圓砥を産し、遠く販路を東京・大阪に有す。兵庫縣城崎郡の水山砥及び美方郡の諸寄砥は、何れも石英粗面岩にして、農具研磨に適するが故需用多し。其の他滋賀縣蒲生郡鎌掛村、同縣甲賀郡岩根村、同縣愛甲郡東小椋村、三重縣鈴鹿郡野登村の粘板岩より又た多少の砥材を製出す。

硯材　近江高島郡廣瀨村大字長尾・同郡水尾郡大字武曾横山附近の粘板岩及びアヂノール板岩は、其の質堅軟中庸を得硯石として適良の品なれば多少の需用ありて、昔時より著名なり。全郡三谷村に産したる寒風石と稱する紫赫色の輝綠凝灰岩は、現今其の産出を見ず。又山城葛野郡上嵯峨及丹波船井郡八木村より産する粘板岩は、硯石盤等に製作し、大阪市に輸出せらる。

硝子原料　近畿地方にて硝子原料を産する　多しと雖ども、本邦未だ硝子製造の業發達せず、從て其の原料の使用も盛ならず、極めて微々たるものなり。和歌山縣西牟婁郡田邊灣頭白良濱の砂は、瀨戸鉛山附近にある白色粗質砂岩の崩壞したるものにして、白良濱沿岸約四百米の地を被覆し下等硝子の原料としては好適の良材なり。其の他三重縣桑名郡猪飼村全郡多度山、兵庫縣下播磨淡路の海岸等より多少の硝子原料を産す。

硝子製造所

硝子製造所　今茲に硝子原料の項に附隨して、其の製造所に於ける製作の梗概を說くべし。大阪市北區天神橫筋東二町目の島田硝子製造所は個人事業なりと雖ども、本邦に於ける有數の工場なり。其の硝子の重なる原料は硅酸・アルカリ及び鉛にして、硅酸は硅砂及び硅石を用ふ。下等硝子の原料には淡路・紀伊の海濱にある硅砂を用ひ、其の上等品は三河・播磨より産する硅石の粉を用ふ。アルカリは曹達或は加里の炭酸鹽或は硫酸鹽にして、殆んど總べてをイギリス・ドイツより輸入す。石灰は最上等品は純粹なる大理石の粉末を用ふると雖も、普通品即ち石灰硝子は本邦各所に産する普通石灰岩を以てす。鉛は鉛硝子の原料として、密陀僧或は鉛丹を用ふ。而して此れ等の原料に他

の配合劑を適應に混じ、充分混和せられたるものを硝子層と共に坩堝中に入れて熔融したる後、尙ほ硝子に光澤を與ふるために、亞砒酸等を配劑し、熔融の狀充分なるに至て稍〻溫度を高め、其の浮ぶ所の熔滓を取り去り。其の一部分の色合・氣泡の有無を檢査し、缺點なきに到りて、後尙ほ二十四時間熔融せしめ、玻璃の製作に移るなり。本工場の製作品は板硝子・窓硝子・色硝子等なり。

石灰

石灰　本地方は石灰の產出甚だ多し。三重縣下の片麻岩系及び秩父古生層を構成せる石灰岩は各所に露出し、其の質石灰製造に適せるが故、所在之を製せり。同縣阿拜郡壬生村大字上柘植は多額の製ありて、肥料・白壁に之れを用ひ、同縣三重郡弘野村產は肥料に用ひらる。滋賀縣下の秩父古生層中にある石灰岩亦多くして、高島郡三谷村・甲賀郡鮎川村・伊香郡葛籠尾崎村及び同郡大浦村の產出品は皆肥料に供せらる。京都府下に廣く發達せる秩父古生層よりは其の產出亦多く、石灰製造所到る所にあり。殊に南桑田郡內には本業の多きを見る、即ち篠村灰ヶ谷・小字馬が小場、同郡千歲村より產する者の如きは京阪地方に輸送せられ、肥料及び漆喰用に供せらる。兵庫縣下は其の產出前記の諸地方に比して多からざるのみならず、一般に其の品質劣等なれば、單に水田の肥培に供せらるゝに過ぎず。其の他本地方中に石灰を產出するは奈良縣吉野郡川上村・和歌山縣伊都郡高野村花坂・同縣有田郡栖原等なり。

陶土

萬古燒

伊賀燒

信樂燒

陶土　本地方に於ける陶器用粘土は一般に豐富にして、其の製造の業も亦盛なり。三重縣下に發達せる花崗岩・片麻岩の分解より成れるものは所在之れを採て種々の陶器に製せらる。朝明郡羽津村附近よりする木炭を挾める暗褐色の粘土は、俗に木朽（キクサレ）と稱し、雅趣ある萬古燒の資料に供せられ、同縣阿拜郡丸柱村四近よりする花崗岩の分解せる粘土は伊賀燒（一名丸柱燒）の原料たり。滋賀縣栗太郡信樂（シガラキ）谷の各村にて製作せらるゝ信樂燒と稱する陶器は、花崗岩の砂を夾雜せる第三紀層の粘土より製せられ、其の業盛なり。京都府相樂郡今山の第三紀層中にある粘土は、信樂燒の原料にして、全府宇治郡安朱村の秩父古生層を貫通して、現出せる石英粗面岩は甚だしく分解して、白色の粘土に變質し、全府愛宕郡岩倉のもの亦全岩の分解したるものにして、何

八鹿燒
出石燒

れも陶器製造の原料に供せらる。有名なる清水燒は此等及肥後天草地方產の粘土を原料とせり。兵庫縣加古郡二見村小字北の溝に粘板岩及び凝灰岩の分解より成りたる粘土を產し、原料採掘の外板土・火入等素燒類を製す。全縣養父郡綱場村の八鹿燒は石英粗面岩の分解に由て生じたる茶褐色の粘土より造り、其の價廉なるが爲め、近時販路漸く擴張せり。全縣出石郡出石町の出石燒は、其の附近より出づる石英粗面岩を採り、搗き碎き水を加へ、他の粘土と混和して製造す。其の製品の白色にして色彩を施さず花鳥を彫鏤するが如き一種の特趣あるは本燒の他產と異なる所なり。

明礬石　生野鑛山附近の流紋岩は分解して、明礬石及び之れに含有する明礬岩を出だすに至れり。產地は播磨國神西郡長谷村大字栃原子クラタニ小字ハコギにして、生野町を距ること凡そ一里半なり。明礬石は緻密にして良質の部は淡紅色を呈し、其の他は白色及び黝色を呈す。明礬岩は淡赭或は淡黃色を呈す。其の石英粒を含有するの事實及び現出の狀態よりして考ふれば、流紋岩の分解物なることは殆ど爭ふべからざるの事實なるが如し。應用は主

雜鑛物
黃寶石
綠柱石

として加里明礬及び硫酸礬土を製造するにありて、栃原にては明礬石を採掘并に撰擇し、之れを二百貫目入りの爐にて一晝夜間燒き、之れを東京に送るなり。飾磨には明礬製造所を新築せりと云ふ。

雜鑛物　本地方に產する雜鑛物の主要なるものを說明せんに黃寶石は磁賀縣栗太郡田の上山及び三重縣員辨郡石榑南村四近に產出し、殊に田の上山よりは可なり多くを產す。同所產は第一透明にして、淡綠色又は酒黃色を帶び大晶をなすもの、第二無色透明にして、光澤强きもの、第三白色又は淡黃色を帶び光澤弱く小晶なるものゝ三種にして、其の大晶小晶は互に產出の狀態を異にす。即ち大晶は必ず石英上に附着し、小晶は白色なる正長石上に其の柱面の稜を橫臥して附着す。之れ蓋し兩者生成の時期を異にしたるものなるべし。而して田の上山は、全部花崗岩にして、其風化作用を受け崩壞した る土砂中に黃寶石は水晶・長石・雲母等と共に混して存在せる者を採集するなり。又綠柱石を產し、淡綠色にして、不透明なる六角柱狀をなせる者と、淡綠色にして透明なるものとの二種ありて、共に黃寶石中の包裹物として產す。石

水晶

柘榴石

電氣石

玉髓

菜石

雲母

蝦石

縛産の黄寶石は結晶最も簡單且つ其の面粗鬆にして、近年稀に産出するのみ。水晶は前記田の上山地方に累帶構造をなせる無色なるものと、着色に濃淡ありて、且つ煙色と無色と累帶構造を成せる煙水晶との二種を花崗岩中に産し、和歌山縣田邊町産の水晶は多く兩端完全なる結晶をなし、砂岩中に産す。柘榴石は本地方中産地數ヶ所あれども、殊に奈良縣北葛城郡二上村穴虫附近の河流よりは、母岩雲母富士岩より分離したるものを産し、磨砂用として、遠く海外に輸出し、年々の收入二萬圓外なりといふ。電氣石は滋賀縣栗田郡關の津村大字櫨現谷に産し、玉髓は奈良縣山邊郡介野村大字友田に産す。三重縣石縛に産する菜石は青綠色紫色及び無色の各部分相混じて斑紋を成せり。雲母は滋賀縣栗田郡田の上山に各種の雲母を多量に産し、時に標本的美品を出だす。此等は長石及び煙水晶と共生し、常に二者の表面に附着す。三重縣三重郡水澤村産のものはリシア雲母にして、粗粒狀花崗岩の一成分として存在す。同郡菰野村産のものは又た同じくリシア雲母にして硅石中にありて、稍〻茶褐色の薔薇色を呈す。兵庫縣氷上郡大新屋村には從來白色若しくば肉紅

辰砂

那智黑

色の蠟石を産し。石筆印材、其他種々の小器具を作りたりしが、近年能く猛烈の熱火に耐ふるの性あるを知り一方耐火材料に供せらる。辰砂は奈良縣宇陀郡駒帰村の石英脈中に染鑛し、微細にして透明美麗なる結晶を産し、全縣多武峯山のものは僅かに岩石の表面に薄皮をなすに過ぎず。和歌山縣東牟婁郡宇久井村佐野村間海濱の砂礫中に那智黑と稱し、黄色堅硬にして、緻密なる硅板岩の礫を産し、試金石或は碁石として用ひらる。又た机上の置物として文人の珍重したる古谷石は和歌山縣西牟婁郡上芳養村より、瓜溪石は全縣日高郡西本庄村より産し、共に中生層の泥板岩中に埋藏せられたる石灰岩塊なり。蓋し表面皆分解し、新鮮部の殘留したるものが種々の奇貌を呈するに至れるものを愛玩するに過ぎず。兵庫縣津君郡平林村の南方に花崗岩の裂隙より冷泉を湧出する所あり。其の附近に方言平林石と稱して往々奇形をなせる石灰華を産す。其の他本地方中諸鑛石の産地を列擧せば左表の如し。

鑛石産地

鑛石	地方	郡	村
鑛石	地方	郡	村

柘榴石	大阪	南河内	山田村	黑水晶
仝	仝	仝	磯長村	玉瑞
仝	仝	仝	駒ヶ谷村	硬石膏
電氣石	滋賀	栗田	關ノ津	蠟石
水晶	京都	相樂	笠置	仝
仝	兵庫	城崎	城崎	仝

三重	三重	千種		
奈良	山邊	都介野		
三重	三重	水澤山		
京都	愛宕	鞍馬		
仝	兵庫	氷上	新井	本
仝	仝	神崎	福	

六　商業

近畿の商業

近畿の地、蓋し本邦中最もよく開けたる所と謂ふべし。其の山岳は森林に富み、其の沿海は水産に饒かに、平原の地方は則ち豐沃なる穀野相連れるあり、天産の利到る處に求むるを得べく、之に加ふるに、本邦商工業の一大中心たる大阪市のあるあり。美術工藝の淵叢たる京都市のあるあり。神戸港は此地方の門戸を爲して、外國貿易の盛なる、横濱港の壘を壓するに足るものあり。殊に水陸の交通機關完備して縱横に延亘し、物産の集散甚だ便なれば

近畿商業の概況

近畿の中央京阪附近の地は商業の活潑にして隆盛なること、啻に關西地方の中心を爲すに止らず、又關東平野と相對して、之と共に本邦商業界の二大勢力をなし、就いて語るべきもの少しとせず。左に先づ其各地方に於ける商業の大意を說述せむ。

本地方の商業は大阪・神戸を其の中心と爲すべく、其他海岸の都會皆な活潑なり。大阪市は一大商業市たると共に又た本邦屈指の大工業地をなし、綿糸のごときは實に著大の產額を呈し、清・韓・內國を始め、各外國への輸出も亦盛に、ことに其の好門戸を爲せる神戸港を其附近に有せるを以て、交通頻繁、市況、ことに繁盛を極む。且、本邦北部・西部より集り來れる諸產品は、各地方に分散する以前、先づ此地に集中するを例とせるを以て、物として至らざるなく、品として集らざるなし。織物の如きも、モスリン染工業に於て殊に他地方に卓越し、未製品を此地に輸して、盛にこれが製作を試むるを見たり。今、其の農工業重要物の仕出地及び仕向地を見るに、米は其の取扱ひ數量の年額百萬石餘に達し、其仕出地は山陽道・九州・畿內・山陰道及び韓國にして、仕

向地は神戸・畿內・東海道・大阪等なり。大豆は九州・北海道・韓國及清國より來りて、畿內・伊勢・尾張に散し、砂糖は諸外國及び薩摩・讃岐・長門等より來りて、靜岡以西の東海道及び北陸地方に散ず。工業の綿糸は年々長大の進歩を爲せるを以て精確に其平均年額數を數ふること能はざれど、大抵二十萬噸餘(價格三四百萬圓)の多額を同府下に製出し、以てこれを清・韓兩國、其他の諸外國及び內地の一部に輸出す。中國地方・九州地方に產する蠶表も皆な一度は此大阪市の關門をくゞりて、而して後東京・南海道・山陽道・北陸道に至るを例とせり。其他酒・茶・生魚・乾魚・鑛物・油・紙等皆然らざるなし。これ、大阪市の今日商業の中心を爲し、關西地方に於ける商權の覇を握たる所以なりとす。而して是等商工業の敏活と隆盛とを謀れる商業機關には、古來有名なる堂島米穀取引所あり、株式取引所あり、砂糖取引所・油取引所・三品取引所あり、市場には、天滿青物市場・雜喉場魚市場等の大市場あり。皆な活潑なる取引或は賣買を爲し、以て大阪市に於ける今日の商業の隆盛を來せり。且、古來の大問屋の制も、明治維新以後幾多の變遷を經て、今の鞏固なる同業組合を形成し、愈〻發達を遂ぐるに至れり。神戸市は現今に於ては、關西地方商業・工業の門戸を爲し、船舶の輻輳する者日一日より多く、輸出入の盛なる、實に此地方に冠たる而已ならず、本邦屈指の一大商港を爲せり。而して此港は横濱港の輸出港たるに對して、輸入港たる名を得、既往十年に於ては、横濱の輸出一年五千萬圓乃至一億四五千萬圓に對して二千萬圓乃至九千萬圓を占しと共に、一方輸入に於ては、横濱の四千萬圓乃至一億圓に對し、五千萬圓乃至一億五千萬圓の多數を占めたり。されど近來、輸出額次第に增加し、唯卅四年に於ては、輸入額一萬二千五百萬圓に對し、輸出額七千七百萬圓を占むるに至れり。三十七年の輸入一億七千四百八十萬餘圓に對し、輸出八千七百九十七萬餘圓の少額を來せしは、日露戰爭の影況なること、素より言ふを待たざるべし。これを以て、商業活潑、市況頗る隆盛なり。この大阪・神戸の二大商業都會に接して、堺市の一都會あり。往古に於て、わが國外國貿易及び商業の祖地を爲し、歷史上甚だ有名なり。今日は、大阪・神戸に比して市況甚だ振はざれども、清酒醸造段通製織等の工業見るべきものあり。和歌山市は紀伊西北部の要衝に當り、

商業繁盛なり。かくて大阪・神戸等海岸に近き地を去りて、内地に入れば、京都市の商工業地あり。其の商業は單に舊時の帝都たりしことのみに止らず又織物・陶器其他の工業品によりて發達したるものにして、大阪の大問屋制のごとき大勢力を有せるものとは、全く趣を異にせるを以て、其繁盛は到底大阪・神戸に比すべくもあらざれどもまた、近畿地方一商業地として推すには充分なり。奈良市は京都市と同型なれど、工業の發達微々たるを以て、その繁華は更に下れり。更に東して三重縣に入れば、津市あり。縣廳所在地にして其繁華は他に多くを讓らざれど、商業の發達は却つて其東北、伊勢灣頭に位する桑名・四日市を推すべく、前者は有名なる米穀市場をなし後者は關東關西兩地方との交通上の連絡を保ち、本邦中部地方の貨物の集散多く此灣頭に行はるを以て、商業頗る活潑なり。滋賀縣に於ける大津長濱の如き、交通上商業の一要地をなし（詳細は商業都會の部を見よ）又此縣下商人が古來各地に行商して所謂近江商人の勢力侮るべからざるものあるが如きは注意すべき一現象たるを失はず。是より例に由り、商業機關・商業都會・會社事業・金融機關の四項に分ちて下に

これを細說すべし。

商業機關

商業會議所

（イ）商業機關

商業會議所　本地方の商業會議所は數に於て九個所にして、殊に大阪商業會議所の如きは本邦に於ける商業會議所の嚆矢にして、其の規模亦盛大なり。其の撰擧權被撰擧權を有するもの大阪市を第一として京都市を第二とす。今其所在地及び會員の數を擧ぐれば左の如し。

商業會議所　（明治三十六年）

地方	會議所所在地	設立地區域	會員定數	設立地區域内撰擧權ヲ有スル者	全撰擧被撰擧權ヲ併有スルモノ
京都	京都市	京都市	四〇	一、二〇八	三、〇四九
仝上	伏見町	伏見町	二五	一三六	九七
大阪	大阪市	大阪市	五〇	五、八二六	四、二七六
兵庫	神戸市	神戸市	四〇	二、三六九	一、九四四
三重	桑名市	桑名市	—	—	—
仝上	四日市市	四日市市	二八	一六	二四
滋賀	大津市	大津市	二五	八九	三二
和歌山	和歌山市	和歌山市	三〇	九六	三七

三重	津市	津市	二〇	三九	—

取引所　本地方の取引所は其の數に於て、其の資本金に於て甚だ優勢なり。即ち米穀取引所株式取引所は共に大阪市全國に於て東京の次位にあり。其の全體の數に於ては前三卷の諸地方に優ること多大なり。左に最近の者を表に示さん。

取引所（明治三十六年）

名稱	株式人員	仲買人員	資本金	拂込資本金
京都米穀商品	九三	三	一〇五,〇〇〇円	一〇五,〇〇〇円
京都株式	三七三	二六	二〇〇,〇〇〇	二〇〇,〇〇〇
奈良米穀株式	五三	五	三〇,〇〇〇	三〇,〇〇〇
大和米三品外	一〇一	四	一〇〇,〇〇〇	一〇〇,〇〇〇
大阪堂島米穀	二八九	三四	二五〇,〇〇〇	二五〇,〇〇〇
大阪株式	九三九	四三	六〇〇,〇〇〇	六〇〇,〇〇〇
大阪三品	二六三	三	三〇〇,〇〇〇	三〇〇,〇〇〇
神戸商品	七二	三	六〇,〇〇〇円	六〇,〇〇〇円
姫路米穀株式	五七	一七	一〇〇,〇〇〇	一〇〇,〇〇〇
松坂米穀株式	三五	—	三〇,〇〇〇	三〇,〇〇〇
桑名米穀株式	一〇三	一九	一〇〇,〇〇〇	一〇〇,〇〇〇
津米穀株式	三一	一五	一〇〇,〇〇〇	一〇〇,〇〇〇
四日市米、油、株式	一五一	一八	一〇〇,〇〇〇	一〇〇,〇〇〇
近江米穀株式	八〇	一九	一〇〇,〇〇〇	一〇〇,〇〇〇
大阪油	一〇六	八	一〇〇,〇〇〇	一〇〇,〇〇〇
堺米穀株式	一四九	九	一〇八,〇〇〇	一〇八,〇〇〇
神戸米穀外四品株式	一七四	二四	二〇〇,〇〇〇	二〇〇,〇〇〇
彦根米穀株式	一六二	三	一〇〇,〇〇〇	一〇〇,〇〇〇
長濱米絲、米株式	一九二	一四	一〇〇,〇〇〇	一〇〇,〇〇〇
和歌山米穀、綿絲株式	一九二	八	一〇五,〇〇〇	一〇五,〇〇〇

商業都會

（ロ）商業都會

本地の商業都會の發達せることは、實に本邦第一に位し、大阪の大工業、京都の美術工藝、其他各地の物產の饒多なるより來たる繁華に加へて、地形交通より來れる好況これに伴ひ、本邦第二第三に位せる大都會大阪・京都の如きを有し、本邦第一の輸入港たる神戸港を控へ、二萬以上の人口を有するものも少なからず。關東中部の盛を以てしても、猶遠くこれに及ばず。今、その都會の重なるものを左に細說せむ。

大阪市

大阪市　日本の商業中心點たる大阪市は、仁德天皇の都を此の地に遷し給ひ、溝渠を堀り、道を修し給ひし頃より、既に商業的發展をなし、爾來幾多の星霜を徑て今日に至り、一層著しき膨大をなしたるなり。今日の大阪は嘗

に日本に於ける商業地なるのみならす、又東洋に於ける有數の商業地なり。他日大阪築港の完成を見んか、其活動の更に倍蓰して著しきものあらん。本市の今日ある、其の原因一にしし止まらざるも、想ふに大阪市は實に日本の中心點に位し、四近豐富の地域を控へ、水陸交通の要衝を占め、四通八達せる鐵路を始めとし、縱横に驅馳する內外船舶は容易に多數の貨物を集散し、商業市港として本邦無比の天賦の好位置を占むると共に、其の住民亦商業的資性に發達し其の鋭敏快腕なる實に驚くべきものあるが爲めなるべし。嗚呼大阪市は絶對に商業的要素を以て充さる。其の幾百年の繁華を保ちて今日あるに一大勢力を加へつゝあるを忘るべからず、試みに市中を一望せんか、帆檣林立せる背後には更に又烟突林立煤烟空に漲るの壯觀を目擊すべく雄大なる光景は容易に他に求むべらざるものあるなり。

外國貿易に於て輸出額千八百萬圓を超え、輸入額に於て千六百萬圓に達する本市の內國貿易は復多大なるものあり。此等多數の貨物年々集り來り散じ去るは如何なる場所に於てなさるゝかを知らんとせば、須らく大阪市の商業中心地たる船場に着眼せざるべからず。船場の一部なる高麗橋西より西横堀に至る繁華の街路は、大賈豪商軒を並べ、三井銀行・三井物產會社・百三十銀行・卅四銀行（第七十三圖乙）等の壯大なる社團は、其の間に介在し、淀河に沿ふては北濱大川町築地等あり。殊に北濱には株式取引所ありて、投機の客群集し、互に鎬を削る樣又た一場の奇觀をなす。內北濱及び今橋には住友銀行・鴻ノ池銀行・北濱銀行の如き大銀行ありて、大阪商業界に偉大の勢力を有するを見るべし。貨物の集散を取扱ふ所謂大問屋なるものも此間に散在し、心齋橋筋・淀屋橋筋等には商賈軒を連ねて繁盛の一要地をなし、堂島附近より江戸堀・土佐堀附近に至りて、無數の倉庫軒を列ね取引の盛なる亦此市の特色なり。其取引の重なる者を擧げんか、近く灘・伊丹・池田より清酒、播磨より鹽・米穀、丹波より眞綿・生絲・砥石・但馬より柳籠・京都・大和・河內より織物・江州より麻・蚊帳・岐阜より紙を輸入し、紀州よりは材木・ネル・織物・塗物・蠟・種油等にして、遠く北海道の海產物・肥料・九州の石炭・米穀・砂糖・織物・青莚・中國の綿・綿花・木綿・四國の紙・鹽・海產物は

皆此地に集中し來りて後散ぜらるゝなり。此等の物品は獨り大坂市民の需用に應ずるのみならず、各縣に供給せられ、又た清韓地方に向ひ尙神戸市を介して海外貿易の資料となるなり。其の陸上ヶ積入の如き之れを神戸に於てなさるゝも、商取引は常に大阪に於て行はるゝなり。且、清韓兩國に對する清韓貿易なるものに至りては、之れを神戸に待つことなく、豐臣氏時代より遠く引續きて、大坂其の要局に當れり。而して此等輸出品の重なるものに付き概略を述べんに、府下及市內に於ける多數の紡績所より產する綿糸は本邦綿糸總產額の過半を占め、直接本市より輸出するものゝみにても一ヶ年貳百五万餘圓に達す。金巾・天竺・木綿・白木綿の如き綿織物また多く清韓地方に輸出し、就中白木綿は現今主要の位置を占め、一ヶ年殆んど三百四十萬圓の產額あり。銅・砂糖・菜種油又た一ヶ年百萬圓以上の生產ありて、マッチ・綿フランネル・洋傘等と共に重要物產として夙に知られ、年々の輸出多額なり。

大坂の商業を語るもの必ず堂島を口にせざるものなし。斯く商業上重要視せらるゝ堂島は如何にして其の位置を高めたるや。他なし只一個の米穀取引

堂島米穀取引所

所あるがためなり。（第七十五圖甲）故に堂島を說くには必ず米穀取引所の現況を以てせざるべからず。豐臣氏大阪に居城を定むるや、米穀の軍糧に必要なるを感する際、山城國八幡の人三郎左衞門巨資を投じて、現今の淀屋橋南詰に淀屋と號する商店を開き、城內に軍糧を上納する傍、米穀を賣買して門前に市をなし、遂に米穀市場の萌芽を存せり。後德川氏の世に及び、其の子孫淀屋辰五郎なるもの奢侈のため闕處となるや、店前の市場を堂島に移せり。然るに此の地舊幕時代には諸藩の藏屋敷建連りて、留守居の役人等は遂り來れる米穀の賣出をなし、出入商人の重立てるもの藏元となり、其の下に米問屋仲買人ありて、仲買人は專ら賣買の仲立をなして、各國產出米格附の便法としたりしが、降て明治三年當業者相謀りて、限月米賣買の許可を得て開業し、仝九年に至り米商會所と改め、仝二十六年取引所條例の發布せらるゝや、更に改めて遂に今日に及べり。今や全國の各要處の取引所と關聯し時々刻々通信機關を利用して、價格の平均を保ち、日本に於ける第二位の市場となれり其開市せらるゝや場の內外、人を以て充たされ、一見其の盛大に驚かざるを

得ざる盛況を呈す。取引は攝津中米を標準として左の如き名目の下に立會す。

前場(午前)　寄附・鱗時・引方・仲引・大引・留方

後場(午後)　唯鱗時を缺き他は前場に同じ。

一ヶ年の賣買取引高七百万石に達し、直取引・延取引・定期取引の三種を取扱ふ。

大坂銀行集會所

商業界に重要の經濟機關なる大坂銀行集會所は、大坂市東區今橋三丁目にありて、(第七十四圖甲)明治三十年十一月の創立に係る。其の目的とする所主として銀行に關する諸問題を討議講究して、之れが意見を政府に開陳し、或は世上に發表し、或は同業者の方針を打合せ親睦を謀り、且つ通信錄を發行して、銀行業に關する諸種の事項を通知するにありて、其の經濟社會に益することと多大なり。現在加盟銀行五十二行あり。加ふるに大坂手形交換所は日本銀行支店内に設けられ、市の金融をして益・敏活ならしめたり。

三品取引所

三品取引所資本金三十萬圓は東區北久太郎町三丁目にありて、去る明治二十七年始めて開所せられたり。其の取引賣買は主として内國産の綿絲・綿花・木綿にして、近時は殊に綿絲の賣買最も盛なりと云ふ。創立當時は賣買商品皆各主産地又は製造所を以て銘柄を區別したるが故、其の範圍狹小にして、買占の惡弊生じ易かりしが、其後改正して製造所の何れを問はざるに至れるより、大に取引をして敏活に發達せしめたり。商品の品質は器機的檢査を行ひ若し不合格品あらんか、直接製造者に注意し、從て製造者も大に注意を拂ふに至りしより商品一般に良好となり、本取引所の信用大に加はれり。

大阪商品陳列所

大坂商品陳列所は堂島にありて、去る明治二十三年府の勸業委託金を以て經營の資となし、市の有力なる商工業者の贊成を得て、設立せられたる本邦第一の商品陳列所なり。其の目的は商工業の改良增進を圖り、廣く内外國の物産を陳列し、並に商工業に關する新聞雜誌等を蒐集して、實業家の參考に供し、又た實業上諸般の調査試驗をなすにあり。陳列品は農産・水産・林産・工産鑛産等にして、一々品名・産地・品質・用法・價格・輸入元・輸出先等を詳細に記したる說明書を附し。尙事務所に於ては一層詳細なる說明書を備へ、衆覽に供す。而して毎月内外商品部陳列品の解說・貿易上有益なる事項等を記したる報告書

を發行して實業上に益すること甚だ大なり。之れを以ても市民が如何に市の商工業に意を用ふるかを窺ふに足るべし。

此他、市場として有名なる天滿青物市場及び雜喉場魚市場あり。共に其の起源を豐臣氏時代を有し、今日猶大阪市の繁榮を助くる有力なる商業機關として存せり。青物市場には輸入愈增加し、沖繩の箒枇杷胡瓜長州の夏蜜柑、德島の鳴戸蜜柑、靜岡の山葵、三河の生姜、甲斐の葡萄、東京の梨子、北海道の玉葱、唐林檎等を見るに至り、輸出は中國・四國・九州・加越より北海道に及ひ、延いて海外諸國に輸出するものまた尠なからざるに至れり。雜喉場魚市場に於ける荷主は近くは攝津和泉淡路・紀伊より遠く四國・中國・九州・東海に亘り、其出入又甚だ盛なり。

要するに本市は商業總論に於て述べたる如く、大問屋の制を保持せると、商業の中心地なると、充分に發達せる大工業と、交通の便を極めたるとによりて、本邦第一の商業地を爲し、首都たる東京市には一歩を輸すと雖も、東洋のマンチエスターとしては、優に其上に一頭角を擢てたるを見る。（工業及び

堺市

（地方誌參照）

堺市は大和川の河口南岸にあり。足利氏時代より外國との互市場たりし地にして、諸國の船舶常に港內に輻輳し、繁榮を極めたりしが、現今海底堙りて、巨船を入るゝ能はざるに至れるが故、其の商業の大部は自然大坂・神戸兩市に吸收移化せられたりと雖ども、尙良港なる故を以て鐵道の便と相俟て商工業盛大なる一商區をなす。本市は又物産・緞通の產を以て有名なり。商業會議所は市之町西四町に日本緞通株式會社は材木町大道にあり。又物は往古全盛の時代名工此地に來り薩陶したる結果庖丁類其他の鐵器・銅器皆精巧なるものにして、年々總計五百萬圓以上の產出ありと云ふ。緞通又た此の地の一大特產にして、名は堺緞通と稱すと雖も、其の實は佐賀にて創製せるものを、維新后當地に於て模倣して製出せるものに外ならず。其の貿易市場に顯はれたるは實に明治二十六年頃にして、其の后四五年間は全盛を極めたるも、現今は稍衰退の傾向を呈せり。

京都市

京都市は桓武天皇以來千七十余年の帝都たりしを以て、啻に明媚の山水名

社巨刹の多きに於て誇るのみならず。照代の王化に浴して、文化を養ひ來りし今日の商工業は舊都をして衰退せしめず。却て大鼎東遷の以前に勝るの繁榮を致さしめたり。然りと雖とも本市は商業地としてよりも、寧巧妙なる工業上に於て其の發展の基礎をなせりと謂ふべく。祖先の遺業を繼け、多年の習練を積みたる其の特技は實に我國美術工藝の首部を占むと稱するも、過言にあらず。其の製作品の重なるものは西陣織・友禪染・清水燒・粟田燒等にして、何れも古來其名高く、西陣織は、市の西北西陣より產する織物の總稱にして、種類極めて多く、錦・綾・縮緬・羽二重・錦禰・緞子・綸子・繻子・繻珍・天鵞絨紋織等にして、殊に天鵞絨は本市の特有物產とも稱すへく、年々の產額約二千萬圓に達す。友禪染は本市又たは附近に於て染出し、鴨川の水最も之に適す、と稱せらる。綿フランネルは和歌山市に遲るゝこと一年にして、機業を興し、近年大に隆盛の域に進み、和歌山の四百萬圓なるに對し、三百萬圓を產するに至れり。此地製品は和歌山と異にして重に綾ネルを製織す。清水燒・粟田燒は總稱して京燒と稱す。清水燒は磁器にして粟田燒は陶器なり。近來洋風の日用品を製出し海外に輸出して大に聲價を博するに至れり。年々の製出高六十餘萬圓に達す。青銅器は精巧品を出すと雖も、輸出向に適せず。一ヶ年七十萬圓以上の產額あり。以て此等本市の物產が如何に多く市場に分配せらるゝかを知るに足るへし。（工業參照）金融機關としては四十九銀行（資本金百二十萬圓）京都商工銀行（資本金百萬圓）及び其他大銀行の支店出張店等ありて、本市の金融界に重きをなす。

宇治町

本市の南部宇治町は古來製茶所として其の名高く、茶と云へば吾人をして直ちに宇治を聯想せしむ。其の產出高に於ては靜岡縣に及ばざるも、品質の良好なるは尙宇治茶の聲價を失墜せざる所以なりとす。其の製品は靜岡縣の夫れとは全く趣を異にし、彼は輸出向にして、煎茶を主とするに反し、之れは內地向にして殊に、玉露は殆んど此の地の專有に歸し、其香味は他の克く模倣し能はざる所なり。一ヶ年の產出七十五萬圓に達す。期節に至れは製茶の取引盛に行はれ、市況繁盛なり。

宮津港

宮津港は海灣恰も囊の如く海底甚だ深くして大船を容るべく、冬季强風の候と雖どき平穩にして、波浪の高きを見ず。

實に日本海沿岸屈指の良港なり。大坂商船會社日本海航路の寄港地にして、市街殷賑商業盛なり。其物産たる縮緬は古來此の地の特産にして、一ヶ年の産額實に九百餘萬圓に及ぶ。市内に工場多く京都染織學校分校の設けあり。製品は多く京都市を介して散布せらる。又沿岸の海産物は六十萬圓に達し、漁業盛にして、京都府水産學校は此の地にあり。

舞鶴町

舞鶴町は東西に分かれ、海軍鎮守府は灣なる東舞鶴にあり。西舞鶴は東舞鶴に對して所謂舊市街なり。兩舞鶴共に其の繁榮宮津港と並び稱せられ、市内の商業繁盛なり。

奈良市

奈良市は一千餘年前の舊都として、古代美術の淵叢たり。關西鐵道名古屋大阪間幹線は此市を通じ、其他陸路交通は完備の域に達せり。本市は古來商業地としては重きを致されざりしも、尚大和に於ける重鎮の地たるを失はず。奈良縣下高田町・御所町・今井町附近を主産地にする大和紬・大和木綿、重要なる物産にして、此市に販賣せらるゝもの多し。且同縣の物産奈良晒は本市を以て本場とし、取引最も盛なり。其の他根來塗・奈良人形・蚊帳・團扇・奈良漬等亦本市の物産として知らる。奈良人形は京都の雛人形と共に著名なるものにして、蚊帳は絹綿交織を以て其の特色とす。市内遊覽の客常に絶えず、商業繁榮なり。

神戸市

神戸市は維新前西國街道に沿ふたる一寒村に過ぎざりしが、慶應三年十二月兵庫の開港せらるゝや、其の繁榮漸次神戸に遷り、海岸の築造・阪神間の鐵道成るに及び益隆盛を加へ、明治二十五年九月兵庫港は終に神戸港に編入せられ、茲に一大市街となれり。其の陸上の交通は官設鐵道並びに山陽鐵道を利して、直ちに全國の重要都會に達するを得べく、海上の交通に至りては幾多の航路ありて、郵船會社・商船會社外國の諸汽船會社其の他の船舶灣頭に往來し、我國に於ける貿易上交通上の一大要區をなせり。市勢既に外國貿易上の要衝に當たり、且つ近く工業地なる大阪市・京都市を控へ、關西地方の生産品は殆んど本市を介して輸出せられ、其の輸入せらるゝもの又た多く關西地方に散ぜらるゝを以て、市況頗る隆盛を極む。去る明治三十七年に於ける本市の輸出額は八千七百九十七萬六千百七十八圓、輸入額は一億七千四百八十五萬五千二百圓にして、輸出額に於ては横濱港の次位にありと雖ども、輸入

額に於ては實に全國の首位を占めたり。以て如何に本港が晩近三十有餘年間に駸々として勃興し、稀有の進歩をなしたるかを知るべし。輸入品の主なるものは綿花にして、實に繰綿生綿を合し一ヶ年六千百萬圓の巨額に達す。之れ蓋し大阪市及その附近の諸府縣に多數の紡績所を有すがためなり。直輸入國の主なる國は支那北アメリカ・イギリス領印度なりとす。其の他米・羊毛・モスリン・綿織子・石油・羅紗・軌道諸機械は何れも緊要なる輸入品なり。輸出品に於ては製茶は横濱の次位を占め、綠茶・粉茶・紅茶・磚茶を合して、四百餘萬圓に達し、燐寸・綿糸は殊に重要の輸出品なり。去る明治三十六年の綿糸輸出額は二千四百三十九萬五百七圓にして、燐寸は七百六十七萬七千百六十七圓なり。其の他銅・樟腦・樟腦油・陶磁器・金巾・毛氈・洋傘・寒天等は本市の主なる輸出品なり。而して燐寸・樟腦等は本市に於て多く製造せらる。

姫路市

姫路市は中國街道の國道に當る一都會にして、山陽鐵道は東西に通じ、全社の播但線亦此の地より分岐し、交通の便は能く四近の物産を集散し、市街繁盛にして、姫路銀行・三八銀行・萬里銀行等金融機關は完備し、播磨紡績會社

其の他の會社亦多し。古來明珍火箸・革細工・晒木綿・鑄物は此の地の物産にして其の名高し。

灘町

灘町は清酒醸造地として、有名にして、其の産酒は內地は京・阪・神地方は勿論遠く東京地方に出し、海外は清・韓・ハワイの諸國に輸出せり。灘五郷中醸造商品實に於ては西ノ宮第一位にして、十萬石を産し、少額なるは西ノ郷なりと雖も、尙八萬一千石を産す。實に此町の命脈は一に懸りて酒造にありと云ふべし。

池田・伊丹町

池田町及び伊丹町は共に阪鶴鐵道の一驛にして、攝津中部に於ける商業の要區をなす。古來灘と共に關西屈指の醸造地として、其名宇內に高く、其製品全國到る處に輸送販賣せられたり。然れども現今は清酒醸造地としては其繁榮造石高に於て灘に一歩を輸するの概あり。されど兩市ともに地方的の一中心をなして山地平野の物貨の集散極めて頻繁にして、僻境に似ざる般賑の小商業都會なり。

豐岡町

豐岡町は但馬に於ける最賑の都會にして、柳行李の産出を以て名あり。其の製品は東京・大阪・京都名古屋其の他の都市に販路を有し、遠く海外に輸出さるゝに至れり。

尼ヶ崎町

尼ヶ崎町は東西に大阪市の西北にありて小港市をなし阪・神間の汽車・電車の線路に當り又北は阪鶴鐵道に通

じ、其の商業取引並に交通運搬に於ける便宜最も宜しく、近時商工業の勃興せるもの故なしとせず。港灣の輸出入額七百萬圓、諸工場の製造品四百萬圓を超過するの多きに達し、尙年々增加の勢ありと云ふ。實に將來有望なる商業地たり。尼ヶ崎銀行・加島銀行支店・尼ヶ崎紡績會社・尼ヶ崎燐寸製造會社等は商工會社の重なるものなり。

大津市

大津市は近江第一の都會にして、京都市を距る幾かに三里、琵琶湖沿岸の要地に航行する汽船は鐵道の交通と相俟て、貨物の集散を容易にし、附近に產する多額の物產、殊に農產物は本市を介して散ぜらるゝもの多く、商業盛大なり。第四銀行(資本金十萬圓)大津銀行(資本金拾五萬圓)麻絲紡織會社等此の地にあり。

彦根町

彦根町は琵琶湖東岸の一都會にして、米穀の取引盛に行はる。由來縣下の人民は農商を勵み忍耐勤儉を以て聞えたるが、殊に東近江なる八幡・能登川・水口等の諸地方よりは、所謂近江商人と稱せられたる本邦各地方の大行商を出し、鉅萬陶朱を凌くものも亦尠なからず。從つて其の商業は大に發達し、彦根の如きは殊に繁昌を極むるを見る。北方の長濱町は湖北第一の都

長濱町

會にして、北國街道の咽喉に當り、湖上の汽船は各地に往來して、水陸運輸の便を占め、市街繁盛なり。縣下の重要物產なる長濱縮緬は本地の產出にして、各地に輸送販賣せらるゝもの一ヶ年百四十萬圓に達すと云ふ。產品の過半は織下ろしの儘仲買業者の手により京都市に送られ、他は直に東京・大阪・名古屋の各地に賣捌かるゝなり。其の他奉書紬・天鵞絨亦此の地の物產と稱すべし。

四日市市

四日市市は伊勢內海の西岸に位する港市にして、古來伊勢海の要津をなし、水陸の便少なからず、關西鐵道は此の地を過ぎ、東北名古屋市にて官設東海道線に連續し、西南龜山驛を過ぎて、京都・奈良・大阪・南方山田町に到るを得べく、陸路の交通便なり。港灣の施設未だ充分ならざるも大汽船常に出入して海運業頗る發達し、現時横濱との間に郵船會社の定期航海船あり。殊に其の開港せられてより商況一層繁盛なるものあり。藏町の四日市銀行・三井銀行支店・第一銀行支店は本市商業の金融を司り、三重紡績株式會社・關西鐵道株式會社本店は濱町にあり。市場には海魚は北條町、青物は北町、藺は驛前にあり。

丸池には株式會社四日市米油株式取引所ありて、何れも其の取引賣買盛に行はる。本縣下の重要物産なる米は品質佳良にして、當事者奬勵の結果其の産額漸次增加し、此地を經て横濱・大阪の兩市に輸出せらるゝこと一ヶ年百五十萬俵内外ありて、爾又た驚くべき發達をなして五萬石の多きを産するに至り、之れ亦多數本市を介して賣買せらる。彼の有名なる萬古燒は其の元祖は桑名なるも、製出は專此の地盛にして、從來京阪地方に販賣せしが、近年は殊に外人の賞用するところとなり、灰皿・盃物・マッチ入の如き種類盛に本市より輸出せらるゝに至れり。其他海産物・四日市縞・綿糸・洋紙等之れ亦た多少の取引あり。

津市

津市は安濃津とも稱し、東阿漕浦に臨み、三重縣の中央に位し關西鐵道本市にて終點をなし、尚參宮鐵道と連絡して、山田町に達するを得べし。本市は縣下の首都たると共に又參宮街道の一驛をなし百貨日々輻輳し、舟車の往來頻繁なれども、商取引に至ては四日市に一歩を讓るやの感ありて、寧政治的要區をなす。百五銀行(資本金壹百萬圓)四日市銀行支店・愛知銀行支店皆大門町にあり。魚市場なる魚町、青物市場なる入江町、東町なる津米穀株式會

社何れも取引盛に行はる。本市の物産にして雅致ある阿漕燒は蒲幕の頃中絶せし安東燒の後身とも稱すべきものにして、再興日尚淺く漸く菓子器其の他の日用品を造り、多少の産あり。其の他紙子・縞木綿團扇等多少の産額ありて、又た附近の地に輸送賣買せらる。

桑名町

桑名町は桑名河口にありて、濃尾平野の川船の集中する所、又尾張熱田に渡るの要津をなし、關西鐵道此の地を通過し、往來頻繁にして、商業頗る殷盛なり。就中往古より米穀の取引最も盛に行はれ、桑名米穀株式所取引所の如きは實に東京・大坂・馬關の夫れと共に本邦の四大米市場として有名なり。京町に桑名商業銀行(資本金六十萬圓)北魚町に桑名銀行(資本金三十萬圓)大字桑名に桑名商業會議所ありて、重要なる商業機關たり。魚類の市場は魚町にありて盛に開市せらる。物産は米・穀・鍋・釜・笠・筒・長・持・桑名・盆等主なるものにして、此の外當地産の蛤・白魚等は時雨煮と稱して鑵詰として、諸國に販賣せらる。

宇治山田町

宇治山田町は神都として知られ毎年多數の實業者來集するあり、從て外宮神苑の前に農業館あり、尾上町に五二會館陳列場ありて、此等來遊者の便に供す。市内商業は小賣に止り四日市・桑名に比す

和歌山市

べくもあらず。其の物産の稍主なるものは米・酒・魚類・漆器・春慶塗箸・傘等なり。

和歌山市は紀ノ川の河口にありて北大阪・神戸兩市に近く、國内より產ずる多くの物產は一旦此の地に集中して、是等の都市に送荷せらる。且つ水陸の運輸至便なれば市街殷賑盛にして、紀伊に於ける一大商市をなす。和歌山米穀株式綿糸取引所は十二番町にありて、明治二十六年十二月に創立せられたり。東鍛冶屋町・南大工町に於ける魚市場は近海の漁業地より集り來る魚類積て山の如く、其の賣買頗る盛況を極む。萬町・田中町に於ける菜蔬市場亦魚市場に劣らざる繁盛をなす。本市は綿織・綿フランネル・紋羽・奈良漬・鬢附油・水產物の產を以て名あり。殊に綿フランネルは有名にして、明治四年陸軍省の命を奉じ、軍隊用シャツ地として製せるものにして、綿糸を緯とし、紋羽糸を經とせしが、爾來考案を廻らし、近年外國品を模倣して、起毛法を行ふに至れり。此の地製織の狀況を見るに、蒸滊機關により比較的大規模に働作せるは、僅に一個所に過ぎずして、他は附近郡部の農民の副業として製織せらるゝものなれば、賃金極めて低廉にして、率て價格に及ぼし、克く外國品を壓倒す

新宮町

るに足る。而し其製品は明治八九年の交より清韓・ウラヂボストク地方に輸出せられ、現今其の輸出額殆んど五十萬圓に達し、產額は近郡のものを合して、一ヶ年約百萬反、價格四百餘萬圓に及ぶと云ふ。綿織は重に近郡に產し、綿・木綿・生木綿・晒木綿等の種類あり。其の他雲齋織・紋羽織・カラテ織等を合せんか實に巨額に達す。製造所の大なる者は和歌山織布株式會社・和歌山綿ネル株式會社等にして、染色工場の重なるは良色染・兄弟合資會社・和歌山色染所等にして、何れも新式機關を据付けて綿ネル業者の需用に應ぜり。奈良漬・鬢附又共に良好なるものにして、奈良漬の如きは一種特別の美味を有し、近年海外まで輸出するに至れり。縣下に於ける有名なる密柑類は又多く本市に集中し來り。本邦各地に供給せらるゝのみならず又海外各國に輸出せらる。新宮町は熊野川の河口に近き處にありて、紀州南部の一都會なり。商業殷盛にして、殊に熊野川を下し來る材木の大市場を以て稱せられ、兼て百貨集散するも、一里以西の三輪崎を以て船舶の碇繫所となすは本市商業上の一大不便と稱すべし。

黒江町

黒江町は黒江塗なる漆器製出を以て名高く、多くは實用品にして美術工藝品は少なく、而かも其産頭の大なる本邦第一に位し一ヶ年百萬圓以上を出だし、内外の需用に供すべく、其輸出は神戸港よりし、盆其の他雜種を出だす。内地向は膳・椀の類を重なるものとす。

(八)　會社事業

本地方は一般に産業能く發達し、其の會社の如き甚だ多く、殊に商工會社に至りては規模の大なるもの少からず。資本總額は大阪市全國にて第二位にあり。之れを前卷中部地方に比せば其の發達せること著しとす。今左に明治三十六年末の統計を掲げ、其の概況を示さん。

地方	農業 社數	農業 拂込資本金	工業 社數	工業 拂込資本金	商業 社數	商業 拂込資本金	水陸運輸 社數	水陸運輸 拂込資本金	合計 社數	合計 拂込資本金
京都	五	一〇、〇〇〇圓	八八	八、九八、二七一圓	二二	一一、三三五、五三五圓	三	四、七五四、四三三圓	三五六	二四、九一八、三二九圓
奈良	三	二、五〇〇	二	八一〇、四三四	四九	三、五一九、五四三	五	三一三五、九七〇	七八	七、四六八、四三六

(二)　金融機關

商業銀行

商業銀行　本地方の銀行業は大阪府・兵庫縣を除く外、一般に其の發達中部諸地方に劣るの感あり。獨り大阪市は日本銀行支店其の他の大銀行多く實に東京市に亞ぎて盛大なり。今左に各府縣銀行の狀況を擧ぐれば左表の如し。

地方	本店	拂込資本金	積立金	純益金	配當金
京都	五二	五、六五五、六三〇圓	一、〇二二、〇九七圓	四五八、九五五圓	三二八、五七七圓
奈良	三	二、七二二、六一〇	四三六、八一三	三三六、九二〇	一五二、八五八
滋賀	二〇	二、二一九、五〇〇	四八〇、六二九	三一〇、九七六	一六〇、九一六
三重	二八	三、一九二、三三五圓	四三一、三五七圓	四四八、九八一圓	二一八、〇〇一圓
大阪	三	八一、〇〇〇	一九二	二七五、九七、一八三	二三八
兵庫	一二	一三二、九九三	一二三	九、三一一、〇九二、三五八	二九、〇三二、七六五
滋賀	六	八〇、四〇〇	六七	四、二七六、二四六	一一五
和歌山	三	三〇、五〇〇	二九	一、一七八、三七五	六七
	一三	七〇、六〇〇	二九	一、八九七、三五七	七〇
	三	一三、八七五、六三六	四七五	七〇、五八六、五八四	
	四一	三〇、八四〇、〇九八	五三三	六三、五九三、〇二六	
	一三	三三、一五一、三六〇	二〇一	三三、四六二、七五六	
	一〇	一、九六一、七一五	一〇九	六、六八三、六一三	
	六	一、八七九、三六二	一一〇	八、七八五、〇四四	

大阪	六二	二一〇、七〇〇、九三五	五、七四七、二七四	三、一三九、〇九〇	一、一四九、五〇三	和歌山	三〇	二、七三八、七一五	六一七、五五三	五一五、一六一	二七三、〇八八								
兵庫	一五九	一四五、〇六五	六三、六三一、七六七	三、二四二、八一四	一、二四〇、〇六四														

農工銀行

●農●工●銀●行　本地方に於ける各農工銀行は中部地方に比して較劣れりと雖も、兵庫縣・三重縣の如きは其の成績良好なりと云ふべし。其の概況は左表の如し。

地方	本店	拂込資本金	積立金	配當金	地方	本店	拂込資本金	積立金	配當金
京都	一	五〇〇、〇〇〇円	六二、一〇〇円	三二、五四四円	三重	一	七〇〇、〇〇〇円	七九、五〇〇円	四二、〇〇三円
奈良	一	五〇〇、〇〇〇	四六、七五〇	三〇、〇六六	滋賀	一	五〇〇、〇〇〇	五九、〇〇〇	二九、八一二
大阪	一	三七五、〇〇〇	三一、八〇〇	一九、四六六	和歌山	一	六〇〇、〇〇〇	一九、〇〇〇	二八、〇〇〇
兵庫	一	一、〇〇〇、〇〇〇	三九、八〇〇	四二、〇〇〇					

貯蓄銀行

●貯●蓄●銀●行　本地方に於ける貯蓄銀行の成績は一般中部地方に劣れり。今各縣貯蓄銀行の概況を示すこと左の如し。

地方	本店	支店	拂込資本金	地方	本店	支店	拂込資本金
京都	*	一三	一四	三重	*	一一	五
		一八	三			三一	一七
		三九〇、二五〇円	六三、五〇〇				九一七、九三三 六五、〇〇〇
奈良	*	一一	一九	滋賀			八
大阪	*	一一	二九	和歌山			二
兵庫	*	一一	三五				
		三〇、〇〇〇	七三八、〇〇〇				七〇、〇〇〇
		八四、〇〇〇	五五、五〇〇				二六三、〇〇〇
		三六三、七五〇	四二、〇〇〇				六四三、〇〇〇

第三編　地方誌

京都府

京都府は近畿地方に於て其の位置を中央及び北部に占め、東は滋賀縣の大部と三重縣の一部とに接し、西部及び南部は大阪府と兵庫縣とに連り、北は福井縣に驅し、丹後に至れば、全く日本海に瀕す。府廳は京都市にありて、管する所は山城丹後の全部及び丹波の一部分にして、總て一市十八郡なり。一市は即ち京都市、十八郡は即ち山城に於ける愛宕(オタギ)葛野(カドノ)乙訓(オトクニ)紀伊宇治久世綴喜(ツヅキ)相樂(ソウラク)の八郡と、丹波に於ける南桑田北桑田船井天田何鹿(イカルガ)の四郡と、丹後に於ける加佐與謝中竹野熊野の五郡と、是なり。其の廣袤は東西三十五里、南北四十五里、全面積約二百九十六方里餘(四千五百五十八粁餘)、人口九十九萬七千四百八十八人を有す。これを一方里に分布すれば、其人口正に三千三百八十人餘(一方粁二百十六人餘)に該當するを見る。

京都府總說

面積・人口

地勢概して山嶽に富み、山城國のごときは、群峯起伏して東北西の三面に峙ち、南部も亦伊賀大和の諸山脈に因て抱擁せられ、眞に山城の名に背かざるを見る。河內に接する西南の一部は地勢低き丘陵を以てこれを劃し、其中央の盆地は地味膏腴、京都市を始めとして、伏見淀八幡等の諸名邑其間に點在し、又茶を以て有名なる宇治を有し、風景秀麗にして名祠古刹に富むこと本邦に冠たり。また、工業も頗る發達し、京都市の如きは織物陶器に於て本邦第一の美術工藝品を產するのみならず陶器綿糸綿フランネル等に於ても屈指の產地と稱せらる。丹波丹後の地は山嶽四面に連亘し、路として山阪を越えざるなく、邑として山影を帶びざるなく、中に、二三の標式的盆地をつくりて、龜岡町園部町綾部町福知山町等の名邑の榮ゆるを見たり。丹後の北部東部を極れば、日本海の蒼波來りて其岸を洗ひ、其の海岸の線は頗る複雜錯綜し、中に山良灣宮津灣をつくり、前者に、日本海方面に於ける最主要の軍港舞鶴港を包み、後者に此地方有數の良港にして、且日本三景の一なる天橋立を有する宮津港を備へたり。河川は淀川を以て第一の巨浸と爲す。川は琵

地勢

河川

面積人口比較

琶湖を發し、山城の中央を中斷して山中を出て、伊賀より來りて西北流する木津川と丹波保津より來りて南流する桂川とを山城盆地の最低地なる伏見附近の平地に集湊し、合して一となり、遂に大阪府の管内を流れて海に注ぐ。此川がその沿岸の地に無限の恩惠を與へたることは、素より言ふを待たざる所、工業に、農業に、交通に、この盆地の今日の發達を來したるは、是等諸川の功與りて多しと言ふべし。この淀川が昔時にありて皇居所在の京都市と商業中心の大阪市との間を通ずる最捷の交通路なりしを思へば、以てその一班を推すに足らんか。其他、丹波・丹後の山地にありては、北桑田郡より出て福知山の盆地に注ぎ、これより北折して由良灣に注ける由良川あり。福知山より小舟を通じ、由良港に近けば、四里の間よく大船を容るゝに足れり。管内人口の最も多き地は、京都市を除きては伏見町を有する紀伊郡にして、其面積二方里餘に對して人口五萬一千餘を有せり。即ち一方里約二萬六千餘人の割なり。而してこれに反し、人口率最も稀少なるは、丹波國の北桑田郡に若くことなし。其面積は十四方里餘にして人口は二萬一千を有するに過ぎ

交通

ず、即ち一方里千五百人餘の割なり。要するに、この管内に於ては山城盆地最も發達し、人事・交通及ひ產業等本邦屈指の地なるに反し、丹波・丹後地方は多くは山間僻地にして、住民の生活また甚だ低きを見る。只、丹後國海に瀕するの地區は、海岸各地に見るがごとき一種の發達を爲し、近年ことに舞鶴に達せる鐵道落成せるを以て將來益〻隆盛たらんとする趣を存せり。

府下の交通を記せば、鐵道は滋賀縣の西南大津市の附近より來りて逢坂山の狹隘を過ぎ、京都市を掠め、淀川に添ひて、大阪に向へる東海鐵道の幹線を始めとし、關西鐵道の幹線木津川畔の加茂驛よりわかれて、木津に至り、西北走してそれより攝河平野に向へる櫻宮線、京都七條驛より南、伏見を經て奈良に達する奈良鐵道、同じく七條より出てゝ、京都市の西郊を縫ひ、桂川の急湍に沿ひ西走して丹波の龜岡町に達し、それより園部に至れるの京都鐵道等、皆な主要なる交通路を成せり。大阪市の附近神崎より出てゝ兵庫縣丹波國多紀郡篠山町を經て、福知山町に達し、それより綾部を經て、舞鶴港に達する線路は阪鶴鐵道と稱し、本邦を南北に横貫する頗る重要なる線路な

道路

り。

道路は京都より大阪に向へる西國街道の主要道路を第一とし、これと並行して淀・八幡を經て河内に入る京街道、京都より伏見に出て、宇治に至りて奈良鐵道の線と並び、互に交叉出入して木津より奈良に達する奈良街道あり。又、淀より來り、木津川を渡り、前の奈良街道と川を挾みつゝ、櫻宮線に添ひて、奈良に達するの別路あり。京都市より丹波・丹後地方に赴くの道路は、朱雀・岡・香掛を經、老の坂峠(二百五米)を越えて龜岡町に達する丹波街道あるのみなれど、龜岡町に至りて、更に多くの道路を輻射し、一は西北走して園部町に至り、これより更に二三の道路を起して、山地の中心、福知山に向つて集中せり。これを山陰街道と稱す。一は西走して、多紀郡に入り、兵庫縣の一名邑篠山町に向ふ。殘すところの一路は、龜岡町より南下して、攝津に入り、一は岐れて、能勢の山中に入る。此等の道路は比較的良好なりと雖も、小巒矮峯其間に起伏するを以て、阪路從つて多く、旅客皆その險とその僻とに苦しむを例とす。此他、京都市より出でゝ、比叡山の西麓を縫ひ、大原を

山科の小盆地

經て、滋賀縣に入るの路あり。

丹後の海に瀕する地方は、綾部町より舞鶴町に出づる阪鶴鐵道の線に添へものを始めとし、福知山町より宮津町に至るもの、山良町に至るもの、舞鶴町に至るものあり。海岸の主道路は、但馬豐岡町より菱山峠を越えて、管内の中郡に入り、口大野・弓木を經て、海岸に出て、風光明媚なる天橋立と相對しつゝ東走して宮津町に達し、福知山・京都に至るの道路を分ち、これより山良町を經て舞鶴港に至り、途に若狹の大飯郡に入る。以上を府下に於ける主要なる道路に爲す。

吾人先づ官線に由りて京都に入るとせんに、大津驛よりは、逢坂山の丘陵を越え大谷の隧道を過れば、これより下り阪になれる汽車は頗る速かに、やがては一刻毎に、展開し來る一帶の山科の盆地、東山の餘派なる稻荷山は右に高く、その麓を掠めて、稻荷驛に至れば、東北に開けたる瓦甍は鱗の如く、東山の蜿蜒たる翠微の下、日にかゞやける粉壁の美しき、これ、わが桓武天皇延曆十三年より今帝まで千七十餘年間の長き歳月、わが歴代の帝都たりし

京都盆地

京都の市街にして、これに對すれば、其の風光の秀麗なるに樸たるゝと共に、この狹き盆地に織り込まれたる種々なる歴史の追懐の情に堪へざるべし。やがて見ゆるは、東山の翠微を貫きて立てる豐公廟八阪の高塔三十三間堂の殿堂、左には日本第一塔の稱ある東寺の塔高く聳えて、續きて見ゆるは、東西本願寺の大伽藍。名祠古刹蓋し應接に遑あらざるものあらん。

京都市

京都市は山城盆地の北端に位し、東西凡そ二里、南北凡そ一里半、面積約二方里一分弱にして、上京・下京の二區に分ち、中に市坊の數千六百八十九を包含せり。戸數約七萬二三千人口三十五萬三千餘を有し、本邦第三の大都會なり。

市の地勢

地勢は平坦にして、所謂東は比叡山脈の南に延びて走れるもの、先づ如意嶽の山脈をなして、鹿ヶ谷・南禪寺に至り、蹴上附近より更に別れて南に走り、粟田口・清閑寺・今熊野等を經て稲荷山に終り、此主脈に並びて鹿谷・南禪寺の西に、吉田山(神樂岡)の一小丘を起すを見る。南は紀伊・葛野二郡の北部に連り、西は大内・七條・朱雀野の三村に接して葛野郡に迫り、東北は鴨川を隔てゝ、愛宕郡の一部と相臨み、北は直に同郡の鞍馬山方面に接す。市街整齊にして、繁華と閑雅とを併有するの地、本邦この右に出づるのものあるを見ず。

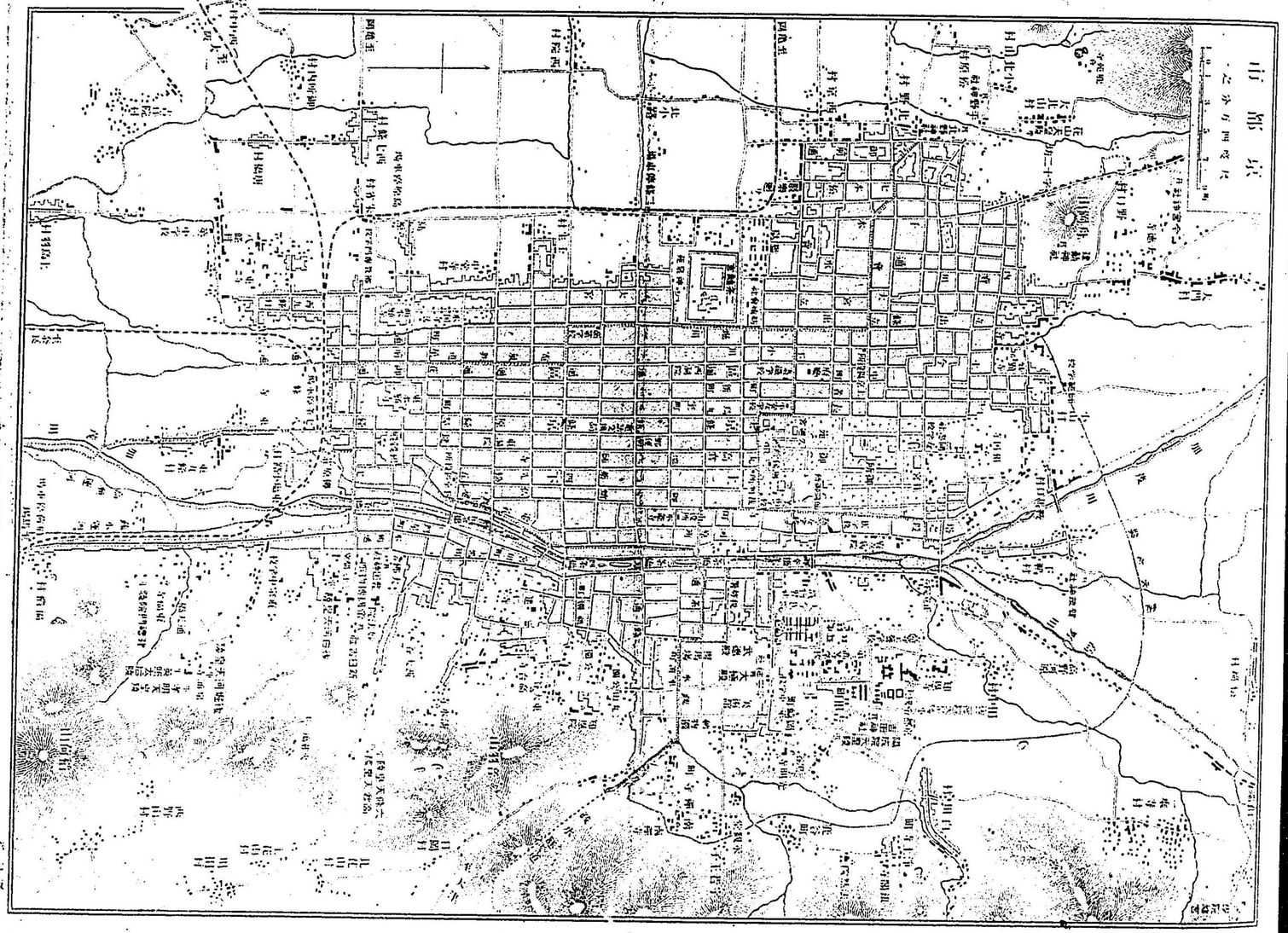
市街區劃の今昔

往昔桓武建都の時にあつては、南北の間大路を設くること九條、小路を布くこと三十にして、大路の最北端にあるものを一條と云ひ、最南にあるものを九條と爲し、現今の千本通を朱雀大路と稱へて、其以東を左京と名づけ、以西を右京と稱し、共に十五條の街路を布き、西は殆ど現時の西山に及び、東は今の寺町を以て京極と爲し、街衢の整然たる、猶ほ現時に勝るものなりしも、其後厭兵癖にかゝり、天正十八年に至り、新に封疆を築きて京極を東極とし、朱雀及び紙屋川を西極とし、南は九條北は紫野に至るの地を京都と定めぬ。是に於て舊時の右京は多くは郊外となりて、却つて一條通以北に數條の街路を新開し、以て現時の武者小路今出川今小路上立賣の諸街を爲せり。天正以後、街衢の區劃大差なく、唯、七條以南を田圃に委したると、京極以東鴨川を越えて、幾多の繁華なる市街を構成したるとは大に舊態を改めたるものと言ふべく、淨土寺・鹿ヶ谷・岡崎・吉田・聖護院・粟田口・南禪寺等の諸邑漸く開けて、中にも京都帝國大學等の設立せらるゝに至りしは、大なる進歩と言はざ

るべからず。今や帝都既に東に遷り、痛く往時の繁華を減じたりと雖も、皇居は今猶舊内裏に保存せられ、大嘗會等の大典は特に此地に擧行せられ、二條・桂・修學院等の離宮所々に點在して、帝室の殊に愛護せらるゝあり、依然としてよく副京たるの實を存せり。之れに加ふるに、山水秀麗、風俗優雅、歷史上の古蹟至る處に遍ねきを以て、遊覽の客常に絶ゆることなく、且、本願寺其他諸佛敎の本山の概ね此地にあるあり。巡禮の來り賽するもの數十萬に達すといふ。ことに、近來工業・商業に力を致すもの漸く多く、織物の本場なる西陣は愈〻特色なる産品を製織し、陶器の主産地たる清水・粟田口また優等なる逸品を出して、名聲昔日に倍蓰せり。且、近來本市在來の自家工業の外に大製造場を設け、絹布・繻子の外に、モスリン・綿ネル等の工業また頗る發達し、其産額頗る侮るべからざるものあるに至れり。

市は里數起算の元標を三條橋畔に置き、これより各地方に達する道路は四方に輻射し、東、粟田口・蹴上に向ふを東海道と爲し、南、稻荷を經て伏見に至るを奈良街道と爲し、西南、八條より向日町に出づるを西國街道を爲し、

市の里程元標



七條より岡に出づるを丹波街道と爲す。官線の京都停車場は七條にありて、頗る大驛を成し、その建築また壯大にして、乘客の昇降日夜絶えず。且、奈良鐵道・京都鐵道また皆その發端驛を置かざるなく、市の交通は全くこの一角に向つて集中するを見る。就中、京都鐵道は七條を出てゝより、一直線に市の西部近郊を掠むるを以て、其沿道に、島原・二條・花園の三停車場を置き、西山遊覽に至大の便を與へたり。且つ、電氣鐵道はこの市に於て其の創始頗る早く、明治二十七年に於て、輕便なる電車の既に鴨川附近の道路を走るを見たり。近年、又更に西線を起し、七條より西洞院通を北に向ひ、四條大路に至りて西折し、堀川通に至りて又北折し、御所の南方、下立賣通に至りて、東線に合し、共に北走し、また西走して、以て北野天神に達して止まる。車輛多く、交通頻繁にして、頗る便なり。官衙及び公衙には京都府廳・京都地方裁判所・京都市役所・府立病院・監獄署等あり。學校は京都帝國大學を始めとして、京都高等工藝學校・市立醫學專門學校・市立美術工藝學校・市立京都商業學校・第三高等學校・師範學校・中學校等あり。其他私立には京都同志社・佛教大學等あり。

市下の鐵道

電氣鐵道

官衙・公衙

御苑

皇居

今、御苑を中心にして、仔細にこれを記せん。

京都御苑は市の中央北部に位し、昔時は堺町・下立賣・蛤・中立賣・乾・今出川・石藥師・清和院寺の九、御門を以てこれを圍み、竹園清華の邸門依々として相望みしも、維新後は大抵これを撤却し、更に蛤御門・乾御門・右藥師御門等を移して其の地域を擴め、長方形をなせる地に、青芝を植え、康衢を通じ、花樹を分栽し、清泉を引き、池水をたゝへて、以て今日の御苑を成せり。其外廓東は寺町通に起り、西は烏丸通に接し、南は丸太町、北は今出川、その面積二千五萬坪餘あり。皇居は其中央にありて、南面せる建禮門（第四十二圖甲）東面せる建春門、西面せる宜秋門、北面せる朔平門を四方に有せる長き墻壁を以て之れを遶らし、更にその內廷に、承明門・日華門・月華門・左掖門・右掖門ありて、中に紫宸殿・清涼殿・宣陽殿・常御殿其他無數の宮殿は深宮と相連りて、鳳鳴鱗翔の庭を爲すと雖も、紫雲深くして、草莽のこれを記すべきにあらず。現時の御所は孝明天皇の御宇、安政元年の炎上後、同二年の造營にかゝり、其地域東洞院より舊万里小路に至り、應司より一條に及び、東西百三十七間、南北二百

砧の井

相國寺

四十六間餘とす。其東南に仙洞御所あり。林泉の美、時に衆庶の拜觀を許さる。西南には久邇の宮、北には桂の宮あり。桂の宮の東に殘れる祐の井は、至尊が御產湯の井として頗る名あり。久邇宮の南に白雲神社あり。御苑の東南隅には京都博覽會場・京都美術工藝學校あり。其西に隣りて測候所あり。其他、舊九條家・近衞家の林泉は其舊觀を改めず、御水尾天皇遺愛の車返の櫻、後光嚴天皇遺愛の紅梅等時に逢ひて愈榮え、鴨川を引ける御溝の水は美しくこの苑中を横流して、一木一草、皆歷史を思ふの情を起さしめざるなし。

御苑の北に沿ひ、大なる洋館あり、二三相連れるを見る。これ、曾て關西學界に雄翔を稱せし同志社（第五十四圖甲）なり。此の北に相國寺あり。臨濟宗にして五山第二に位し、足利義滿が後小松帝の勅を奉じて經營せしもの、寺院樓閣頗る見るべきものありしも、應仁の亂、東西兩陣必爭の巷となり、全く兵燹に歸したるは惜むべし。境內に、豐光院・足利義政・藤原惺窩墓あり。老松古樹、遶らすに竹林を以てし、幽靜閑雅、頗る禪味に富めり。更に、御苑の西側に戾り、長者町を西に進めば、京都府廳あり。（第四十四圖甲）壯麗なる煉瓦造

四隅の織物

にして、又、一街を隔てゝ染織學校あり。西陣と稱せる地は、應仁の亂、東西兩軍が堀川を界として相對峙したるより起れる名にして、今猶、堀川より西北を西陣と稱す。此地は市の重要なる工業織物の主産地にして、其名は世人皆これを唱ふ。此一區、商廛工場相並び、織屋に隣りて糸屋あり、染屋に連りて練屋あり、人をして京都織物のいかに隆盛なるかを思はしむ。ことに、美術工藝品に於て、近年更に新機軸を出し、新意匠を加へ、世界の賞贊を博するに至れるを以て、其名聲更に一段の隆盛を添へたり。（工業の部參照）

寺町通

御苑の東側に戻れば、京都醫學專門學校あり。附屬病院あり。高等女學校あり。南に回れば丸太町に裁判所あり。寺町通は繁華なる縱街路にして、一條の附近に、御靈神社・一條革堂あり。市役所（第四十五圖乙）は二條通より南方寺町通を東に入りたる上本能寺前町にありて、構内に府會及び議事堂を包み、外觀甚だ美なり。その前を東に突當れば、宏壯美麗なる京都ホテルあり。二條通を一直線に西に向へば、其の盡くる處に、二條離宮及び神泉苑あり。二條離宮は即ち舊二條城（第四十圖丙）にして、慶長七年、德川家康これを築造せるもの

二條離宮

神泉苑

の是なり。維新後暫く京都府廳を此處に置きしも、今は宮内省の所屬に歸して、離宮となりぬ。二條堀川の西に面し、そこに聳ゆるの樓門を正門と爲す。老松二三此間に點綴し、白堊壁塀然として聳え、また市中の大觀を爲せり。ことに、其建築は德川時代の粹を凝し、壯嚴人目を驚かすものあり。神泉苑は離宮の南少許の處にありて、綠樹清風、池水碧漣をたゝみて、自から一別天地を爲せり。苑は一千年前平安宮造營の時のまゝにして、今日にして當時の俤を保てるものは、市中唯この一神泉苑あるのみなり。舊時は境内甚だ廣大なりしも、建保の頃、全く大廢し、また、荒蕪に歸せんとせしを、元和年中、僧寛雅、幕府に乞ふて、其一部を保存し、小祠を建て、舊跡を存し、眞言の精舍となして、以て今に至れるなり。此處を出てゝ西に進み、京都鐵道の線路に少許かほど添へば、朱雀村聚樂廻りに至る。これ、平安舊都大極殿のありしところ、今はその髣髴をだに止めずして、全く賈人往來の巷となりしを、明治二十八年、京都奠都千百年祭を擧行せし時、舊記によりてその舊址を考定し、一大石碑を建立して以てその紀念とせり。この附近に、監獄署

平安舊大極殿址

三條通

あり、その東に、紡績會社あり。本能寺は織田信長が其臣明智光秀の爲めに弑せられしところ、寺町通二丁目にありて、前に記せし市役所と相近接す。法華宗にして、本堂の東に織田信長塔あり。三條通は三條大橋より市の西端二條停車場に至るの緯路にして、寺町の經路と相交叉するの邊、尤も繁華を極め、旅店の高厦は美術廛雜貨店等の商戸と相櫛比し、其のさま恰も東京の小川町通に似たり。新京極はこれより東に入ること半町、三條通より四條通に至るの間にありて、寺町の繁華と一路を隔てゝ相並行し、小劇場あり、興行肆あり、露店あり、正に是れ東京の淺草、大阪の千日前に相匹すべし。三條通と東洞院の一角には郵便局電話交換局あり。市下通信の中心を爲せり。

新京橋

三條大橋

三條大橋は鴨河に架し、長さ五十六間、幅四間餘にして、欄干の擬寶珠は皆金銅を以てこれを造る。橋、遠く比叡山の翠微に接し、眉を擧れば、如意ヶ嶽の大文字翠嵐と共に來りて眼睫の間に迫る。橋畔に、里程起算の元標あり。）この附近、新京極に、誓願寺及び蛸藥師錦天滿宮あり。四條通は其南にありて、三條通と共に、京都屈指の繁華區を以て稱せらる。四條大橋は鐵橋

四條通

四條大橋

四條の納涼

にして長さ五十四間、幅四間、鐵欄の上高く八基の街燈をかゝげたり。橋西・橋東、絃歌の聲湧くがごとく、東山の蜿蜒たる翠微、清水・祇園・八阪の樓閣參差として來り集り、宛然一幅の畫圖の如し。毎年夏季凉棚を鴨川の磧上に設け、縱横幾條の小市街を爲し、毎夕薄暮より軒頭各〻燈光をかゝげて、遊客の至るを待ち、喧々囂々、午夜に至る。これ即ち有名なる四條の納凉にして、また京都の一特色なり。堀川通に商業學校あり。佛光寺は佛光寺通にありて、一に是を佛光寺門跡と稱し、眞宗の別派本山を爲す。東本願寺（第五十九圖）は烏丸通七條上る常葉町にあり。眞宗の本山にして、開祖を敎如上人と爲す。當寺屢〻回錄の厄あり、現今の堂宇は明治二十八年の竣工にかゝり、東向にして横三十五間、竪三十二間、高十一間餘、宏壯偉大京中に絕す。境内に大師堂・鐘樓・大小寢殿・白書院・黑書院・能舞臺等あり。其東數町を隔てゝ枳殼殿あり。本寺の別邸にして一に涉成殿と稱す。殿舍林泉の美を以て稱せらる。西本願寺（第五十九圖）は數路を西に隔てゝ相並立し、堀川通花屋町南入本願寺門前町にあり。眞宗の大本山にして、我國宗敎界に於る一大重鎭なり。開祖は親鸞上人

東本願寺

西本願寺

にして、其堂宇また甚だ偉大、横二十三間半、竪二十一間半、高十三間、其傍に眞影堂あり、中に見眞大師の座像を安ず。境内、鐘樓あり、水吹銀杏樹・語合松あり、白書院・黑書院あり、殊に、有名なるは飛雲閣にして、豐臣秀吉が聚樂邸の遺物にかゝり、その四脚門は檜皮葺にして彫刻精緻、傳へて左甚五郎の　と稱す。共に今、特別保護建築物の一なり。この北に隣りて法華宗の本山本國寺あり。綾小路に、壬生寺あり、其東北に空也堂あり。この下京區一帶の地は、かくのごとく佛敎の本山名刹に富めるを以て賽者陸續として來り集り、從つて其巷頭小旅店・小商肆相連り、袈裟僧衣・線香・佛書等を鬻ぐの家相連なれり。毎年、冬期御命講あるや、信徒麕至、殆ど立錐の地なしと言ふ。これより南して、七條を過ぎ、鐵道線路を過ぎて、八條より九條に至れば、東寺通の盡頭に、敎王寺の一巨刹あり。東寺又は左寺と稱し、嵯峨天皇の弘仁中、僧空海が東鴻臚館を請うて創立せし處、今の伽藍は豐臣秀吉より德川家光に至りて竣成せるもの、總門・金堂・講堂・觀音堂・大師堂等あり。境内の巽位に聳立する五重塔（第四十一圖乙）は本邦第一の高塔にして、高さ三十五間、

東寺

平安舊都羅城門址

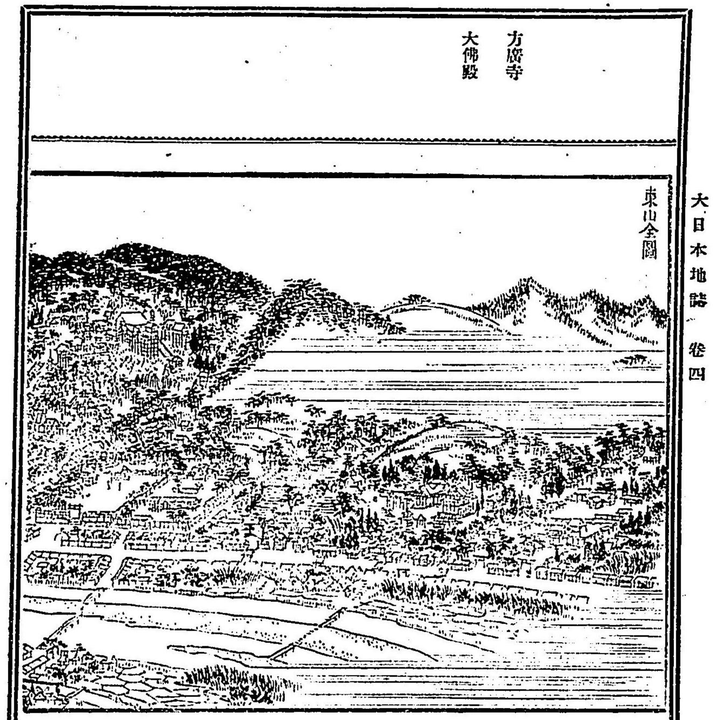
建造は寛永中なり。南大門を出でゝ西すること約四町、羅城門の舊址に達す。羅城門は平安城の南總大門なりしを以て、當年にありては結構壯麗、必ず王城鎭護の宏美を盡したるものなりしならんも、今や一瓦片礎の認むべきなく、市街盡きて民屋蕭條たる邊、只朱雀大路の坦とし北に馳するを見るのみ。誰か徊徊せざるものあらんや。其南八條村に第二中學校あり。

東山方面

建仁寺

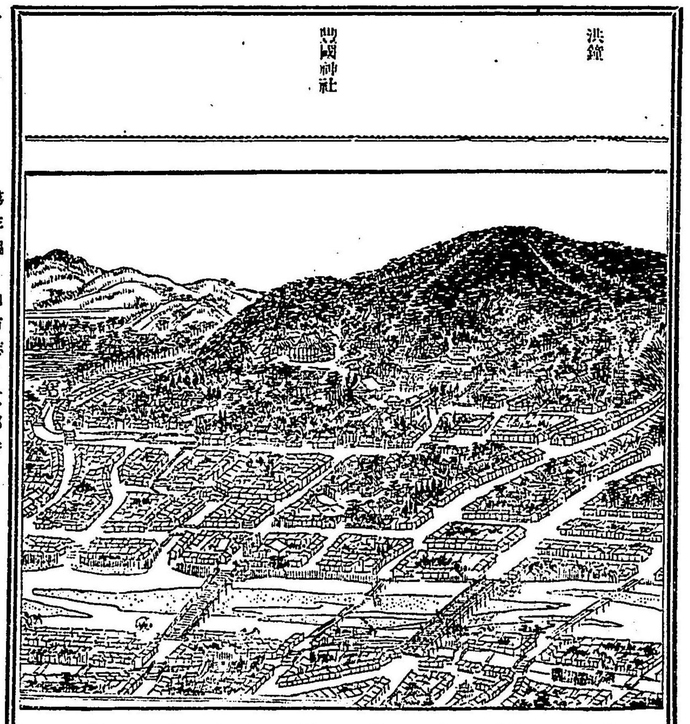
いざ是より東山に登りて觀光を縱にせんか。先、四條の大橋を渡りて東に向ひ直に南に折れ伏見街道を下れば建仁寺あり。五山の第三に位し、土御門天皇建仁二年源頼家此地を寄附し、全三年を以て造營せしもの、天文の火災によりて、今はその痕跡をだに留めず、惜むべし。この東西一帶の地は、所謂平家重代の館宅を置きたる六波羅の地にして、平家物語に『南は六はらが末賀茂河一町を隔て、元は方一町なりしを、此相國の時造作あり、家數百七十餘宇に及べり。是のみならず北の鞍馬路より始めて、東の大道を隔て、小松殿まで廿餘町に及ぶ迄造作したり。眷屬の住家こまかに是を數ふれば二千二百餘家云々』と記せるは即ち是地なり。地に六波羅密寺あり。東向にして、十

六波羅



（其一）

往昔置す。他に、平清盛の像あり。これより南すれば、數町にして方廣寺に達す。有名なる大佛殿の地にして、建仁寺町通り馬町南に位し、五條通と七條通との間にあり。天正十四年豐臣秀吉が東都二十一ヶ國に役して創建せし所、壯宏なる舊殿は潰えて成らず、當年の大佛また全圖寬政落雷の災に逢ひて、今は僅かに不作法なる半體の木像に當時の面影を存する

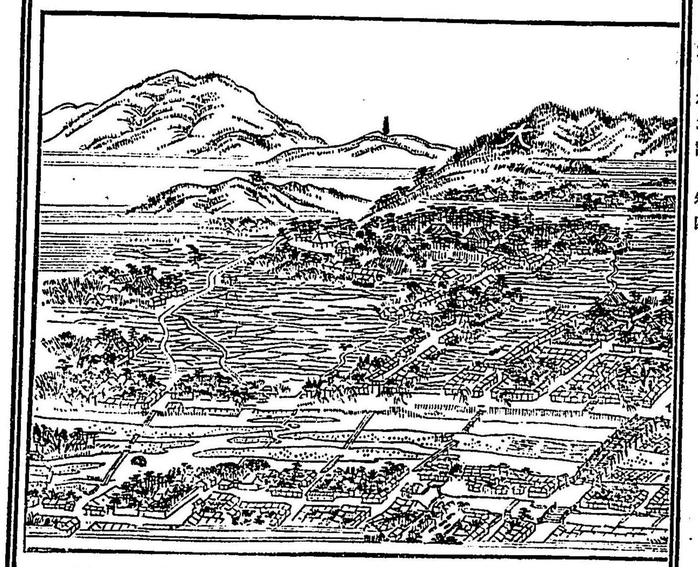


（其二）

（都名所圖繪所載）

のみ。堂の前に鐘樓あり、其洪鐘は豐臣氏末路の歷史を繙く者の皆熟せる所、高さ一丈四尺、徑九尺二寸、厚九寸、かの君臣豐樂國家安康の銘は、猶明らかに之を讀むを得べし。豐臣秀吉の靈を祀れる豐國神社は、今、堂宇瀟洒、境に一塵を留めず、本殿・拜殿、遠らすに瑞垣を以てし、其唐門は伏見城の城門を移してこれを造り、彫鏤見るべきものあり。これを維新前、一基

阿彌陀ヶ峯



（其三）（今日繁華の光景と相參照すべし）

の石碑のさびしげに榛莽中に殘れるに比す、神、靈あらば、地下にまさに聖代の恩澤の篤きに感泣するなるべし。今、別格官幣社たり。秀吉の骨を埋めたる阿彌陀ヶ峯（第三十九圖乙）はこれより一路坦として東に向ひ、數百級の石階高く聳えて、上に五輪の大石塔を安置せるを見る。大佛門を出づれば、左側に耳塚あり。傳へ言ふ、文祿征韓の役、諸將敵の首級を獲る數萬、即ち耳を切

三十三間堂

泉涌寺

歴代御陵

東福寺

りて、監軍の實檢に備へしもの、後、醢にして秀吉に献ぜしを更に此地に埋めしめたるものなりと。五輪大石の塔にして、塚高さ三間許、二丈餘の石塔其上に立てり。それと一路を隔てゝ京都博物館あり。此附近、智積院・妙法院の諸刹あり。其三十三間堂（第七十九圖乙）は後白川天皇の勅願にして、平忠盛これを奉行したるもの、堂、東向、南北六十六間、二間を隔てゝ一柱を立つ、これ、其名を得たる所以。堂内佛像多く、櫺間通矢（トホシヤ）の扁額を掲ぐ無數、此堂の大矢數の射場として名を得るに至りしは、新熊野觀音寺の別當栂（トガ）の坊射術を好み、此處に其的場を築きたるに始まる。附近に、新熊野社及び新熊野觀音あり。泉涌寺はそれより東に折れたる一路の盡くる處にあり、佛殿の西南、崖下に清泉涌出し、清澄玲瓏眞に靈あるを覺ゆ。寺名これより起る。寺畔四條天皇以降、歴聖御陵の靈域あり。孝明天皇後日輪御陵は實に此寺背の丘陵にあり。英照皇太后の陵また此地にあり。拜し終りて、再び伏見街道に出て、猶南に進めば、路傍に萬壽寺あり。五山の第四なる東福寺は早此處より遠からず。山門には、扁額あり。足利義持の筆なり。寺に、多くの寶物を

滅す。この寺の後庭、一溪を爲し、これに架せる橋を通天橋といふ。(第七十七圖乙)紅葉の名所として此地に名高し。秋季繡錦の美はまことに捨つべからずと雖も、境、都に近くして俗氣多く、到底かの高尾・栂尾の滿山是れ紅葉、滿溪これ紅葉たるに若かず。東福寺の東、十町餘、稻荷神社あり。社域稻荷山に據りて頗る廣濶、本社・若宮・拜殿等甍を並べ、宏壯なり。近畿地方の流行神として名高く、茶店軒を接し、四時賽者絶えず。路傍、伏見人形を販賣するもの多し。官線東海鐵道の稻荷驛は本社の華表の前に位せるを以て、賽者の便を得るもの尠からずといふ。

更に踵を旋らして、大佛門前より西大谷に至れば、五條橋通東端に大谷本廟あり。本派本願寺の祖廟なり。これより勾配緩なる長阪をのぼる、兩側には陶器肆を重もなるものとして、旗亭、雜貨舗等兩傍に相ひ並び、顧客を呼ぶの聲、街頭に遍ねし。その登り果てたる處清水寺あり。(第七十九圖甲)法相宗興福寺の所轄にして、本尊十一面千手千眼觀音大士は流行佛として頗る著名なり。傳說に言ふ、大和の僧延鎭、常に觀音の兜を持し、苦修難行すること積

清水寺

清水の舞臺

年、寶龜九年、靈夢に感じ、木津川を泝り、草庵を結ぶ。白衣の居士あり、告げて曰く、我は行脚なり、汝を待つこと久し。汝宜しく一寺を建てゝ、觀世音を安置すべしと。延鎭、阪上田村麻呂に請ひてこれを建て、延曆三年今の地に移し、後、寺名を音羽山清水寺と稱し、歷世の天皇を始め、德川幕府また甚だこれを尊崇せり。今の本堂は寛永十年德川氏の造營にして、特別保護建造物たり。有名なる清水の舞臺は此一部にして、高く絶崖によりて架し、よく市の大部を一眸の下に集め、前には愛宕の高峰、兩本願寺の伽藍、東寺の塔等高く十万の瓦甍の上に聳えて、其眺望の開豁なる、思はず人をして快哉を連呼せしむ。況んや西南一帶、官線鐵路の行衞を見送れば、盆地の一角、山崎の狹隘を隔てゝ、遙かに淀川の白帆を望み、秋晴にはよく大阪市の烟突を望むを得べしと言ふに於てをや。相對せる丘陵に、一小瀑あり、潺湲として落つ。清冽掬ふに堪へたり。これ音羽の瀧なり。これより來路を經て下るに、路の兩側には、清水燒の陶器をならぶる肆店多く、幹山の名聲また此處にあり。清水燒は初め京燒と稱し、其濫觴頗る古く、中頃中絶し、近年また

音羽の瀧

清水燒陶器

甚だ隆盛の域に進めり。（工業參照）阪の中腹を右に折れば、八阪の塔あり。五層にして、其の構造また凡ならずと稱せらる。この北に、高臺寺あり。豐臣秀吉の夫人高臺院秀吉の冥福を祈らんが爲めに創建せしもの、開山堂は柱楹藻繪を極め、天井は政所高臺院の車蓋を用ゐしとて、亦頗る絢爛を極めたり。開山堂の東山の上に豐太閤及北政所廟あり。其の附近に維新の名士たる木戸孝允・坂本龍馬の墓あり。八阪神社は祇園町の東端に位し、四條大路はこれより西に長く通ぜり。祭神は素盞雄尊及び稲田姫にして、官幣中社に列し、毎年六月例祭あり、これを祇園會と稱し、この繁華雜踏他に見るべからざるものありといふ。寶什中の木造狛犬は運慶の作と稱し。國寶の一なり。八阪神社より東方山に據るの地を圓山公園と稱し、白壁の洋館相連り、園の入口は祇園櫻の古樹の絢爛の趣を盡したる、此地の特色と稱するに足るべし。此附近旅館多し。又地に、双林寺及吉水辨天あり。これより眞葛ヶ原を經て、北に向へば、松翠櫻花と相點綴するの邊、一大寺門の路に臨んで聳立するを認む。仰げば、門額に華頂山の三字を刻し、一見、名刹知恩院たるを知る。此

八阪神社

知恩院

寺は淨土宗の總本山にして、開祖は法然上人、創建の時代は建永年中なり。火災・變亂・興廢常ならざりしと雖も、德川家康の時に至り、規模は更に大に、金・大伽藍たるの資格を備ふるに至れり。境域四萬餘坪、今、猶東山第一の巨刹なり。山門は西向にして、德川秀忠の建立する所にかゝり、樓上には寶冠の釋迦佛以下の佛像を安置す。今、特別保護建造物たり。本堂は南向にして梁行十九間・桁行二十四間、市下屈指の大寺にして、正面にかゝげたる大谷寺の額は、後奈良天皇の宸筆なり。堂に上れば、中央なる厨子に圓光大師自作の影向を安置し、室内の宏壯なる、思はず一種の感を起さしむ。同堂の東南隅に置かれたる所謂知恩院の傘なるものを見、本堂の背後より廻廊を度れば、直ちに衆會堂方丈に至る。其の椽、俗に鶯張りと稱し、一歩毎に音あり、宛として流鶯の囀ずるがごとし。左甚五郎の作と稱すれど、如何にや。衆會堂は俗に千疊敷と稱し、正面に阿彌陀佛を安置し、大方丈・小方丈のこれと相ひ連るもの無數、德川家光の經營にして、其の結構美なり。各室の襖また狩野諸大家の畫くもの多く、林泉は小堀遠州の經營するところ、中に、家光の手

種と稱する姫小松一株あり。東南の山上に、鐘樓あり。中に巨鐘を掲げ、四月の御忌の大法會を期してこれを撞く。この御忌には、京洛の士女綺羅を競ひて集り來り、その美觀たとふるにものなし。これを御忌の衣裳くらべといふ。經藏は特別保護建造物にして、本堂の東南にあり、宋版の一切經を藏す。勢至堂は經藏の東北より石階を上り左折して達す。また保護建造物の一なり。什寶中、國寶となれるものは、法然上人繪傳四十八卷あり。

青蓮院

知恩院を去りて北に向へば、青蓮院あり。一に粟田御所と稱し、本願寺の所屬なり。寶器珍什多く、林泉また美なり。其西方の山上に花園天皇の御陵あり。

粟田燒陶器

粟田口は三條通白川橋東より蹴上に至るの稱にして、東國より京都に入るの門戸を成せり。此附近は有名なる粟田燒の產地にして、陶器店左右相連り、各種の陶器を製す。錦光山の名窯、此地にあり。粟田山の半腹に、粟田神社あり。土地高燥にして、京都市街東北の一部を望み、比叡の連山、下には大極殿武德殿の壯麗なる諸建築等皆一眸の下に集り、風光甚だ美なり。此處を去りて、東すれば、蹴上に出づ。

運河

運河は近江國琵琶湖の水を疏通して、これを京都に落し、其水力を利用し、同時に舟運の便を開けるもの、こは、時の知事北垣國道の發起に出て、田邊工學博士主としてこれが計畫に當り、明治十八年八月工を起し、廿七年九月に至りて工を竣はる。其水口は琵琶湖の西岸大津三保崎にして、一里の隧道、直ちに蹴上に達し、是より分れて二線となり、幹線は急傾斜を以て二條の大鐵管に入り、水利工場を經て、インクラインの下に落ち、西に折れて、鴨河の運河に達す。支線は蹴上より再び隧道に入り、南禪寺の背後に出て、鹿ヶ谷白川を經、西折して、市の北部を遶り、堀川の上流小川の頭に至る。

南禪寺

南禪寺はこれを去る纔かに一町、松並木の中、遙かに總門を望む。寺は臨濟宗の本山にして、弘安年中の開創なり。總門より三町餘にして中門あり。中門の隣に、勅使門あり。山門は中門の北東にあり、天下龍門と號し、樓を五鳳樓と稱す。寛永四年、藤堂高虎の再建なり。山門の東に佛殿址あり。明治二十八年、燒失後、未だ再建せず。特別保護建造物たる大方丈はその東にあり。慶長十六年、德川氏皇居造營に際し、後陽成天皇より清涼殿を下賜せられしものにして、即ち、豐臣氏が天正年間

に造營せし宮殿の一部なり。襖に、名家の畫多し。庭は小堀遠州の意匠に成り、名けて虎の子渡しと稱し、布置自から雅致に富めり。其他、域内に、南禪院・天授院・聽松院あり。金地院は寶物に珍品多きを以て知らる。また、鐘樓あり。これを出でゝ、東北に進めば、一二町にして、永觀堂に至る。堂は如意山下にありて、一に禪林寺と稱し、淨土宗西山派に屬せり。開基は眞紹僧都にして、文德天皇の齊衡二年なり。本堂・祖師堂・客殿・經藏・方丈等あり。されど此寺の有名なるは、名刹としてよりは寧ろ勝地としてにありて、通天橋と共に、紅葉の名所なり。庭内辨天の池をめぐりて、櫻楓駢植し、秋時は繡錦の美、頗る賞つべからざるものあり。これを以て、遊客甚だ多し。この附近に、後醍醐天皇の皇子尊良親王の墓あり。

永觀堂

更に粟田口に戻り、疏水に架したる橋を渡れば、平安神宮（第五十八圖甲）の宏麗偉大なる諸建物は、忽ちにして眼中に映じ來る。こは、明治廿八年、平安奠都千百年祭に際し、新に桓武天皇を祭たる所、今、官幣大社たり。神宮中、應天門・大極殿は建築頗る偉麗なり。神宮の門前、右に京都動物館あり。近

平安神宮

づくや、先づ應天門。門、南に面して立ち、桁行六十尺、梁間廿四尺、高さ六十四尺、土壇の上に建てられたる二層樓にして、階上椽をめぐらし、椽に朱欄を設け、組物に塗るに、總て丹朱を用ゐたり。屋根には碧瓦を葺き、鴟尾を附し、上に、應天門の三字の大額を掲ぐ。龍尾壇は應天門の北に位し、其北に、大極殿あり。南向にして、桁行百十尺、梁間四十尺、高さ五十五尺、土壇の上に建つ。五十二の丹楹整然として相連り、朱欄あり、石階あり、頗る精彩を極む。屋は鮮麗なる碧瓦にして、棟の兩端には、金銅の鴟尾、燦として相輝く。殿の左右に步廊長く通じ、其の終端各一箇の高樓あり、東を蒼龍、西を白虎といふ。規摸すべて、往古の大極殿に摸したるもの、これを特に見るべしとなす。起工は明治廿六年十一月、二年にして全く工を竣ふ。其他、神饌所・神庫・社務所等あり。神苑には二大池を穿ち、樹石の布置、頗る趣致に富み、懸泉あり、花卉あり、茶亭あり、瀟洒全く紅塵を絶す。ことに其一部には萩を栽培し、花時は市中この右に出づるものなしと傳へらる。ことに、遊客の心を惹くは、この神宮の境内のすべて清洒なることにして、地に

は一面の白川砂を布き、四面、皆翠微翠嵐、京都の偉觀と稱するも決して遜美に非ず。大極殿の西に、武德殿あり。武德會の建設になれる演武場にして、明治三十二年三月の竣工なり。假本殿は南向にして、桁行三十間、梁間十五間、二層瓦葺の建築なり。內部は正面を玉座と爲し、中央を演武場と爲し、建築頗る宏壯偉麗たり。境內、競馬場游泳場狹窄射擊場等あり。大極殿の東に、古美術品展覽會あり。これより、人家稍疎なる岡崎町を過ぐれば、黑谷の地に、淨土宗の巨刹、光明寺あり。石壇を上れば、廣濶なる寺域の裡、佛閣散在し、自然の翠色後をめぐりて、境淨く苔滑かに、唄音經聲頗る胸臆に泌す。本堂の中央に圓光大師の像を安置し、堂前に蟠踞する一株の老松を熊谷直實の鎧懸松といふ。附近に、熊谷堂あり。眞如堂は光明寺の北に接し、天台宗にして、正曆三年戒算上人の開基せるところなり。これより新道をたどり、陽成天皇神樂岡東陵、後一條天皇菩提樹陵等を拜し、吉田の地に入り神樂岡に登りて下瞰すれば、脚下に巨大なる洋館、前後相連るを見るべし。こゝは、市の教育區とも稱すべく、關西の學覇を司れる京都帝國大學（第四十八

光明寺

市の教育區

圖）を始めとして、第三高等學校（第五十一圖乙）京都高等工藝學校（第五十圖乙）府立第一中學校（第五十二圖乙）大學附屬醫院等瓦甍相望あり。大學は法科・文科・理工科を置き、其設備漸く完全し、學生また甚だ多し。これより丘腹に吉田神社に詣で、冷泉天皇櫻木陵を拜し、猶進めば、一里餘にして、銀閣寺（第七十六圖甲）あり。寺は鹿谷の正北に位し、また洛外の一勝地なり。こは足利義政閑棲の地にして、義滿が金閣にならひてつくりたるもの、されど未だ銀を貼するに及ばずして甍し、其後、遺命によりて、寺と爲し、慈照寺と稱す。東求堂・弄清亭の圖あり。林泉の美、茶室の數奇は更にも言はず、繪畫・茶器のすぐれたるもの甚だ多し。石川丈山の詩仙堂は一乘寺村にありて、是より猶一里餘を隔てたり。修學院は山端の東にあり。後水尾天皇離宮の舊址にして、今、宮內省御用邸たり。林苑分ちて上下の二とし、下苑に疇月觀・藤六庵等の亭榭、上苑に隣雲亭・止々齋・窮邃軒の亭榭あり。林泉の美容易に狀すべからざる者ありといふ。

街道を南に下り高野川を渡り蟬の小川を泝れば、下加茂神社は最早そこより遠からず。糺の森の翠色は中に古式なる神祠を藏して、其境の淸酒にし

銀閣寺

て趣致に富める、詣てずして既に襟懐の淨められたるを感ず。延喜式内の大社にして、創祀は、欽明天皇の御宇、社殿御造營は白鳳五年なり。延暦奠都以降は山城國の產土神として、朝廷の崇敬厚く、今、官幣大社たり。一鳥居を過ぎ、二鳥居を入れば、正面に樓門あり。檜皮葺にして、丹艧を施し、左右に四廊を繞らす、これを入れば舞殿あり。其左右に、勅使殿・細殿・橋殿あり。其奥に、本殿あり。殿は南面して立ち、丹艧粉碧を以てこれを彩し、燦爛殆ど人目を眩せしむ。御手洗池には、清水湧出し、その透徹せること瑠璃のごとく、これに加ふるに、巨樹蓊鬱としてこれを掩ひ、幽致言ふべからざるものあり。上加茂神社はこれより猶北すること二十町、上加茂村に鎮座せる官幣大社にして、下加茂神社と共に、桓武帝奠都以前夙に鎮座せし古祠なり。殿堂の宏麗なる、境内の幽邃なる、多く前者に讓らず。ことに背後は御生（ミアレ）の翠巒を負ひ、前に一帶の清溪御手濯川をめぐらし、其境の遠く俗氛を絶したる、詣者をして自から神威の高きを覺えしむ。此兩社の葵祭は（第四十三圖後段）古式を用ゐたる有名なる大祭にして、禮儀の嚴なる、祭典の備れる、頗る觀

下加茂神社

べきものあり。祭日は昔は四月十五日なりしが、現今は改めて五月十五日と爲せり。其起源は古く欽明天皇の御宇に濫觴すと云ふ。上加茂より市原野中を經て鞍馬に至れば、鞍馬寺あり。山は京都北方の名嶽にして、三條大橋を距ること三里、寺は其山上にあり。寺の左方より猶登攀すること十三四町にして、一老杉天に冲し名づけて御杉と言ふ。傳へて天狗の棲處と爲す。義經春競石は上方の峯に立ち、不動堂は御杉の下方四五町にあり。僧正谷には源義經の幼時劒を天狗に學びし古蹟あり。（第七十八圖甲）これより二十四五町貴船に官幣中社貴船神社あり。

下加茂より西に迂回し、出雲路橋を渡れば、小山村に、京都府師範學校あり。舟岡山は平野の中に特立せる一小丘にして、其東の半腹に、建勳神社あり。織田信長の靈を祀り、拜殿の楣間、功臣三十六名の事蹟を錄せる扁額を掲ぐ。創建は明治二年、別格官幣社に列す。境内は高雅清爽にして、殿後の丘上は、眺望ことに佳なり。丘の北方紫野に大德寺の巨刹あり。後醍醐天皇の朝、これを搬建し、一休和尚これを再興せしもの、今、臨濟宗の大本山た

建勳神社

り。總門は魏然として東向して立ち、これを入れば、勅使門・中門あり。佛殿は一に、大雄院といひ、南面二重瓦葺にて、釋迦三尊の像を安んず。方丈・法堂・眞珠庵・泉光院等その境内にあり。什寶の見るべきもまた尠なからず。織田信長の墓は、總見堂址の北にあり。五輪の石塔高さ五尺六寸餘、表に、總見院殿總大相國泰岩宗安大居士の數字を刻し、其左右に、信忠・信雄の墓あり。こゝを出てゝ、野口村を横ぎり、田圃路の透迤たる間を過れば、欝蒼たる林木、間はずして金閣寺の近きを知る。金閣寺(第七十七圖甲)は一に鹿苑寺と稱し、昔時西園寺公經の山莊なりしを、應永四年、足利義滿此地の勝を愛し、特に殿堂を構へ、林泉を營み、世事を謝して燕居の處と爲せしを、其子義持父の遺命によりて禪林と爲し、夢窓國師を請して開祖と爲せり。室町將軍盛時の遺物にして、創立以來殆ど五百餘年、其間、幾度か兵刃に遭遇し、堂塔また昔日の比にあらずと雖も三層の金閣は纔かに其災を免れ、林泉また依然として昔日のまゝなり。總門を入れば、門内老松數百株路を夾みて、其景既に遠く紅塵を脱却し去りたるを覺ゆ。中門は瓦葺にして、門頭に喬木あり、一位

金閣寺

樹といふ。唐門は東向して立ち、直ちに上に寶形造にして三層たる金閣を見る。下層を法水院といひ、南北五間半、東西七間、中央に彌陀・觀音・勢至の三尊を安んじ、西部に袖廊あり。中屋を潮音洞といふ、其廣さ下層に同じく、正面に惠心作の觀世音を安じ、左右に四天王を置く。上屋は究竟頂と言ひ、東西南北共に三間四尺七寸を有し、高さ四十二尺、上下左右盡く押すに、黄金の箔を以てせり。而して屋頂に青銅の鳳凰を置けり。閣上より望めば、四圍林樹蓊欝として晶々たる大池に其影を蘸し、島嶼、岩石の布置、假山林泉の趣致、妙を極め巧を盡して、一々園藝家の規と爲すに足れり。虎溪橋の彼方、一境更に新に開け、四邊の風光閑雅清麗、最も幽邃を極む。其他金森宗和の造れる夕佳亭あり。南天の床柱・荻の遠棚等殊に著名なり。蓋し此の鹿苑の林泉は本邦有數のものたるを失はず。本堂は其傍にあり。心越禪師の筆になれる大額を掲け、附近に小寺院甚だ多し。此等を出でゝ、南に田圃の間を過れば、平野神社なり。官幣大社にして、古、大和國にありしを、延暦年間今の處に移せり。本社は東向にして、五殿相並べり。拜殿は本社と共に故ら

平野神社

北野天神社

に接材を用ゐ、構造頗ぶる宜きを得たり。これより、紙屋川を渡れば、北野神社（第五十八圖丙）なり。菅公を祭る。南の鳥居を入れば、石燈籠累々として路を挾み、臥牛の彫型また甚だ多し。中門は本殿の前にありて、左右廻廊をめぐらして拜殿に續けり。天滿宮の巨額は後西院天皇の宸筆にして、世に勅額門の名あり。本殿は特別保護物にして、八棟檜皮葺の華麗なる祠堂なり。社前、一對の石燈籠あり。靈元天皇の寄附を以て、有名なり。本社は村上天皇の文曆二年の創設にして、現今の社祠は慶長十二年、豐臣秀頼の改造する處、五十年目毎にこれを修營するを例とす。今、官幣中社に列せり。境内、梅樹松樹と交り、殊に西境紙屋川に添へる高堤には、數百株の梅樹ありて、花時は芳香馥郁、轉た人をして神靈の遺愛を追懐せしむ。これより御室に達する路を西に進めば、衣笠村に

等持院

等持院あり。往古は仁和寺の一寺なりしが、足利尊氏夢窓國師を聘して中興の開山と爲し、終に臨濟の巨刹となれり。總門は南面して立ち、其前に蓮池石橋あり。足利義滿の筆に成れる等持院の竪額を中門に仰きて入れば、裡に、佛殿あり。尊氏以下足利歴代の木像（内五代十代の

仁和寺

二像欠く）を安置す。維新の際、志士が其木像を斬りて三條磧に曝せしといふは、是なり。寺を出て、衣笠山の翠微を顧みつゝ、猶進めば、仁和寺の宏壯なる山門は高く深樹の中に聳ゆるを見るべし。此寺は光孝天皇の勅願によりて建立せし眞言密乘の巨刹にして、宇多天皇落飾の後當寺に入らせ給ひしを以て、始めて御室の號あり。爾來御室御所、御室門跡として名高かりしも、應仁及び文明の兵火に罹り、德川氏の時これを再建せしも、明治二十五年復た祝融の災にかゝりて、今は祖師堂及び金堂を留むるのみ。光格天皇遺愛の

妙心寺

茶亭なる飛濤亭、光琳が意匠を凝したる園廊亭は、共に一覽の値あり。金堂には、光孝天皇の像を安置し、傍に、德川家康の像を陪せり。境内は廣濶にして清洒、堂舍の間處々に老櫻を點綴し、花時の美、蓋し狀すべからざるものあり。妙心寺派の本山妙心寺は花園村にありて、仁和寺より十二三町を南に隔つ。同じく應仁の兵火にかゝりしも、後土御門帝の時、これを再興し、稍舊觀に復せり。佛殿は南向、二重瓦屋にして、殿に磚石を敷きたり。境内に、方丈・法堂・經藏等あり。境内大法院に、佐久間象山の墓あり。寺を出て、

廣隆寺

京都鐵道の線路を南に横り、太秦（ウズマサ）村に至れば、廣隆寺あり。眞言宗にして、別格本山と稱す。創立は推古天皇の十二年、聖德太子が秦川勝に命して創建せしめしところ、史に、推古天皇の卅一年、三韓佛像を貢せし時、葛野秦寺に安んずとあるは即ち是寺にして、太子堂を上宮王院と稱し、中に太子自作の木像を安んじたり。桂宮院は八稜形なるを以て世に八角堂と稱し、中央に上宮太子十六歳肖像、左右に如意輪觀音阿彌陀佛を安んず。此堂は當初の建築のまゝにして、今に至るまで月日を經ること千二百九十餘年、京都第一の古堂なり。從つて其建築弘仁期の標式を爲し、頗る世に重せらる。講堂も亦永萬元年の再建にかゝり、七百餘年を經たり。太子堂の前なる石燈籠は、世に太秦形と稱し、石工等の規とする所なり。これより廣澤池畔に出て、大澤池より嵯峨天皇の離宮たりし大覺寺に詣で、直ちに清凉寺に至る。同じく嵯峨天皇の離宮境內にして、源融朝臣が山莊を構へたる地、今の殿堂は元祿年間德川綱吉の再建にかゝれり。寺の西一町許の竹林の中に、小楠公首像あり。相傳ふ、寺僧正行と舊あり、義詮に請うて其首級を此處に葬りしもの、と。

天龍寺

嵐山

天龍寺村に、天龍寺あり。臨濟宗京都五山の一なり。此附近、往昔は嵯峨野と稱し、雲の上人は月にあくがれ、或は虫を聞きたるところなり。かの小督局の古址も亦此地にあり。又、この附近に、野の宮、常寂寺等あり。小倉山は古來楓樹を以て名高きの地、桂川の清溪を隔てゝ嵐山と相對し、その眺矚頗る佳なり。定家山莊の遺蹟は其麓にあり。

嵐山は桂川の溪流を隔てゝ隆起せる一小山なれど、其山水の秀絕なると、櫻花の勝あるとを以て、名、天下に藉甚たり。天龍寺門前より、松樹の蒼々たる間を穿ては、桂川の水聲は淙々として塵耳を洗ひ、忽ち開かれたる一場の明媚なる山水は思はず人をして快哉を叫ばしむ。山屹として聳え、谷狹く峽間を穿ちて、其の稍〻平濶たる處、一道の大橋を架す。これ、問はでも著るき渡月橋なり。（第六十八圖甲）時、春に際せば、岸頭の茶店は數多の招帘を飜へし、滿城の子女、綺羅を競ひ、その雜遝名狀すべからざるものあり。ことに、此山の櫻花の山樹の間にほの白く顯れたるは、他に求むべからざるの景なるべし。秋錦の候、また遊客多し。此山の櫻は龜山上皇が嵯峨の仙洞に在せし時、

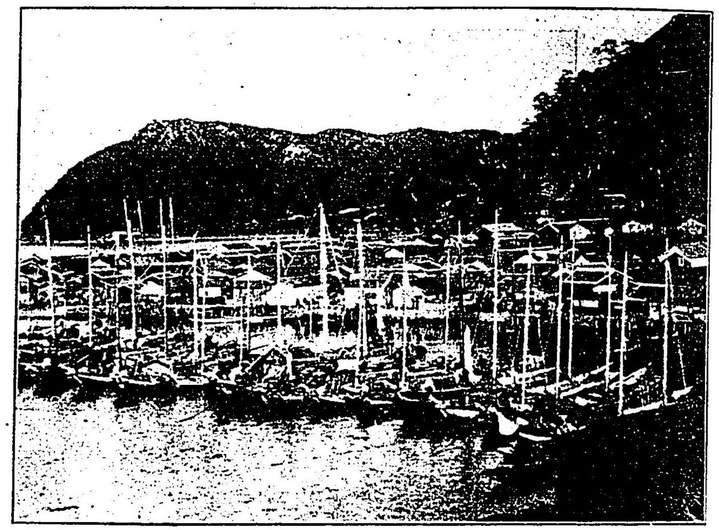
吉野山の名種を植えさせ給ひしなりと傳ふ。山上に、大悲閣あり。登路二三町餘、樹間に溪流の奔跳するを眺め、趣致に富めり。また桂川の上流は山深く谷狹く、處々奇景に富むを以て、丹波龜岡より舟を艤して下るものあり。

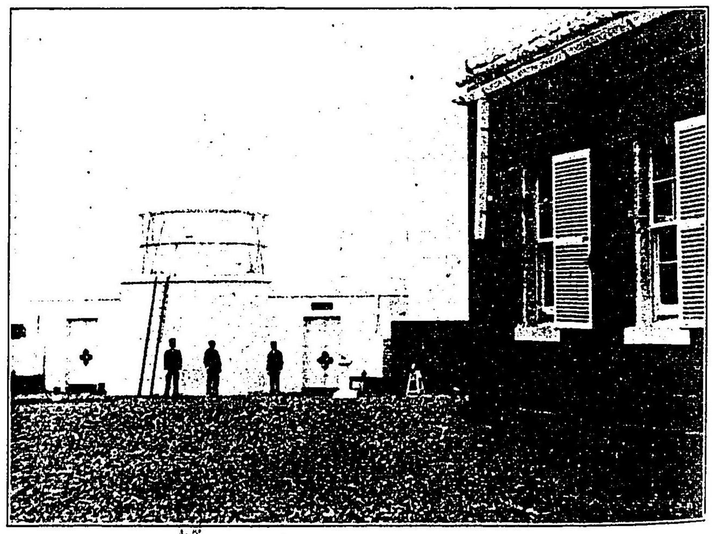
三尾

嵯峨野、宇多野以北、愛宕山の麓に位する山間の地を三尾と言ふ。高尾槇尾梅尾即ち是なり。此一帶の地、山水に富み、常だに遊覽の地たるに堪へたるに、秋霜漸く下れば、滿山悉く是れ紅葉、鳥聲人語皆赤からんとするの致あり。これを以て遊客麕至す。先つ、高雄を訪はんに、京都鐵道の花園驛に下車し、これより御室の街道に出て、梅ヶ畑の八幡宮に詣で、一里半餘にして、高雄山の麓に達す。紅葉の既に奇なる間を稍〻下れば、清瀧川潺湲と流れて、其處に架したる橋を高雄橋といふ。橋畔、溪畔、悉く紅葉、山水皆紅なり。神護寺に至る途中、弘法大師の硯石、文覺上人觀月の壇、和氣清麻の墓等あり。神護寺は眞言宗にして、神護景雲年間に、清麻の創建せしもの、本堂大師堂鐘樓等あり。これより猶登ること三四町、頂きに奥の院あり。青山紅葉の眺、更に一層を加ふ。槇尾は高雄橋畔を清瀧川に沿ひて五六町下りた

高尾

(甲)　紀伊國大島港

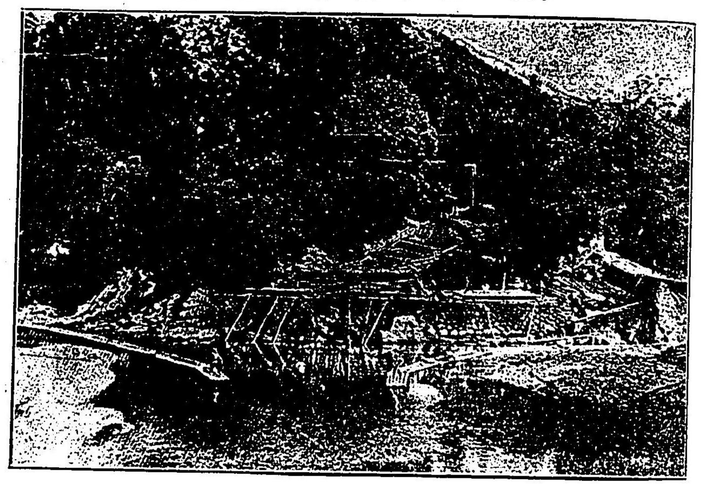


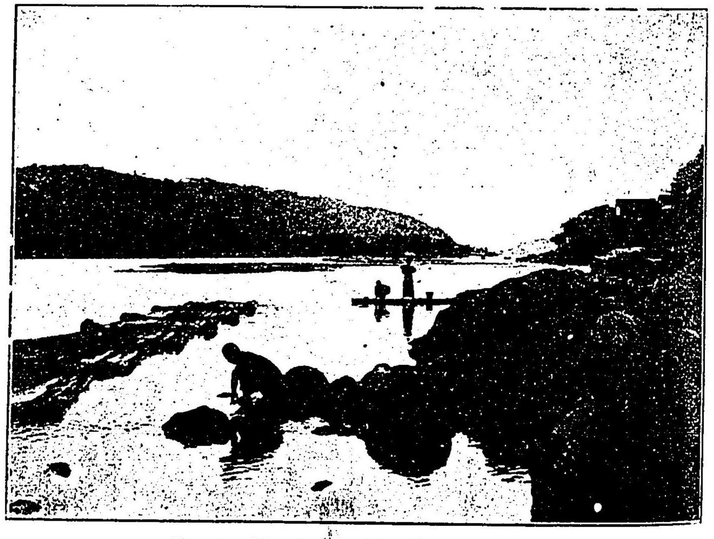


(乙)　紀伊國樫野崎遠望

(第六十五圖)

（甲）　大和國吉野山林

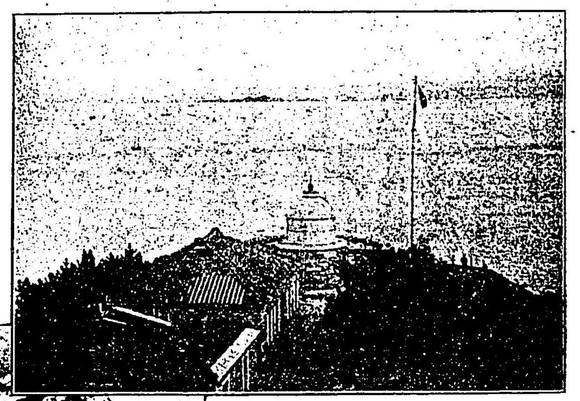




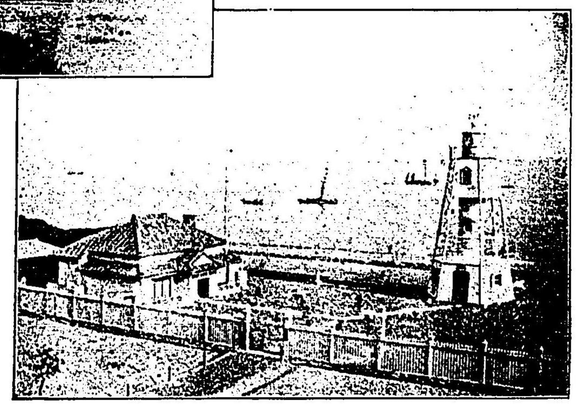
（乙）　大和國吉野川の筏

（第六十七圖）

（甲）　淡路國津名郡北端江崎燈臺



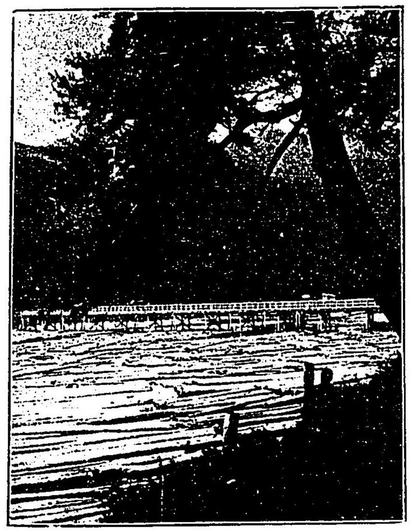
（乙）　攝津國住吉社頭鵜燈明臺

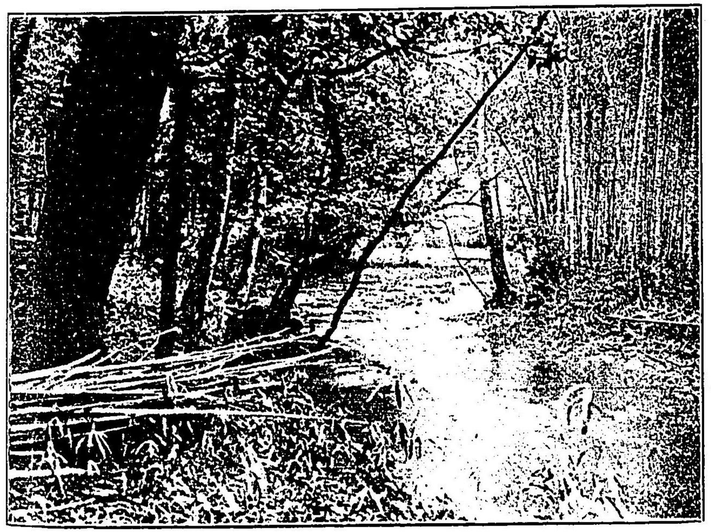


（丙）　攝津國神戸和田岬燈臺

（第六十六圖）

（甲）山城國桂川の木材

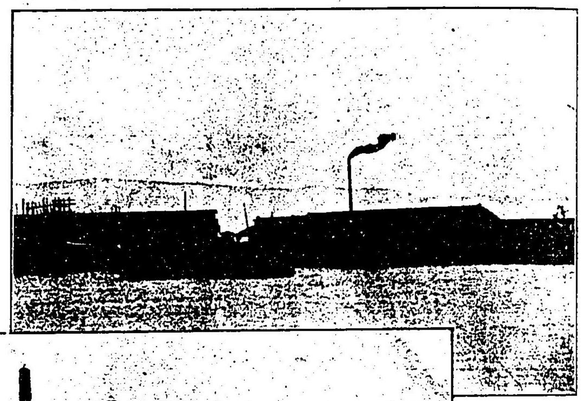


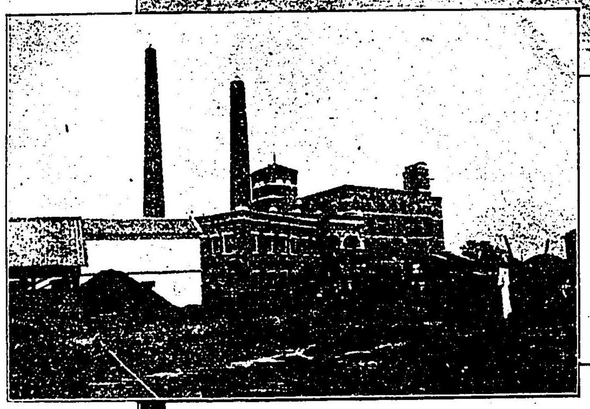


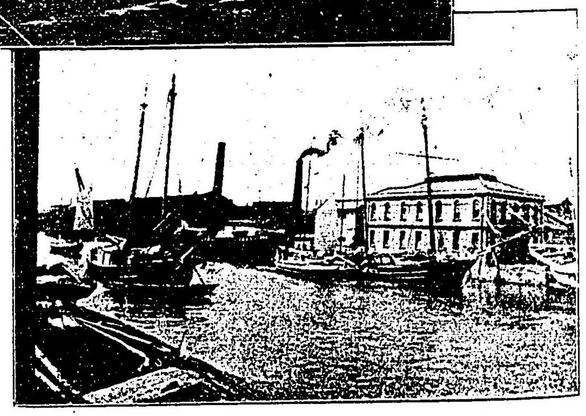
（乙）山城國の林相（伏見附近）

（第六十八圖）

（甲）大阪鐵工所屬櫻島造船所





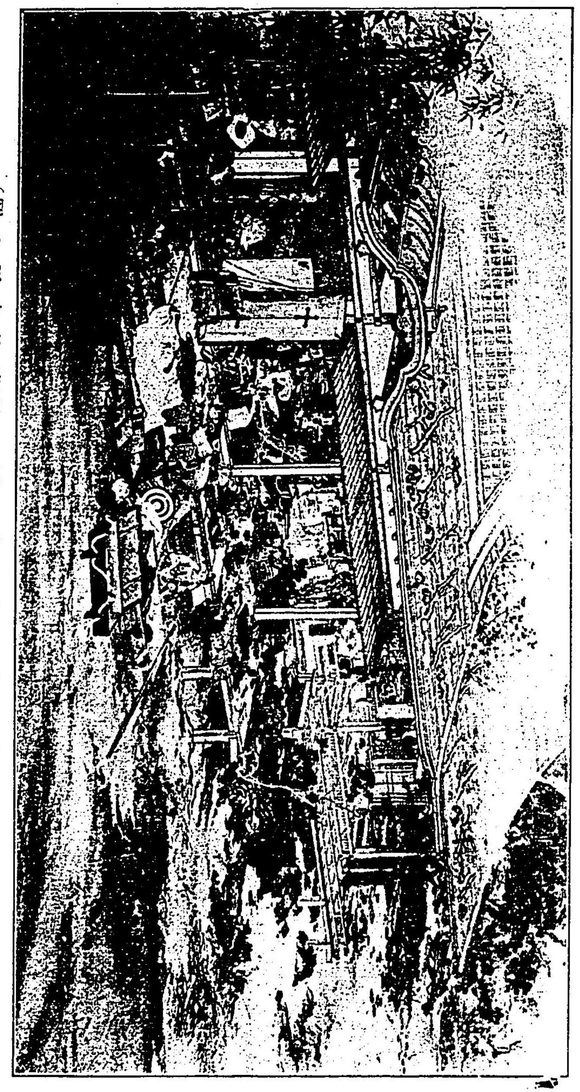


（乙）大阪三軒家紡績株式會社

（丙）大阪鐵工所

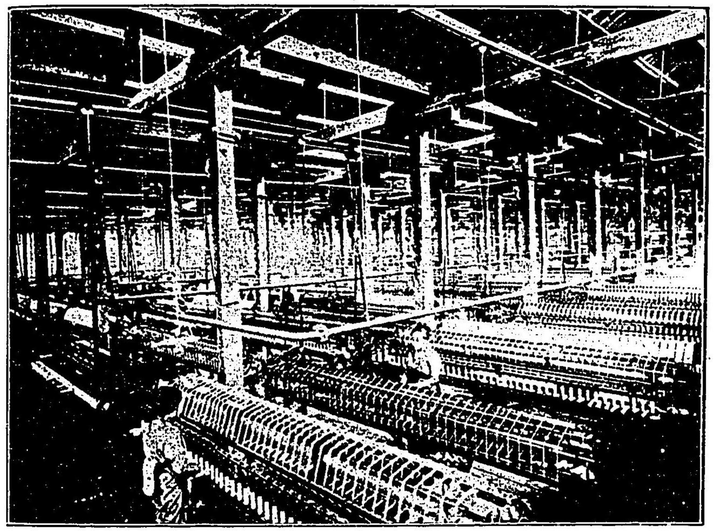
（第六十九圖）

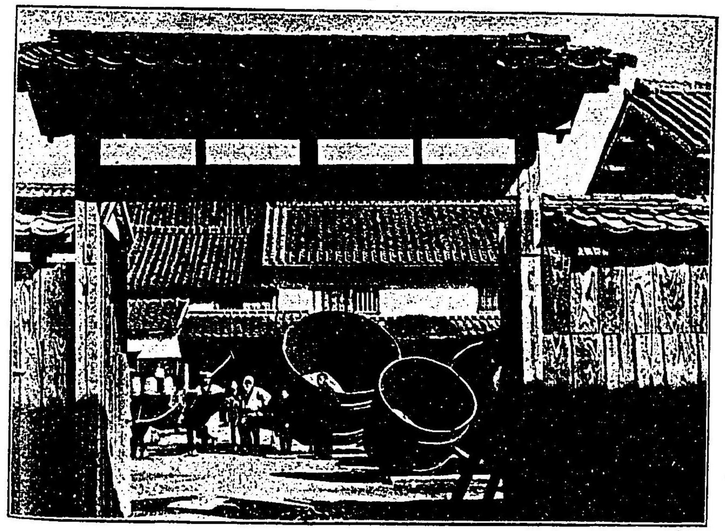
（第七十一圖甲）



（圖の二十五月五武藏　稿　作　衛兵駐屯島　川）

（甲）大阪合同紡績會社製糸場



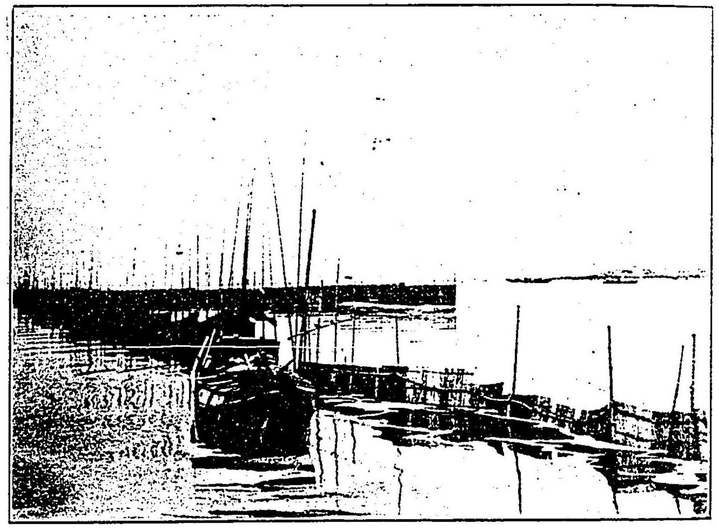


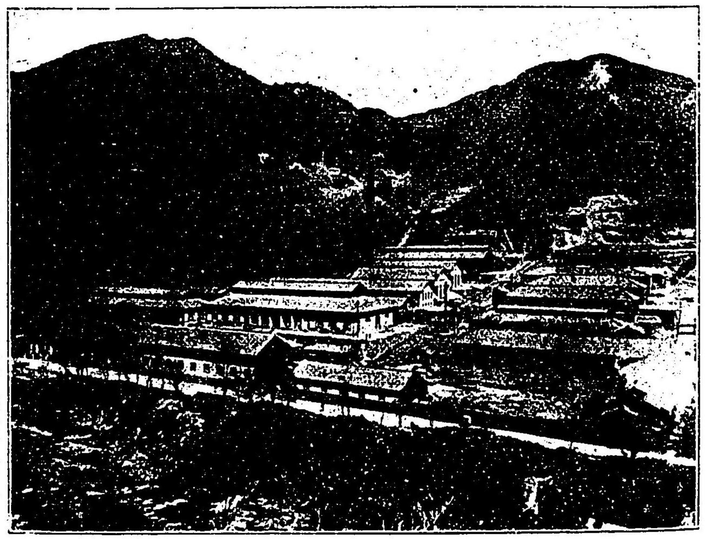
（乙）攝津國灘町醸酒場

（第七十圖）

（第七十二圖）

（甲）近江國琵琶湖の水産

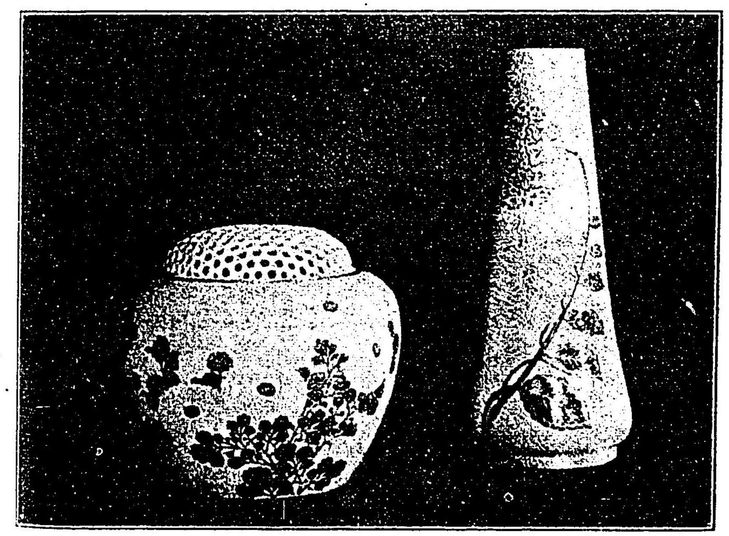




（乙）但馬國生野鑛山

（第七十三圖）

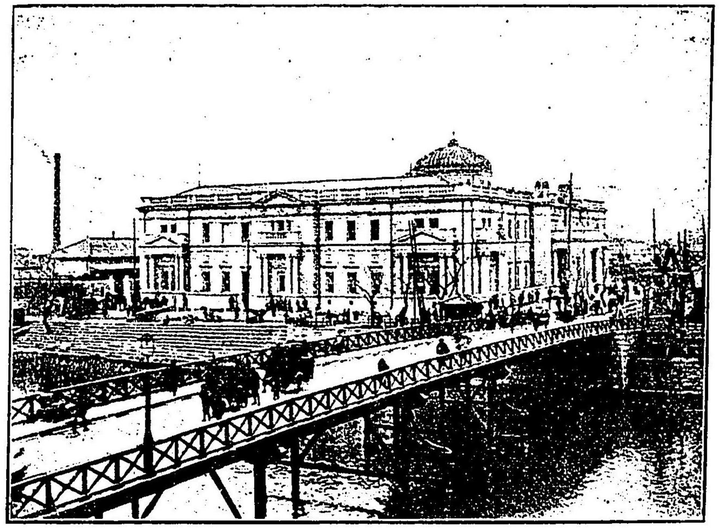
西村總左衛門作刺繍

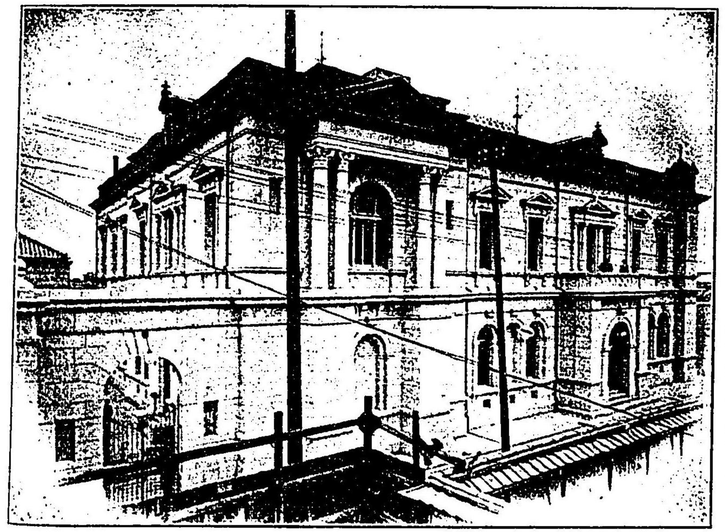


錦光山宗兵衛作粟田燒陶器

（第七十三圖）

（甲）　大阪日本銀行支店

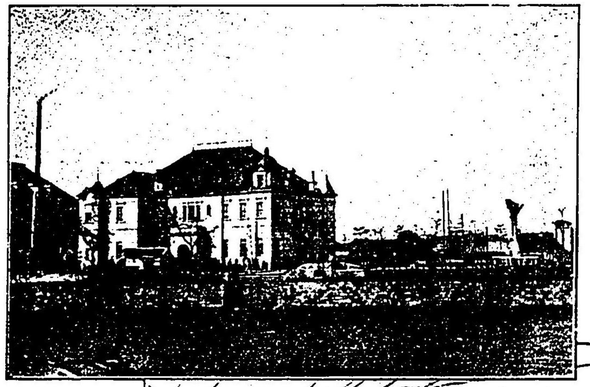


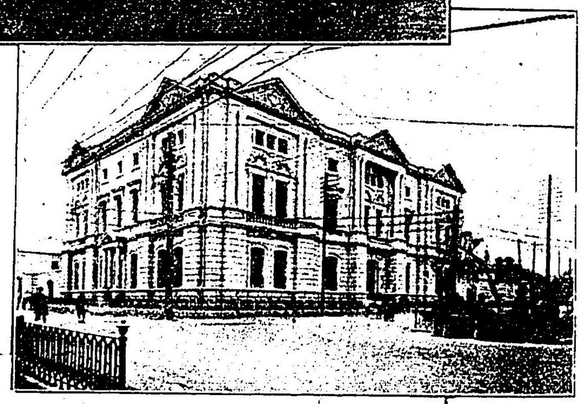


（乙）　大阪第三十四銀行

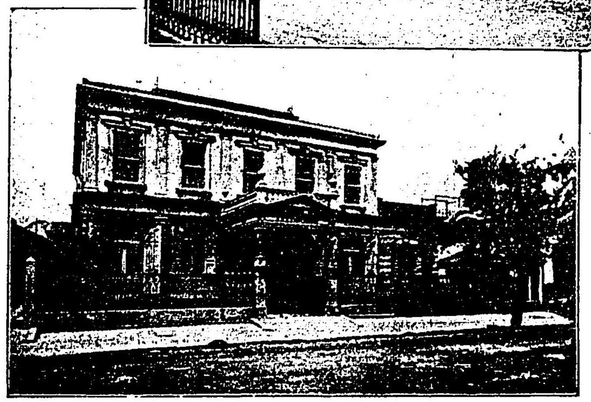
（第七十四圖）

（甲）　大阪中の島銀行集會所





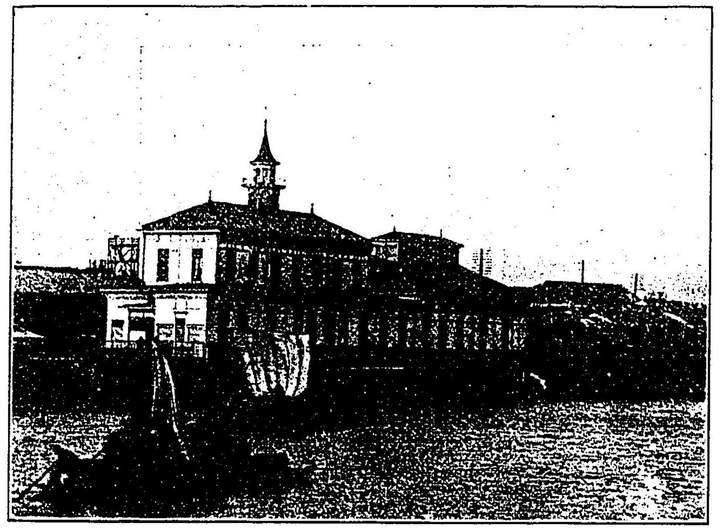
（乙）　神戸三菱銀行支店



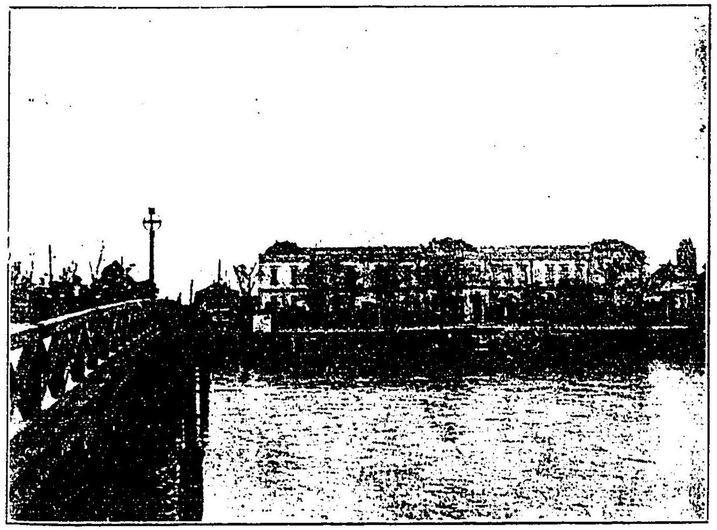
（丙）　神戸三井銀行支店

（第七十五圖）

（甲）大阪堂島米穀取引所

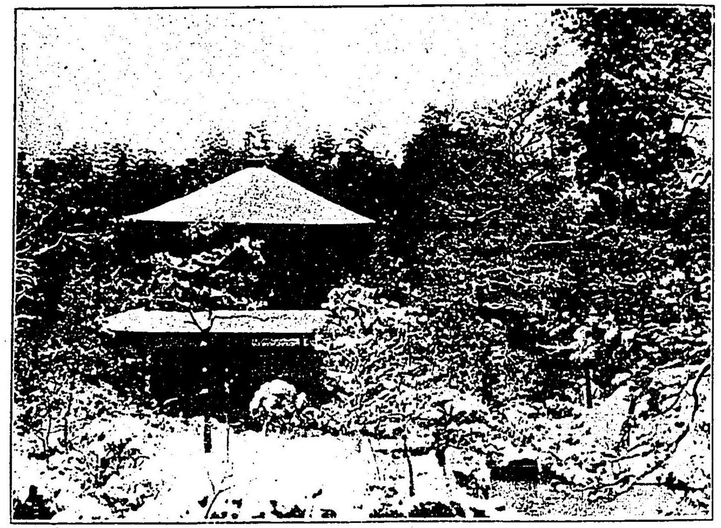


（乙）大阪商品陳列所



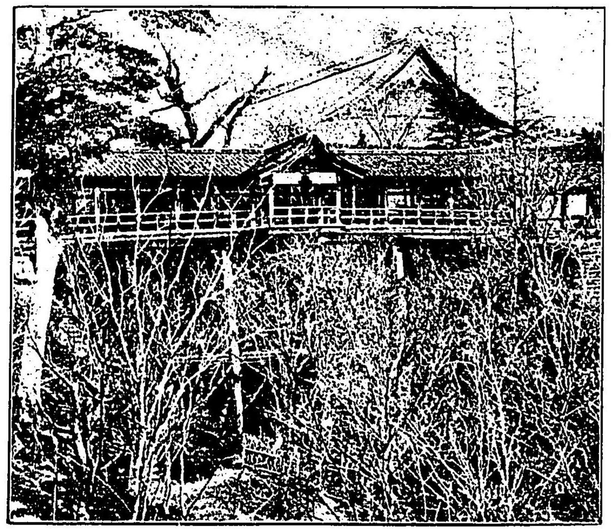
（第七十六圖）

（甲）京都銀閣寺



（乙）京都梅の尼

（甲）　京都金閣寺



（乙）　京都東福寺通天橋

（第七十七圖）

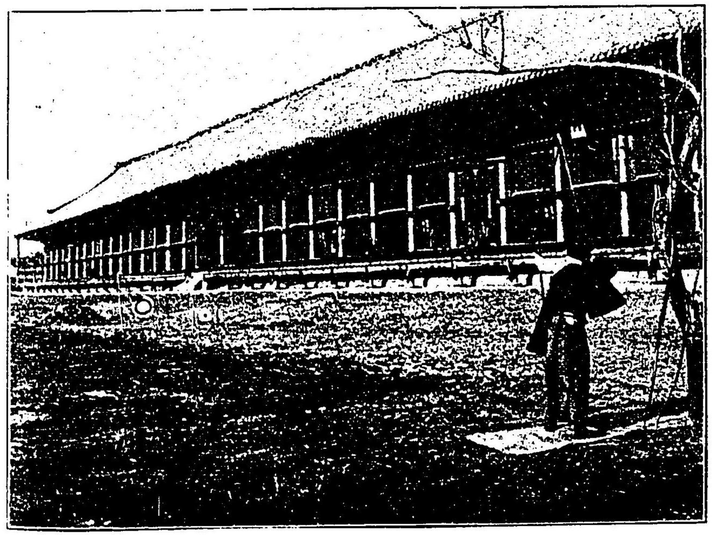
（甲）　山城國鞍馬山（俗稱義經僧正谷）

（乙）　京都大原女

（第七十八圖）

（第七十九圖）

（甲）京都清水寺



（乙）京都三十三間堂

梅尾

比叡山

るところ、寺あり、西明寺といふ。梅尾（第七十六圖乙）はまたこれより三四町、清瀧川の水、殊に此附近に於て、最も激越急奔の趣を盡し、これに點綴せる紅葉の美、蓋し狀すべからざるものあり。白雲橋を渡れば、山の中腹に高山寺あり。風景また佳なり。人、三尾の地を稱して、紅葉郷といふ、また解ひずと謂ふべし。此附近松茸を産し、茸狩の群多く集る。愛宕山の頂には、愛宕寺あり。眼下に京都盆地を望み、眺臨甚だ佳なり。

比叡山、また京都に於ける名山なり。高さ八百二十米、全山花崗石にして、頂上少しく古生層の岩石を冠す。老杉古檜鬱然として叢生し、遠望常に深紫深碧の色を帶ぶ。山、數峯に別れ、其の最高の處を四明岳といふ。其東北側に建てられたる延暦寺は、天台宗の總本山にして、歴史上有名なる巨刹なり。京都より登路四あり。一は吉田より白川越に出て北折して四明岳に登り、一は田中、一乘寺村を經て、叡山の西南麓より白川よりの登路に會し、一は今出川より高野川に添ひ、修學院離宮傍より雲母坂を經て、千手堂の前に出づる者、一は、高野・八瀬の諸村を經、西塔橋を渡りて西塔釋迦堂に達する者と

延暦寺

す。第一第二路最も近くして便なり。延暦寺は幾多の伽藍を有し、三院九院の稱あり。また谷に十六谷の稱あり。根本中堂（第六十圖乙）は、本寺草創の際、建立せし最初の伽藍にして、藥師像・梵天・帝釋四天王の像を安んず。現今の堂宇は寛文七年の造營にして、桁行十九間餘、梁行十二間三尺餘、高五間一尺餘を有せり。中堂の西南に大講堂あり、大講堂の東に、鐘樓堂あり。其他、戒壇堂・山王院・別當大師堂・前康院等あり。また、根本中堂より五十町を隔てゝ、横川中堂あり。其附近に、惠心院僧都廟・不動堂及慈惠大師堂・釋迦堂等あり。皆是れ清淨潔齊の地、經聲唄音は天籟と相和して、賽者をして一種清寂の感に撲たれしむ。これより四明岳の絶巔に至れば、東に、琵琶湖を望み、西に京都の市街の粉壁を指し、宛然假山盆地を見るがごとし。其の登臨の快、容易にこれを記すべからざるものあるを覺ゆ。

京都沿革

沿革　奈良の朝我邦の制度文物大に備はり、青丹よし奈良の都は咲く花の匂ふが如く今さかりなり、と詠せられし榮華の夢は長からず、崇佛の風盛にして寺塔建立の舉多く驕奢淫佚甚だしく、國帑は爲めに缺乏し國郡の政治紊

長岡京

亂せり。光仁帝立て大に改革の志を抱かれしも、其の實行に至らずして崩ぜらる。桓武帝嗣立つに及び、奈良の地形勝に據ると雖ども水利の便に乏しきを察し、更に便利の地を撰んで都を遷し、大に經綸の業を行はんと欲す。時に藤原種繼遷都の議を上るあり。帝、即ち延暦卅年五月山背國長岡京（今の乙訓郡向日町乙訓村新神足村の邊）造營の工を起し、諸國に課して卅一萬四千人を役じ之れが竣成を督し十一月帝之に移幸せられたり。翌年九月種繼賊の爲に殺され物議囂然たりき。帝又た長岡京の地長く皇基を定むるに足らざるを看破せられ、數年を出てずして平安奠都の盛事を見るに至れり。

初め和氣清麻呂遊獵に託して山城國葛野郡の地を相し都を遷さんとを奏請す。是に於て延暦十二年正月帝大納言藤原小黑麿・左大辨紀古佐美を遣して、葛野郡宇太村の地を相せしめ是に奠都と定まりぬ。次て三月遷都の事を伊勢太神宮に奉告し、五位已上の者をして役夫を進めしめ、又た若狹・越中・播磨・備前・備中・備後・丹波・伊豫・阿波・尾張・美濃の諸國に課して宮城を造營せしむ。九月に至りて京地の區劃漸く成りしかば、菅野眞道・藤原葛野麻呂を遣し新京の宅地

平安奠都

を諸臣に分ち賜はりぬ。翌十三年十月工事未だ全く竣らざりしも、皇居落成せしを以て帝新京に遷幸し、是に千有餘年間の帝都は定まれり。是れ即ち平安京今の京都なり。其の工事の完全に竣工せしは、延暦二十四年頃にありしが如し。

奠都の詔

抑〻桓武帝が七十餘年來の奈良の都を捨て、長岡の地に遷り、幾もなく又た都を此の地に遷定するに至りしものは何の故ぞや。今延暦十三年十月の詔を見るに、「葛野乃大宮地者、山川毛麗久四方國乃百姓乃參出來事毛便仁之庶」云々とあり。又其の翌月の詔に

此國山河襟帶、自然作城、因斯形勝可制新號、宜改山背國爲山城國、又子來之民謳歌之輩、異口同辭號曰平安京、今宜隨之云々、

と宣へり。今平安京の地形を察するに、東方には日枝如意の諸峯聳え、西方には愛宕大枝の群山峙ち、鞍馬山北に屹立し鴨川は其の東方を流れ桂川は西に通じ、宇治木津の諸川相集まりて淀河となり、八幡山崎の間を南流して大阪灣に注ぐ、而して南方奈良の舊都に到たる遠からず、實に便利の地所謂天府之國と稱すべし。是れ實に帝が英邁の天資を以て斷然萬難を排して、千載不遷の帝都を定めし所以なるべし。

奠都以前の京都の地

平安奠都以前、此の地方一帶茫漠たる原野なりしは、遊獵に託して地を相せしより察して明なり。而して葛野の名が初めて史上に見えたるは、應神紀六年の條にあり、次て仁德帝の時秦氏の歸化人を諸郡に配置せしときに、此の地方亦た其の一に居りしものゝ如くなれば、秦氏の手に依りて開拓せられしものならん。

左京右京

今平安京の規模を察するに、當時都市經營の設計總て皆我邦の師事せし唐制に模倣し、市區を劃して南北を經とし東西を緯とし、中央に朱雀大路南北に通じて京地を東西に分ち、東を左京とし西を右京となす、朱雀大路の南に盡くる處に羅城門あり。正門にして此より朱雀大路を過ぎて皇城に入らんとする處に朱雀門あり。左右兩京には各〻京職ありて大夫を長官とし、其下に亮・大進・少進の諸官を置きて之を治む。又た街路の經をなすもの三十二條、緯をなすもの三十八條にして大小の區劃井然として紊れず。八戸を行とし四行を

街とし、四街を保となし、四保を坊となし、四坊を條と爲す。坊令を置て之を管す。又た皇居を繞らすに百官諸司の官廳を以て一廓を造り、其四方に十二門を設く、即ち大内裏南面の正門は朱雀門にして、其東にあるを美福門一名壬生門と稱し、西にあるを皇嘉門と云ふ。東面の第一門を陽明門一名近衛門と云ひ、その南にあるを待賢門一名中門と稱し、更に南にあるを郁芳門一名大炊門と云ふ。西面の正門は殷富門一名西近衛門にして、其の南にあるは藻壁門一名西中門、更に南にあるは談天門一名右馬寮門なり。北面の東門は達智門にして、中央にあるを偉鑒門一名不開門と稱し、西にあるを安嘉門と云ふ。是れ所謂皇城の十二門にして其他東面陽明門の北に上東門あり、西面殷富門の北に上西門あり。平安京の廣袤は、實に南北一千七百五十三丈（現今の尺度に改算すれば、一里十五町五十一尺六寸三）東西一千五百八丈（即ち今の十二町四十一間三尺八寸）にして、其の面積二千四百四十七町六段一畝二十七歩即ち七百三十四萬二千八百五十七坪あり。其の内大内裏即ち皇居及び諸官廳の一廓を爲せるの地は、四十九萬六百二十餘坪（南北七百六十六間三尺六寸餘東西六百四十間餘）を占む。今此の廣袤を有せる平安京が果して那邊に位置せしかを示さんが爲めに、當時の主要なる建築物等の遺址を現今の地名に對照して左に摘記せん。（平安通志に據る）

皇城十二門

平安京の廣袤

皇居址

大極殿址

紫宸殿址

清涼殿址

大内裏址

朱雀門址

羅城門址

朱雀大路

（北は下長者町通土屋町上る山王町、南は下立賣通田中町北側上る白銀町西側、東は智嘉光院通尼ヶ崎町の西、西は出水通）

（千本通下立賣下る小山町の西側より葛野郡朱雀村大字聚樂廻小字鷺塚に至る）

下立賣通田中町と出水通東神明町との中間

出水通土屋町の東西神明町の間

（北は一條通の稍北、南は葛野郡朱雀村大字聚樂廻小字朱雀みゝつ川東は大宮通の稍西、西は御前通の稍西）

葛野郡朱雀村大字西京小字車坂一番地

葛野郡七條村大字唐橋字來生

大凡千本通に當る

斯くの如く北方は今の上京一條通の稍北に及び、南は葛野郡七條村大字唐橋小字來生に至り、東は寺町通より西は葛野郡花園村小字一條田に亘れるを知るべし。而して之を分ちて左右の二京とし更に坊を置く。坊を數ふるに左

坊制

京は西よりし右京は東よりしぬ。是等以て規模の宏大、市區の整然を察すべし。然れども固より此等の市區が當初に於て、盡く千門萬戸を以て充されしにあらざること、猶平城の帝都に於けると同じかりしなるべし。今當時の坊名管町及び主長を擧ぐれば左の如し。

北邊坊　一條より土御門に至る六保を管す　坊令一人
桃花坊　土御門より中御門に至る十二保を管す　坊令二人
銅駝坊　中御門より二條に至る十二保を管す　坊令二人

此の三坊は大内裏の東西兩側にありしなり。

左京

敎業坊　二條より三條に至る四坊を管す　坊令一人・坊長四人
永昌坊　三條より四條に至る四坊を管す　坊令一人・坊長四人
宣風坊　四條より五條に至る四坊を管す　坊令一人・坊長四人
淳風坊　五條より六條に至る四坊を管す　坊令一人・坊長四人
安衆坊　六條より七條に至る四坊を管す　坊令一人・坊長四人

崇仁坊　七條より八條に至る四坊を管す　坊令一人・坊長四人
陶化坊　八條より九條に至る四坊を管す　坊令一人・坊長四人

右京

豐財坊　二條より三條に至る四坊を管す　坊令一人・坊長四人
永寧坊　三條より四條に至る四坊を管す　坊令一人・坊長四人
宣義坊　四條より五條に至る四坊を管す　坊令一人・坊長四人
光德坊　五條より六條に至る四坊を管す　坊令一人・坊長四人
毓財坊　六條より七條に至る四坊を管す　坊令一人・坊長四人
延嘉坊　七條より八條に至る四坊を管す　坊令一人・坊長四人
開建坊　八條より九條に至る四坊を管す　坊令一人・坊長四人

此の兩京の各七坊は、北より順次朱雀大路を挾んで相對峙せり。街衢には大小あり大を大路と稱し小を小路と云ふ。今其の大路の名稱を擧ぐれば、朱雀大路を中央として、左京に壬生大宮・西洞院・東洞院・京極の五大路、右京に皇嘉門・西大宮・道祖・木辻・西京極の五大路ありて縱街を爲し、その間に小路を爲す

街衢
大路
小路

もの兩京合して二十二條あり。横街を爲す大路を北より順次其の名を列すれば、一條・近衛・二條・三條・四條・五條・六條・七條・八條・九條の十大路にして、是等の間に正親町小路以下信濃小路に至るまで二十九條の小路あり。是等縱の大路中、朱雀大路の街路の廣さは二十三丈四　にして、大宮大路は八丈四尺、東・西京極大路は七丈六尺、其の他の諸大路は五丈　尺あり、小路は各〻其の街路の廣さ二丈三尺なりき。又た横の諸大路中、一條・近衛は巾七丈六尺の街路あり、二條大路は十二丈、九條大路は八丈、他の大路は各〻五丈六尺の街路あり。小路は縱街のそれと同じく街路の巾二丈三尺なりき。

道路規則

次に市坊の道路規則の一班を述べんに、嵯峨帝の弘仁六年二月の官符を見るに、汚穢物を墻外に露棄するを禁じ、每戸に樋を設けて水を通ぜしめたり。又た同十年十一月の官符には、其の掃除を嚴にし清潔を怠らざらしめ、殊に宮城の邊及び朱雀大路の掃除には掃丁を雇ふて之に當らしめ、或は衛府の吏をして時刻を定めて巡邏せしめ、夜鼓の聲絶ゆるの後は往來を禁じ、曉鼓を鳴らして往來を許しぬ。貞觀の頃に至りては每坊門に兵士十二人を置きて守衛巡檢せしめたり。其の他道路・橋梁の修繕の如きは、諸國の納稅を以て其の費に充てたりき。

神泉苑

平安奠都の初めに造營したる舊址にして、今日に存するもの實に神泉苑なり。こは京中第一の禁苑にして、其の位置二條より南・大宮より西・壬生より東・三條より北にありて、其の廣袤東西八十四丈・南北百七十二丈にして、現今の坪數にて四萬百四坪餘ありき。桓武帝より以降歷朝の臨幸宴遊ありし處にして、雅樂の催・釣魚の興或は詩歌の雅會等史上に表はれて著名なり。苑中の池水は旱魃に際して市民に其の汲用を許し、又田地に灌漑することを許したりき。今日に存するものは古の十分の一に過ぎずして、古の中央東部分なりと云ふ。

博士の職田

桓武帝深く文敎を重んじ人材養成に叡慮を勞し給へり。されば延曆十年二月博士の職田を定め諸博士合して二十人に職田總計七十三町を給せり、而して是等の田地は皆山城・大和・河內・攝津・近江の四國內にありき。又た平安遷都後幾もなく延曆十三年十一月、帝は從來ありし大學寮（其の遺址は葛野郡朱雀野村小字大學）に水田

弘文院

勸學院

綜藝種智院

學館院

淳和院

非學院

百二町を增加して、大に其の資給を厚ふし學政を振作せり。之に勵まされて諸家亦た私學を起して、其の一門子弟の教育に務めたり。即ち和氣清麻呂の子廣世其の私邸に弘文院を開き、子弟の修學する所と爲し墾田四十町を附して費用に充てたり。是れ實に私立學校の嚆矢にして、其の位置は和名抄によれば勸學院の北にありしを知る。勸學院は嵯峨帝の弘仁十二年藤原冬嗣子弟教養の爲めに、左京教業第一坊三條の北、壬生の西（今の葛野郡朱雀野村大字四ノ京小字池ノ内）に設置せし所にして、後には大學寮南曹となりぬ。綜藝種智院は淳和帝の天長五年僧空海の創むる所、九條坊門の南、油小路の西、即ち今の葛野郡大内村字西九條小字鳥居口小字藏の中間にあり、佛教の學校にして普通の子弟を教育せり。次て仁明帝の嘉祥三年、嵯峨帝の皇后即ち檀林皇后（橘嘉智子）弟右大臣橘氏公と計り、一門子弟學習の爲めに學館院を設けたり、後康保元年に至りて勸學院に準して大學別曹とはなりぬ。淳和院は元と淳和帝の後院にして、四條の北、西大宮の東にあり、即ち今の葛野郡西院村字西院小字淳和院に當る、恒貞親王これを以て學校と爲し、後に源氏公卿の修學する所となりぬ。非學

天德の大火

院は教業第一坊三條坊門の北、壬生の西（今の葛野郡朱雀野村小字大學に當る）にあり、陽成帝の元慶五年中納言在原行平奏請して私邸に起したる學舍なり。實に勸學院の西隣にして、始めは在原氏子弟の學習所たりしが、後在原氏衰ふるに及び、昌泰三年大學寮南曹となりぬ。淳和・非學の二院は後に源氏の長者たるものこれが別當に補せらる。即ち後小松帝の永德三年將軍足利義政が兩院の別當を兼ねしを始めとし、爾後永く源氏にして太臣に至る者の襲任する例となり。德川氏將軍も亦た累代此の號を兼帶せり。

桓武帝より後數代を經て醍醐帝の頃迄は近畿の地靜穩無事にして、市區の修理もよく行はれ名寺巨刹の建立盛にして其の壯麗を競ひたりしが、冷泉圓融の朝に至りては朝權漸く衰頽の兆現はれぬ。是より先村上帝の天德四年九月二十三日夜禁中火を失し凶燄殆んど全都を燒燼し、歷代の寶器烏有に歸するもの甚だ多し。實に遷都後百六十六年にして此の大火災ありしなり。是に於て備前・備中・備後・安藝・周防・長門・丹波の諸國に課して宮殿門廊を造營せしめ、大納言藤原在衡之が工事を監して再築竣工せりと雖ども亦た昔日の規模にあ

京都の位置東北に移るの始

左右兩京繁榮の均衡を失ふ

らず。又た此の頃より左右兩京は繁榮の度其の均衡を失ひ、右京は大に寂寞の郷と化しぬ。今日の京都が古の平安京に比して東北に移れるも、實に此頃より始まれるものゝ如し。そは圓融帝の天元五年即ち平安奠都を距る百八十九年の比、慶滋保胤池亭記を作り左右兩京の狀況を詳述す。（原文は本朝文粹に載す）其の要に云はく、二十餘年以來東（左）西（右）二京を歷見するに、西京は人家漸く稀少にして殆んど墟址にちかく、人々移り去りて來る者なく、家屋壞れて造るものなし、唯移るに處なく貧賤に安んずる者は止り居るも、財貨を蓄へ營利を謀かる者は相率ゐて徙り去りしかば、西京の地は人烟稀疎にして、荆棘門を鎖し狐狸穴に安んずるに至りぬ。之に反して東京殊に其四條以北の地は、貴賤の別なく群聚し、高家門を比べ小屋簷を列して益繁華に赴けり。而して鴨河の畔に住するもの、連年水害を蒙むるも猶ほ來住するもの多し。當時鴨河の西にありては唯崇親院田の耕作を許されしも、自餘は皆水害あるを以て禁ぜられたり。之を要するに西京は陵遲日に甚しく、東京は郊外の地まで人民爭ふて移住するに至れり。これ地勢の然らしむる所か、實に平安京西南の地は卑濕なるに反し、東北の地は高燥にして鴨河の便あり。般賑の區域となるは亦た偶然にあらざるなり。

法成寺

藤原氏外戚の親によりて攝關の職に居り、政權を握りて專横を極め天子はあれども無きが如く、此の世をば我世とぞ思ふ望月のかけたることもなしと思へば、と詠ぜし藤原氏全盛の時に當りては、文學隆然として起り、朝野驕奢に耽り淫靡風を爲せしが、忽ち天慶の亂は東方の天地を騷擾せしめたり。此の頃より京師の地盜賊横行し白晝行人を劫かすあり。或は禁中・官省に闖入し火を諸處に放つに至れり。而して藤原氏は互に私黨を張り多く田園を占有し佛法を尊信し建寺の擧盛なり。道長の如きは法成寺を京極に建て東大寺に擬し、公卿以下に課して其工事を急がしめ、寧ろ公務を缺くも役を怠ることなれと令し、宮中諸司の石材を採て、擅に其用に充てしめたり。白河・鳥羽院政を行ふに至りては崇佛益甚だしく建寺供養を事とせり。所謂六勝寺（一般の詳述に準ず）の建立三十三間堂の建築皆な此の頃にあり。崇佛の餘弊は延曆・園城・興福諸寺の鬪爭を釀し、京師爲めに屢彼等僧徒の騷擾する所となりぬ。是に於て

白河

朝廷源平二氏の兵を以て之を鎮壓せんとせしかば、武士僧侶間の敵視となり京師益〻危險に陷れり。當時にありて京師の北部なる白河は最とも繁華の區たりき。次て保元平治の亂に及んで京師は修羅の巷と化し、二條帝は潛に清盛の六波羅邸に行幸す。

治承の大火

治承元年四月京師の地大火あり二萬餘戸を延燒しぬ。

福原の遷都

同四年六月には安德帝福原に行幸し、京師の宮殿を撤し屋舍を毀ち、淀川より浪華に輸し兵庫に轉送し大に福原の都を造營しぬ。此の新都は半歲に滿たずして直に古京に復したりと雖ども、京師の寂寥荒廢實に太甚し。源平盛衰記に其の荒敗の狀を詳記して曰はく、

京都の荒敗

新都福原は繁昌して人屋軒を並べけれ共、舊城京都は只荒にあれ行て適〻殘れる家々も、門前草深くして庭上露しげし、空しき跡のみ多ければ雉兎の栖かと成替紫蘭の野邊とぞまがひける。太政入道は善事にも惡事にも思立ぬれば前後をも顧みず人の諫をも用給ふとなし、時々は物くるはしき心地もありけるにや、懸る遷都までも思立給けり。中略舊都には皇太后宮の大宮八條中納言長方卿はかりぞ殘留給へる。中略去る儘に目出たかりし都なれども、小路には堀々切て逆木を引車などの通ふべき樣もなし。中略後德大寺の左大將實定は舊都の月を戀わびて入道に暇乞ひ都へ上給けり。中略さても都に入給ひ彼方此方を見給へば、空しき跡のみ多くしてたま〳〵殘る門の內、行通ふ人も無れは淺茅ヶ原蓬か杣と荒果てゝ鳥の臥戸と成にけり。八月半の事なればまだ宵ながらいづる月主なき宿に獨住、折知かほに鳴雁の音さへつらくぞ聞召、大將はいとゞ哀に堪へずして大宮の御所に參り、中略福原の都の住うき事語申て被泣ければ、宮は平安の宮の荒行事仰出して共に御涙に咽はせ給けり。角て夜もいたく深ければ后宮は御琵琶を搔寄させ給て秋風樂をひかせ給ふ、侍從は琴を彈けり大將は腰より笛を取出是を吹給ふ。其後故郷の荒行く悲さを今樣に造りて歌給ふ。古き都を來て見れば淺茅が原とぞ成にける、月光はくまなくて秋風のみぞ身には入と、三返歌ひ給ければ宮を始進せて御所に候給ける女房達折から哀に覺て皆袖をぞ絞ける。

義仲入京

斯かる時に當りて諸國の源氏並び起りて勢益〻熾なり。壽永二年七月源義仲京師に入るに及んで、平氏の一門安德帝を奉じて西海に奔る。義仲即ち命を

義經京師を衛る

奉じて京師を警衛す。然れども軍紀整はず侵掠横暴殆んど無政府の狀に陷りしかば、頼朝其の弟範頼・義經を遣はして義仲を宇治勢多に擊たしむ。二人義仲の軍を破りて入京し、義經は後白河法皇の命により京師を守衛す。次て義經・範頼と俱に平氏を西海に殄滅して歸京するや、頼朝院宣を受て義經の入京を許さず、北條時政を遣はして京師を衛らしむ。次て頼朝大江廣元を遣し閑院の大内裏を修造せしめ、文治三年十一月に　りて成り後鳥羽帝之に徙御す。

京都守護

是の年頼朝又た千葉常胤・下河邊行平をして時政に代りて京師を警衛せしむ、實に京都守護こゝに始まる。廣元六波羅に居り中原親能と交代して民政を行ひ、諸國の大小名其の分に應じ三年交替を以て京都大番役に服せしめ、京師の地漸く平穩となりぬ。是の頃より漸々京都は賀茂川を中心として、西は朱雀大路即ち今の千本通より東は東山の邊に至り、又た一條以外の地に擴張するに至りしなり。

兩六波羅探題

承久の亂後は北條泰時六波羅の北方に居り、時房南方に在りて京師を鎮衛し兼ねて關西諸國を總管す、之を兩六波羅探題と云ふ。六波羅は昔時平氏の

六波羅七ヶ所

第宅を構へたる地にして、鴨川の東五條と七條との間に在しなり。當時京師の官制は鎌倉に倣ふて、探題は猶ほ執權のごとく、北條氏の宗族世々之に任じぬ。其他評定衆あり後藤・龜谷二氏の世襲たり、引付頭には後藤・小田・伊賀の諸氏世々補任せられ、奉行人には齋藤・杉原の二氏世襲せり、問注所・侍所・越訴奉行・大番・篝屋守護人・在京人等ありき。曆仁元年篝屋を京師の市街に設けて、盜賊に備へ兵士をして其の役に充てたり。即ち篝屋守護人なり。

元弘年間四方勤王の軍起り勢益振ひ、源忠顯・赤松則村等進んで六波羅を圍みて大に之を破り、探題仲時・時益戰死し六波羅終に滅亡す。實に泰時・時房の開府を距る百十餘年の後即ち元弘三年なり。北條高時亦鎌倉に誅せられて北條氏全く倒れぬ。次て南北分爭の時代となりては京地は爭鬪の燒點となり、兩統對峙して相戰ふこと殆んど六十年に及ぶ。初め足利尊氏光明帝を東洞院通土御門の高倉殿（現今の皇居の内に在り）に奉遷す。これより以降五百四十餘年間の皇居の基となりぬ。義滿軍職に陞るに及びて京師漸く平穩となり、府を室町に營し花御所と稱し其の附近の地を近臣に分與し第宅を造らしむ。是に至りて市

市區の狀大に變ず

區の狀大に變じ、延暦の古制たる左右兩京は變じて上下二京の形を爲すに至りき。義滿又た奢侈を事とし北山の別業を造り土木の工を極め、海内に課役し凡そ壹百萬貫を費し三層の閣を起し、輪奐の美人目を眩す。實に金閣寺是なり。或は鹿苑院を建て、相國寺の大工事を起し七層塔を築く等その他枚擧に遑あらず。元中九年（北朝明德三年）後龜山帝北朝の後小松帝と和し茲に南北合一しぬ。次て後小松帝應永十五年三月義滿の北山第に行幸し盛儀今に喧傳して北山行幸と云ふ。此の時天皇駐蹕十餘日に及び、舞樂・蹴鞠・猿樂を叡覽せられ、或は三船の遊を試み、詩船・歌船・管絃船に各〻分乘して歡を盡しぬ。次て歌會を催し花契萬年を題とす。その時

北山行幸

御製一首

よろつ代となれては花に契るとも春へひとしぞなをもかきらし

萬代と契りし花も今よりは君か御幸にかきりしられじ　義滿

萬代とさして契らしかきりなく花になれ見ん春のゆくすゑ　義嗣

花はけふうれしき色に出そめてあへるを春と契る萬代　經嗣

かくて公卿中或は皇居を此に移さんと議するものさへありしと云ふ、以て其の盛事の一斑を察すべし。

是より先明德三年十二月山名義清叛し兵を率ゐて京師に入る。義滿之を內野（北は一條より南は二條に至るに破りて足利幕府の威權大に加はりしが、次で忽ち嘉吉の變（後花園帝の嘉吉元年六月廿四日）に將軍義教赤松滿祐の爲めに弑せられ幕府の權勢頓に地に墮つ。加ふるに是の頃より京師の市民私黨を結び洛中・洛外の社寺に據り、德政（一般の沿革を强請すること甚だしく京地爲めに騷擾したり。殊に應仁の大亂に及んで、京師は兵火に燒燼せられ馬蹄に蹂躙せられて衰頽實に太甚し。この時細川勝元の軍は京師の東（北小路町）に陣し、山名宗全は西（五辻大宮）に陣し一條堀川に激戰し湿を一條大路に穿ちて相拒ぐ。爾來兩軍連戰解けざること八年に亘り文明六年に及んで漸く止む。是の時兵燹に罹れる大小邸第三萬餘宇にして都下の士民四方に離散し、京地は蕩然として曠野となり延暦の規模殆んど盡きたり。此の蕭條荒廢の狀を記せるもの尠からざれども、今應仁記の一節を引かんに、

應仁の亂

應仁以後の荒廢

花洛は眞に名に負ふ平安城なりしが、盡らず應仁の兵亂に依て今は赤土に成にけり。（中略）計らず萬歳期せし花の都今何ぞ狐狸の伏土とならんとは、適殘る東寺北野さへ灰土となるを、古にも治亂興亡のならひありといへども、應仁の一變は佛法王法とも破滅し、諸宗皆悉く絶えはてぬるを不堪感嘆仮尾彦六左衛門一首の歌を詠じける。

汝やしる都も野邊の夕雲雀あがるを見ても落つるなみだを

加之のみならず是の後は管領互に權を爭ひ京師に相攻め、三好松永の爭亂ありて王室の式微その極に達しぬ。即ち後奈良院宸筆の物世に多きは理りにして、此時公家以の外の微々にして、紫宸殿の御築地やぶれて三條の橋のほとりより、内侍所の御あかしの光見えしとかや、右近の橘の下には茶を煎てうるもの居てあきのふ。其例によりて其茶うりし人の子孫年に一たび天子に茶を上るといふ。」云々の狀實に空前にして又た絶後の衰微と謂つべし。

會織田信長尾張に起り四隣を截定し武威大に振ふや、正親町帝密に綸旨を信長に賜ふて京師修理供御の領地及轉退公家の再興の三事を托せらる。永祿

信長の京都修理

十一年九月信長上京して將軍義昭を美濃に迎へ二條第に置き、都民を綏撫し所々に代官を定め諸政を整へぬ。翌年再び入京して松永久秀等を降し村井貞勝を所司代と爲し、皇居を修造し京師の荒敗を修理し、公卿人民の離散せるを其の舊に還らしめ、地子錢を免除し私宅を營ましめたり。京師の狀態こゝに始めて回復の機運に向ひぬ。

秀吉の京都完聚

次て信長弑せられ豐臣秀吉代りて大權を掌握するに及んで、前田玄以を所司代となし京師の市政を司らしむ。先に應仁の亂後京師の市街を爲すもの僅かに室町上立賣より四條邊に至る數十に過ぎず。信長大に回復を謀りしも戰國多事殊にその治世短かりし爲めに、未だ完成に至らざりき。是に於て秀吉玄以法印法橋紹巴を召して潛に洛中の境界を察せしに、東は高倉より鴨河原に接し渺々として東山に連接し皆耕作の地なり。西は大宮より嵯峨太秦に亘りて田圃となり四方疆界なくして田舍の如くなりしかば、細川幽齋を召して京師の舊制を問ひ之を完聚せんと計り、市中の佛寺を東京極に移し大堤を築きて外廓を定め、北は紫竹鷹峯より南は九條に至り、東は鴨河に臨み北は北野を包み略古來の名稱規模に從ひて市街を區劃し、

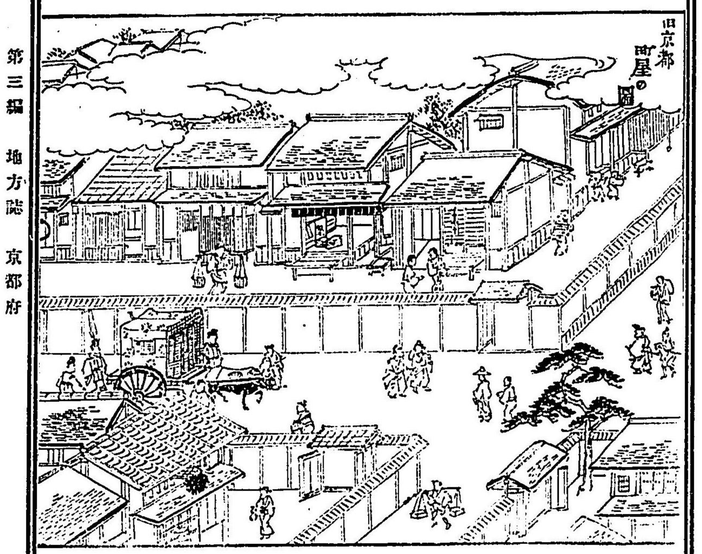
三條大橋（今京都市驛路里程の元標たり）を架し五條大橋を五條坊門に移しぬ。又た皇居を造營し大佛殿の工事を起し諸侯をして役を助けしめ、或は聚樂邸を內野（前見ゆ）に造り其の近傍に於て諸侯に邸宅を與へしかば、市街殷賑に赴き其の區域も昔時に比して擴大しぬ。實に今日の京都の市區は多く此の時に定まれり。秀吉又た宇治川の南流して巨椋池に入るを壅き、轉じて北流せしめ、長堤を築きて伏見丘陵の下に新に水路を開き、又た池中を橫斷して大和街道を開き、木津川を移して淀の邊に注がしめたり。斯の如く治水の法大に其の宜きを得て後世その利に賴れり。

秀吉の治水

德川氏勢を得るに及び、慶長六年五月家康は加藤正次・板倉勝重を以て京都所司代と爲し二條城に治せしめ、一は以て朝廷を控し、一は大阪の豐臣氏を制せり。後幾もなく正次罷められ勝重獨り任ず。次て同十八年三十七藩の諸侯に課して豐臣氏造營の皇居を毀ち新に造營し、又た吉田了意をして鴨河の水を引きて船を伏見に通ぜしむ、これ即ち高瀨川なり。下京の地は兩本願寺の爲めに漸く繁榮に赴き、慶長の末元和の初頃には東は鴨川寺町より西は大

高瀨川

京都の擴大



舊京都市街の光景（京之水所載）

宮、北は上立賣より南は七條に及び交通頻繁人口稠密の地となりぬ。更に降りて明和三年には人家增加せしが爲めに、出町口南の秀吉造る所の廓堤を毀ち土手町を立てたり。かくて西北は大宮より北野に接し、上立賣より鞍馬口廬山寺通りに接して全く市街の形を爲せり。天明八年正月の大火は、東大和大路より西は千本に及び南は七條より北玄蕃町に至る境域を延燒し、皇居

天明の大火

仙洞・公卿の邸宅百三十・武家の第宅六十・大小寺院九百二十・民家十八万三千戸・烏有に歸し、死者二千六百餘人實に應仁以來の大火なり。德川幕府は直に五萬石以上の諸侯に課し造營の役を助けしめ、老中松平定信をして役を莹さしむ、此の時古制を考へ舊儀に徴して大內裏皇居の制に復しぬ。後安政元年四月の火災七千戸を類燒し皇居亦た炎上せしが、翌年造營竣りぬ。是れ即ち今日に存するものなり。今上代に溯りて大內裏に模造したる皇居址を列記すれば左の如し。（大內裏址は前に述べたり）

土御門內裏址

土御門內裏址　今の上長者町の南、室町の東、烏丸の西に在り、實に永久五年鳥羽帝の造營せしめられし所にして、爾來久安四年炎上に至る三十年間、鳥羽・崇德・近衛三帝の皇居たり。

閑院內裏址

閑院內裏址　二條の南、西洞院西方一町の處に在り、高倉帝此を皇居と定められしが、眞に大內の構營に因りしは後鳥羽帝の頃にあり、以後土御門・順德・後堀河・四條・後嵯峨・後深草の歷代、此の皇居に在し其の間七十餘年なり。

富小路內裏址

富小路內裏址　實に今の寺町夷川下ル所の西側の地なり。後深草帝の建長元年二月閑院內裏炎上するや、之を以て假皇居と爲す、次で花園帝の時に至り始て內裏と定まりぬ。降て後醍醐帝の延元元年正月兵火に罹り燒亡す。文保元年の造營より此に至る迄、幾に二十年にして烏有に歸しぬ。

此の他一時の皇居たりしもの夥多枚擧に遑あらず、而して皆大內の模造なりし所謂里內裏なれば此に略しぬ。今日の御所は是れ古高倉殿の地にして、其の南を土御門東洞院殿と稱せり。文保二年後醍醐帝此殿に受禪あり。光嚴帝又此に居り、後には足利氏北主光明帝を置けり。爾後幾多の變遷を累ねしが、正親町帝永祿の初め此に造營ありしより、皇居永く此に定まりて明治の初年に至りしなり。

御所

京都の警戒守備

德川幕府の末葉海外諸國相次て來り通商を迫るに及んで、尊王攘夷の論囂然として起り、諸藩浮浪の輩各所に橫議して邦內騷擾す。殊に京畿の地甚だしかりしかば、安政五年六月高松・松江・桑名の三侯をして京都を警衛せしめ、

萬延元年六月更に彦根・郡山の二藩を增加して警備の任に當らしめ、淀・高槻・膳所・篠山の四藩に命じて京都の要害を扼守せしむ。次て文久二年閏八月會津藩主松平容保京都守護職に任ぜられ牧野忠恭所司代たり。此の時に當り島津久光薩藩毛利定廣長藩をして京都に止まり浮浪の輩を鎭撫せしめ、一方には勅使江戸に下りて將軍家茂の入朝を促がす、家茂之を奉ず。而して一橋慶喜・松平慶永越前藩主先づ上京せしに、京都の地は浮浪の輩充塞し攘夷の論益・沸騰し、權中納言三條西季知・侍從橋本實梁等攘夷の期日決定を慶喜に迫る。慶喜將軍の上京を待ちて決せんと答ふ。浮浪の輩之を聞て其の姑息を怒り暴行を逞ふす。かくて同三年三月家茂上京し二條城に入り參內拜謁す。實に將軍の上洛家光の時より廢すること二百餘年にして、こゝに將軍上洛の擧あり。是に於て三月十一日孝明帝家茂等を率ゐて賀茂社に行幸して攘夷を祈る。次て四月十一日帝石清水社に幸し節刀を家茂に授けんとし給ひしが、家茂病と稱して出でず。慶喜亦た病と稱し之を避く。こゝに天皇親征の議あり、五月十日を以て攘夷の期日とし令を諸藩に下だすや、長藩の下關に外舶砲擊となりぬ。然る

勅使の東下

家茂上京

石清水行幸

に朝議俄かに一變して親征を止め、守護職松平容保所司代稻葉正邦をして九門を守らしめ出入を嚴にし、三條實美以下數十名の入朝を禁じ、次て七卿の長州奔竄とり毛利父子の入京を停む。

元治の變

元治元年六月、長州の老臣福原元僩越後將に江戶に赴き攘夷の顚末を訴へんとし、兵を率ゐて伏見に抵り止まる。藩主毛利慶親・益田親施右衛門介・國司朝相信濃をして浮浪の徒鎭撫の爲め上京せしむ。かくて六月二十七日長藩士等三百嵯峨天龍寺に到る。時に帝宸翰を慶喜に賜ひ在京の諸藩に諭し長藩士の入京を禁ぜしむ。元僩哀訴する所ありしが可かれず、終に七月十九日朝相は天龍寺より中立賣に向ひ、親施は山崎より堺に、元僩は伏見より進て京を侵す。是に於て伏見方面は大垣・彦根・會津・桑名の諸藩兵桃山を保ちて之に當り、山崎方面には宮津・郡山諸藩兵八幡に向ひて之を拒ぎ、天龍寺方面は小田原及び薩州諸藩兵之を防ぎて東寺を本營とす。終に立賣門・蛤門・堺町門に衝突し、二十一日長州兵盡く敗れ退く。時に敗殘の兵多く市中に潛みしかば、官軍大砲を發して之を追ふ。此の時火大に起り寺院・民家を延燒するもの三萬八千三百餘京

都大半焦土となりぬ。世に鐵砲火事と云ふ。十一月には水戸藩士武田耕雲齋京師に迫らんとして果さず、京畿の地人心大に洶々たりき。

交通運輸

今德川幕府時代に於ける京都を中心としての交通運輸の一斑を見るに、慶長八年家康河村與三兵衞木村總右衞門をして淀川過所船の事を掌らしむ。是れ即ち過所座にして是が條令を規定し、尼崎山城川伏見間を上下する過書船は、年に二百枚の稅銀を納めしめ、又た公用及び武家の貨物は運賃を徵せず、その他、商品の積載運賃の規定等よく備はれり。諸道には皆驛傳の設けありて、定例の傳馬人夫を備へ置く即ち傳馬所なり。此の傳馬には朱印傳馬駄賃傳馬の二種あり、前者は公用にして無賃、後者は私用にして相對賃銀を以て使用せり。慶長十六年の頃吉田了意鴨川の高瀨船を創めぬ。これ即ち伏見川を溯ぼりて京都三條に達するものにして、其の船數京都に四十八艘、伏見に百十艘ありしと云ふ。元和の頃には大阪在番の諸士、東海道の諸驛長と計りて各自の家奴を飛脚と爲し毎月三回往復せしめたり。是れ所謂三度飛脚なり。降て寛文三年京都大阪江戸の商賈相聯合して三都往復の飛脚業を始め、東海

過所座

傳馬所

高瀨船

三度飛脚

道は旅行日程を六日と定めぬ、即ち定六これなり。その他大津伏見山崎の各地に貨物を運搬するには駄馬牛車大八車等ありて、各規約を設け賃銀を定め、三條九條村東寺の三組ありき。又た諸道より京都に入るには各其の口あり、即ち山陽道よりするものは之を東寺口と云ひ、山陰道よりするものを清藏口と名け、西海道よりするを三條橋口と稱し、北陸道よりするものを大原口と呼び、東海道よりするを五條橋口と云ふ。此の他近隣諸國への通路には、粟田口荒神口鞍馬口七條口等の諸口あり。次に文政九年幕府令して驛傳に於て諸種の貨物に課稅せし大略を見るに、山崎驛に着岸せし貨物及び近郊の農民等が負擔する農產物等、皆其の驛傳に於て錢十文乃至三十文の稅を徵せり。又た從來京都より毎年大津大阪の地方に運輸せる千餘　の陶器に稅金を課し、製造人をして毎年十五貫文を京都の驛傳に納付せしめたりき。明治維新の當初驛遞役所を京都に設け、京都傳馬所及び假傳馬所を置き助郷十三萬石を附したり、かくて京都より各地に到る信書遞送の制を定め、京都東京間の定便を開き一夫の擔送重量五貫目に改定しぬ。

定六

京都の路口

驛遞役所

人口表

次に平安通志に掲げたる人口增減表に、明治五年及び三十六年の人口表を添加して舉ぐれば左の如し。

寛永十一年	四一〇、〇八九
寛文五年	三五二、三四四
延寶二年	四〇八、七二三
元祿九年	五〇七、五四八
正德五年	三五〇、九八六
享保元年	三五〇、三六七
享保四年	三四一、四九四
享保十四年	三七四、四四九
享保十七年	五二六、二二二
寛延三年	五二六、二二五
明治五年	三七三、七〇四
明治三十六年	三七九、四〇九

守護職及所司代を廢す

慶應三年將軍慶喜大政を奉還するに及んで、京都守護職及び所司代等幕府の置ける官職を廢したり。次て慶喜討薩の表を以て京都に迫り、守衛の諸藩兵と伏見・鳥羽に相戰ふ。明治元年正月嘉彰親王（故小松宮彰仁親王）征討大將軍に補せられ、錦旗を飜して進み淀城に入るや、慶喜船に乘じて東走し京畿漸く平穩に歸しぬ。此の年十月今上江戸に幸し、江戸城を皇居と定め、東京宮城と改稱す。これ先に大久保一藏（利通）の遷都建白に出でしなり。斯て一旦京都に還幸し更に翌二年三月再び東京に行幸し、皇后亦十月を以て東京に行啓せらる。是れより京都は頓に蕭條として舊都の如し。然れども爾來屢〻今上京都に臨幸せられたり、二十二年二月帝國憲法を發布し皇室典範を規定せられて、其の第二章第二條に即位の禮及び大嘗會は京都に行はせらるゝ事を定められたり。されば皇居は全く東京に遷されたりと雖ども、猶ほ京都は昔日の如く帝都の名を失はずして長くその面目を存せり。

伏見鳥羽の役

東京遷都

明治維新、官制改革に際して、元年二月京都裁判所を置き萬里小路博房之が總督に任ぜられしが、京都府に改るに及て長谷信篤知事となり大に市制を

上下二區に分つ

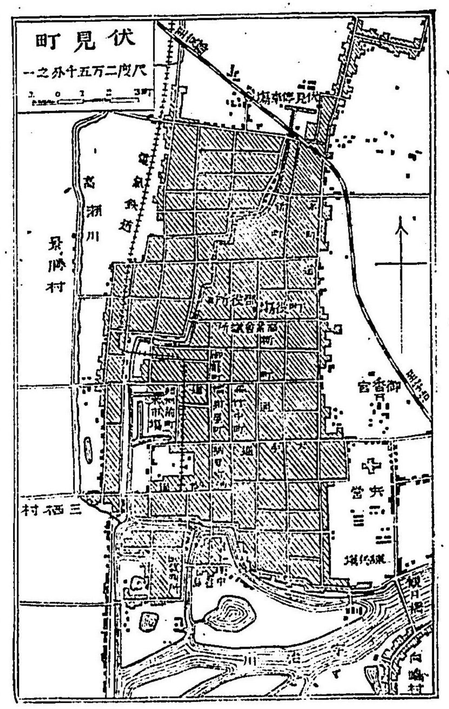
改定する所ありき。次て十二年三月京都府下郡區町編制法を實行し、京都市を上下二區に分ち、古の平安京の東北部は上京區に包含せられ、右京の地全部及び左京の壬生九條の邊は大抵葛野郡に編入せられたり、同二十一年六月に至り愛宕郡の岡崎聖護院吉田淨土寺南禪寺鹿谷清閑寺今熊野の八村を市に編入しぬ。翌二十二年三月三府特別市を發布し六月始めて市參事會を開けり。此年十月東京京都間鐵道開通し天皇皇后京都に行幸せらる。翌年四月琵琶湖疏水工事成り通水式を擧げ、同二十七年には鴨河運河疏通式あり。（一般冊詳に）此年七月一日京都市民桓武帝奠都千百年の紀念祭を行ひ、第四回內國勸業博覽會及び京鶴鐵道成立の祝宴を開きぬ。日清の役大纛を廣島に進め給ひ、皇軍連戰連捷其功を奏し媾和成るに及び、廿八年四月大本營を京都に移し天皇廣島より還幸せられたりき。又た東京及び奈良と相並びて本邦三博物館の一たる京都の博物館は廿五年之が工を起し廿九年に至りて竣功しぬ。

かゝる沿革を經來れる京都市は大內裏時代の平安京に比すれば、西は朱雀野、南は七條通より外は大概田園に變ぜしに反して、東は京極鴨河を踰えて東山に到りて直に近江國に接し、北は一條を過ぎて紫野に至る。即現今の位置の大に東北に移轉せるを知るべし。然れども今日の街衢にして平安京の舊に係るもの、多くその舊名を存す。今の寺町はこれ古の東京極にして、即ち是れより以西千本通に至る間は左京の地なり。今日京都市の町數實に千六百八十九を算す、而して大體に於て區劃井然たるもの、是れ實に平安京の古制を存したるものにして我邦他に比類なきなり。

京都市を焦點として四方に輻射する街道は、南に奈良街道あり、東に東海道あり、西に丹波街道あり、北に北國街道あり、西南に西國街道及び大阪街道あり。今、これ等沿道の地理を記せむとす。奈良街道は京都市の南端柳原より、稻荷に至り、これより坦途直ちに伏見町に入れども、奈良鐵道の線路は、京都七條より九條を經、鳥羽を掠めて、斜に、伏見町に入り、町の北端にその停車場を置けり。ことに、京都伏見間には、電車また開通せるを以て、其間二里餘を隔つと雖も、恰も同市街の中にあるが如き心地す。伏見町は紀伊郡の東南部に位し、南に淀川を帶び、西に高瀨をめぐらし、淀川舟楫の便

奈良街道

伏見町



郡役所伏見町役場、御駕籠町に商業會議所、革屋町に伏見銀行あり。又町の北方深草村に歩兵第十九旅團司令部、及び歩兵第三十八聯隊の兵營あり。町の宇治川に瀕せる處に、淀川汽船會社あり。此地を起點として、大阪に至る航路を開き、日々小蒸汽の發着あり。また、淀川三十石の舟も此地より發は一に此處に集る。これを以て、その繁華は京都市に次ぎ、人口一萬九千五百餘を有せり。最も繁華なる處は新町通大手町通にして、商賈相櫛比し、街路又整正なり。板橋に、紀伊

桃山城趾

着す。元來、此地は往昔荒原にして、唯二三の村落ありしのみ、古歌にも伏見野と咏ぜし處なりしが、文祿三年豐臣秀吉桃山に城を築いてより、漸く人家を增し、德川氏に及びては、伏見奉行を置き、且其地が往時淀川の水運の要衝に當れるを以て、終に今日の繁榮を致したるなり。城址は町の東方伏見山にあり。慶長五年石田三成の亂、鳥井元忠東軍の爲めにこれを守り、浮田小早川島津の大軍を拒ぎて、遂に陷落したるの地、今、唯城山の名を存せり。此附近、梅樹多く、花時は暗香疎影、遊人の至るもの多し。町の附近に、藤森神社・桓武天皇陵・城南宮等あり。町を離れば、宇治川木幡より來りて、溶々として其の東南をめぐり、其處に長さ九十八間を有する觀月橋を架し、風景頗る佳なり。奈良鐵道は町の北端に伏見驛、東端に桃山驛を置き、それより六地藏を經て、木幡に一停車場を置けり。此地より醍醐地方には幾かに十七八町を隔てたるに過ぎず、醍醐天皇の草創せる醍醐寺、明智光秀の土民に殺されし小栗栖の遺蹟等皆なこの停車場より行きて訪ふべし。北、五ヶ庄に、宇治火藥製造所及び宇治火藥庫あり。これより少しく南に下れば、堯道に、

黄檗山萬福寺

黄檗宗の總本山なる黄檗山萬福寺あり。頗ふる有名にして、宇治町の白壁と、一水を隔つるに過ぎず。開祖は明の僧隱元和尚にして、伽藍の經營多く支那風を模し、山門・天王殿・大雄寶殿・法堂・鼓樓等域内に鱗次し、寺域七萬餘坪に亘る。蓋し近畿有數の巨刹なり。宇治橋は宇治川に架せる長橋にして、長さ約百間、橋下の流は溶々として藍碧を溶かすがごとく、東部の山影は一帶の翠嵐を其上に曳き、風光秀麗を極む（第四圖乙）。其上流の琵琶湖を發するや、勢多南郷に至りて、比叡山脈の南部を横斷して峽流をなし、山嶽嵯峨たるの中一水空しく流るゝの感ありしが、此處に來りて、始めて山を出て、北、伏見の平野に向つて奔流し去る。此流は歴史上頗る著名にして、かの佐々木梶原の先を爭ひし古蹟なり。宇治町は宇治橋の以南に開けたる名邑にして、坦々たる一路の兩側には、名産なる茶を販賣せる老舗櫛を連ね、毎年、初夏の候に至れば、茶摘女近國より集り、其風俗自づから他に異るものありといふ。宇治橋より河岸に添ひて少し上流に進めば、有名なる古刹平等院（第三十六圖乙）あり。こは、貞觀年中河原左大臣融の別業たりしもの、後、藤原氏の手に歸

宇治川

宇治町

平等院

し、永承七年頼通遂に改めて寺と爲せり。鳳凰堂は即ちその本堂にして、中央に位して北に面し、廣さ方五間、圓柱十を有し、長く裳階をめぐらせり。藤原式の粹を拔きたる建築として名高く、屋は破風造り二重瓦屋にして、左右に翼屋を有し、その折るゝ角に高閣あり。全體の配合頗る美、よく當年の建築の面影を存せり。堂の南位に佛壇を設け、小組折上二重合天井にして、楣間に、三十五菩薩紫雲に乘じて奏樂するのさまを刻す。總て黑漆丹殿五彩を以て是を飾り、覽者をして其若古絶美なるに愕かしむ。本堂は特別保護建造物なり。又螺鈿の天蓋、天井柱楹の彩色、扉面落書を以て滿されたる爲成の筆など、藤原時代の名作にして、共に、美術上大なる價値を有するものなりといふ。本堂の前なる池は、惠心僧都の作る所にして、往古は宇治川の水を引きしと言ふもの、岸邊棣棠花多く、白蓮また多し。

鳳凰堂

釣殿

釣殿は河原左大臣垂の舊蹟、結構甚だ堅牢、瓦屋にして北に面せり。又、特別保護建造物なり。釣殿の側の地、青芝氈を布くがごとく、一松樹下に一碑あり。源頼政が戰敗れて以て自殺したるの地、扇の芝と稱するは、これなり。鐘樓に藏せられた

る古鐘を見、阿彌陀堂・法華堂・御堂・五大堂を巡覽し、さて、一帶の堤防にのぼれば、漫々たる宇治川の奔流は藍を流して、前に長橋の虹霓を架したる、思はず人をして快哉を連呼せしむ。宇治川の東岸に、橋寺あり、日本三古碑の一なる宇治橋斷碑を藏す。これより南すること二町、離宮八幡あり。また、宇治町の附近に縣神社・橋姫祠等あり。宇治川の畔、泉質純良なる硫黄泉を湧出し、溫泉旅館一戸あり、一浴するに足る。この宇治の一區、山近く、水清く、春花秋月皆遊覽に適せるを以て、京都・大阪より遊覽するもの、常に絶えず、一勝地たるに負かず。

伏見町より觀月橋を渡りて奈良街道を下れば、路傍に、巨椋池の瀲灩たるを認む。此池(第九圖乙)は宇治・桂・木津の三川、淀町に於て會湊するが爲めに自然に湛へられたるもの、俗に、大池と呼び、周圍四里十一町、湖中に蓮花多く、風光また佳なり。大久保村字廣野に、新田停車場を置けり。久世は往昔の小篠峯鶯阪の舊地にして、万葉集に『山しろの久世の鶯阪』と咏ぜるは、これなり。地に、久世神社あり。長池驛を過ぎ、青谷村大字中村及び市の邊に、一大梅

巨椋池

林あり。地には他の奇なしと雖も、花時は天地爲めに白く、芳香四境に滿ち、新月ヶ瀬の稱あり。玉水驛には、井手の玉川の古蹟あり。今、猶棣棠花多し。また玉井寺・井手左大臣館址・玉津岡神社等あり。高倉宮は治承四年源頼政の軍破れて、以仁王が宇治より落去の際、流矢に中りて薨じ給ひし地、其兜を祠殿に奉安せるを以て、今、俗に兜八幡と稱す。

木津川の流れたる平原には、東に奈良街道並に之に沿ふて走れる奈良鐵道の外に、其西岸には別に關西支線を走らせつゝ、遂に、上狛・木津の地に達す。木津町は木津川の南岸に位し、人口五千七百を有せる一名邑也。上狛と木津町との間に架せられたる橋は泉橋と稱し、長さ三百八間、山城第一の長橋と稱せらる。町に、相樂郡役所・稅務署・農林學校等あり。木津川に添ひて並走せる南鐵道は、木津町の東端に於て相交叉し、奈良鐵道は南下し、關西支線は東走し去れり。町の南六町を隔てゝ、岡田國神社あり。式内社にして、齊明天皇五年の創立なり。其他、附近に和泉式部墓・大智寺・平重衡首洗池・哀堂・相樂神社・御靈神社・藤原百川墓・鹿背山不動堂等あり。

井手玉川

木津町

恭仁宮址

相樂の東部は、聖武天皇の恭仁宮を置かれたる地なるを以て、多く古蹟に富めり。續日本紀に曰く、天平十三年正月癸未朔、天皇始めて恭仁宮に御して朝を受け給ふ、宮垣未だ成らず、遽らすに帷帳を以てす云々と。蓋し此都は加茂・瓶原・木津・上狛に亘り、鹿脊山以東を以て左京と爲し、以西を右京とせられたるがごとし。萬葉集第六田邊福麿が久爾の新京を賛する歌に、山脊乃鹿脊山際爾宮柱太敷立亭々云々と言へる、即ち是なり。また、加茂より愈東すれば、天子蒙塵の舊蹟たる笠置山の翠微屹として川の南岸に聳え、愈人を して追憶の念に堪へざらしむ。笠置の地、河北を北笠置といひ、河南を南笠置といふ。笠置山は河岸に聳ゆる樹木鬱蒼たる崔嵬にして、山中に文殊院・福壽院等の寺院あり。關西鐵道の笠置驛より登路幾かに十二三町、古蹟は山中到る處にあり。今、其二三を錄すれば、文殊院の東に、藥師・彌勒・虛空藏の三巨石あり。高さ五六間乃至八九間にして、往古は石面各其名の佛像を彫したりしが、諸堂炎上の時、共に猛火に燃かれ、概ね銷盡して、今形態を留めず。唯虛空藏石のみは、幾かにこれを認むるを得るなり。これより北すれば、石

笠置山

門あり。これより西折すれば太鼓石あり。其傍數歩一石あり、面平かにして座すべし。この附近を後醍醐天皇皇居の蹟と爲す。又、其南方に笠置石あり。俗に傳ふ往昔天武天皇此山に遊獵し、雷雨に會したる時、御笠を置きたる處なりと。而して山名亦これより起ると稱す。西に、一懸崖あり、土人これを貝吹岩といふ。後醍醐天皇軍をして此懸崖に上り、貝を吹かしめ給ひたる舊蹟なりとぞ。其他、堂宇岩石等見るべきもの多し。笠置より東、木津川の沿岸に炭酸泉あり。有市鑛泉といふ、一浴すべし。愈東すれば、伊賀川名張川の會湊點明神瀧あり。全川瀑布を爲し、頗る壯觀を極む。ことに、附近岩石峙立し、雄臺雌臺の勝あり。また、有市より北、山中に入れば、湯船村字小杉に大智寺あり。東和東村大字原山の山巔に、金胎寺あり。金胎寺は眞言の巨刹にして、自から一區の靈域を成せり。

西國街道

更に京都市に戻れば、西國街道・大阪街道の二路は、共に市の西南端八條より起り、一は桂川を渡りて向日町に出で、一は上鳥羽・下鳥羽を過ぎて淀町に達せり。而してこの二路は河内の國境を距ること、幾かに三四里に過ぎざる

向日町

を以て從つて記すべきこと少し。西國街道の向日町は乙訓郡役所のある處にして、人口三千餘を有する一名邑なり。丘上に、向日神社あり。町の西方丘陵の起伏する地は、所謂往昔の大原野にして、大原野神社・勝持寺・長岡舊都址西岩藏金藏寺・西山三鈷寺・善峯寺・十輪寺等あり。皆多少の歴史上傳說古蹟を有せり。其他、柳谷觀音・長岡天滿宮等あり。天王山は山崎の狹隘の西北を擁し、有名なる古戰場なり。其半腹に、寶寺あり。又、其麓に、離宮八幡宮あり。

男山八幡

山崎より淀川を渡れば、男山八幡の丘陵は屹として聳ゆ。男山神社は有名なる官幣大社にして、祭神は應神天皇神功皇后・玉依姫の三座なり。山を登りて二の門に至れば、門は石階の上にあり。唐破風作りにして、左右に廻廊を遶らし、神殿・拜殿其の中にあり。

八幡町

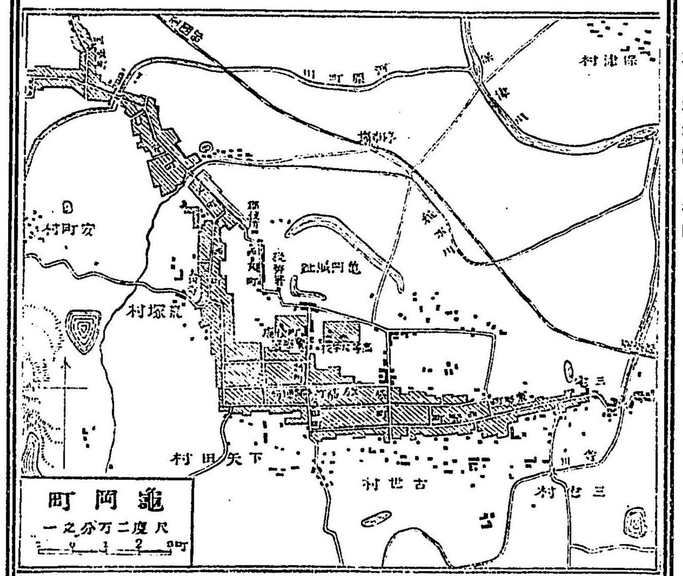
境内に、石清水・景清塚・楠公手植の榛樹・上下高良社等の諸勝あり。攝社には、若宮・若宮殿・水若殿・住吉社・狩尾社等あり。この丘陵の東麓、木津川に臨みて、八幡町あり。人口五千餘を有する名邑にして、昔は交通の要路に衝り、頗る繁華を極めたりしも、今は少しく衰退せり。これより西、半里餘を隔てゝ、

淀町

河内の國境に、橋本と稱する一驛あり。淀川を隔てゝ乙訓郡の山崎と相臨み、眺望甚だ佳なり。淀町は京都街道の要衝に當り、桂・木津・宇治の三水の相會湊する一角にあり。淀川の交通上頗る重要の地に位し、往昔三十石の舟楫の盛なりし頃は、人烟頗る繁盛なりしといふ。人口六千餘を有し、久世郡役所は此地にあり。德川氏の初世松平定綱を此地に封ぜしが、降つて享保年間稻葉正知これに代り、以て維新の時に及べり。其城址は今は壞敗して、纔かに斷礎を留むるのみ。昔、城外に巨大なる水車を設け、水を城中に引き、淀の川瀨の水車の名は世人に膾炙せしが、今は其の面影もなし。北岸、水垂に淀姫社あり。また、此町の東南十町許の地は、古歌に、美豆の御牧と詠じたる天子牧馬の地なり。この東南、佐山村に、樫本（アヂモト）八幡宮あり。祭神は男山八幡に同じ。

丹波街道

京都の西部より西に走れる一條の大路、これ、即ち丹波街道にして、府下の丹波・丹後に赴くものは皆なこれを過ぐ。京都鐵道の線、桂川の峽谷を或は離れ或は添ひつゝ其地に向へり。岡村を經て、老の坂峠を越ゆれば、保津川



龜岡町

保津川の峽流

の溪谷は一帶の標式的盆地をなして前に開け、こゝに龜岡町の人烟の颯るを見る。町は附近の村落五六を併せて、人口七千五百を有し、南桑田郡役所は此地にあり。町の北を流るゝ保津川は、山城國桂川の上流にして、保津より嵐山に至る間、山高く水急に、峽谷奔湍の美、頗る人を鮮かならしむるものあり。（第三圖）保津濱に城丹會社あり、この急流を下るの舟を備ふ。其間はかりが瀨・金岐の瀨・小鮎の瀨・犬戻り・鵜飼の瀨等の急瀨あり。或は奇岩、或は懸崖、或は靜潭、或は奔流、人をして肌に粟せしむるがごとき險少しとせず。しかも其舟行極めて速かに、二時間にして、嵐山の麓に達することを得といふ。且、丹波の山中より、杉・檜・松等の木材を伐採し運搬するを以て、舟筏甚だ多く、風景甚だ畫に似たり。町の南に龜岡城址あり。明智光秀が丹波を治めたる根城にして、當時は頗る有名なるものありしも、今は大抵壞敗して、唯だ天守臺に一株の銀杏の大樹の盤踞するを見るのみ。町の南に、天岡山あり、其麓に鍬山神社あり。紅葉を以て名あり。其他、西南一里を隔てゝ、曾我部村に、法貴谷あり。花崗岩の奇岩怪石起伏し、頗る奇觀を呈せり。またこの地より攝津の能勢の妙見山に達するの捷路あり。此地の名產に、桑酒あり。四近の山また松茸に富めり。これより三條の大路は分岐し、一は南西に向ひて、攝津の三島郡に通じ、一は西に向ひ、半國山の麓を過ぎて、篠山町に至り。一は丹波の本街道を爲し、八木驛より、園部町に至る。八木附近は木材・薪炭の產出夥しく、その停車場は常に其種の輸出品を山積す。八木より園部

法貴谷

八木

園部町

小嵐山

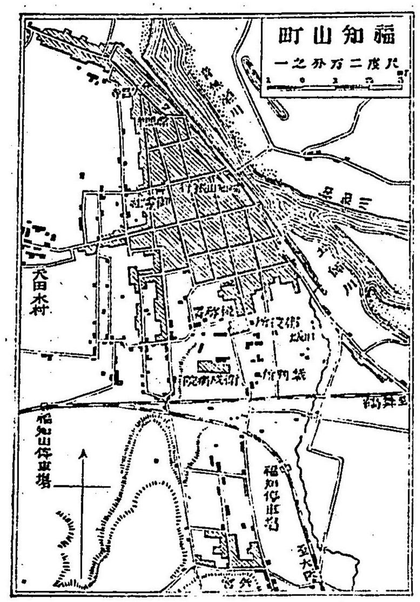
町まで、里數僅かに三里、此處に至れば、山嶽漸く四合、翠嵐白雲常に來りて檜頭に迷ふ。人口を有する僅かに二千餘に過ぎざれど、船井郡役所を有するを以て、また山中の一名邑と稱せらる。五色の唐板丹波栗等は其地の名產なり。且京都鐵道は今其の終端驛を此地に置けるを以て船井北桑田兩郡の產物は皆來り集り、商業交通稍活潑なり。町に、小公園あり。又、西北十二三町を隔てゝ、一勝地あり。山水の美、京の嵐山に似たるを以て、人稱して小嵐山と言ふ。これより本街道は山地丘陵の間を縫ひて、檜山に達し、これより二路に分れ、右せるは、草尾峠を越えて、何鹿郡に入り、山家村綾部町を經て、福知山町に達し、左せるは、菟原峠を越え、生野を經て、同じく福知山町に至る。この兩街道、地僻にして、記すべきもの少し。綾部町には、何鹿郡役所ありて、人口四千餘を有し、阪鶴鐵道の線、福知山町より來りて、此町に一停車場を置けり。

本街道の線には、井尻に龍福寺、上大久保に長樂寺、多保市に善光寺等の諸刹ありて多少の傳說を有するに止る。かの小式部の國風に咏ぜられたる生

生野

福知山町

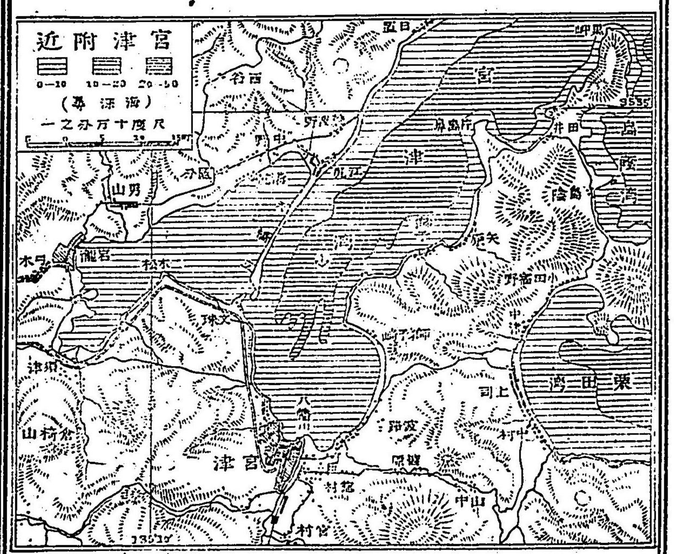
野も往昔は繁盛なる驛なりしも、今は人口稀疎なる一村たるに過ぎず。又、須知の東、市森に、琴瀧と稱する一瀑布あり。



福知山町は天田郡に屬し、山城・攝津より丹後地方に赴くの要衝に當り、數條の大路は皆な此町に集冲す。否それのみならず、阪鶴鐵道の線路、此地を横斷せるを以て、商業次第に繁盛を致し、優に、國中第一の地位を占むるに至れり。且、番無瀬川の水路は、丹後の由良港に至るの舟楫の便を備へたるを以て、交通更に頻繁なり。町に、停車場二あり。一を福知停車場といひ、他を福知山停車場

と言ふ。歩兵第二十旅團司令部此地にあり。所屬聯隊の兵營は、町の南端、丘陵の上にありて、日夕敎練の號令を聞く。町の商業は主もに、生糸の賣買にして、近年更に盛大に赴くといふ。町の北方に、一高丘あり。鬼ヶ城山と稱し、登臨すれば、遠く若狹丹後の海を望み、眺矚頗る雄大なり。舊城址は町の中央にあり。其附近に、郡役所裁判所あり。其他、稅務署衛戍病院福知山銀行等あり。御靈社は町の東部にありて、參詣者常に踵を絕たず。寺には常照寺久昌寺等あり。福知山町より西方但馬に通ずる道路は、上川口村に至り、岐れて二支と爲り、その西北に出づるものを豐岡街道といひ、額田村を經て鳥取島根に出づるものを山陰街道と言ふ。又、北方丹後に通ずるものも亦岐れて二支と爲る。一は宮津に通じ、一は久美濱に至る。又東に向ふ時は綾部より舞鶴に至るを得べし。福知山町より音無瀨川に沿ひて、下れば、公莊・蓼原を經て河守町あり。人口二千餘を有する小邑にして、地は既に丹後國加佐郡に屬せり。これより舞鶴町に通ずる一路分岐す。宮津街道を進めば、天田村に、豐受神祠あり。內宮村に、皇太神祠あり。共に此地方に於ける有

宮津町



名なる古社なり。かの著名なる大江山は、其西一里餘の處に聳え、雲烟の出沒頗る奇なり。この山脈の一支普甲峠を越ゆれば、宮津灣の蒼波遠く目睫の間を掠めて、島山の風景頗る旅客の心を惹く。

宮津町は宮津灣の奥に位し、有名なる日本三景天の橋立を其前に抱き、左方更に波靜かなる一回灣阿屠の海を形成せり。町は舞鶴町と共に繁華なる都邑にして、兼ねて又良港なり。（第二十二圖乙）蓋し灣內深廣

にして、風波の患少なく、北海に航する船舶は多く此地に碇繫するを以てなり。人口を有すること九千餘にして、市街の布置また甚だ整齊なり。地に、與謝郡役所あり。古城址は海岸に臨みて、今は僅かにその殘墟を存するのみ。北海の航海は毎年四月より十月を以て限りとなせども、此地より若狹小濱を經て越前敦賀に達する汽船は、毎日午後七時を以て發するを例とす。而してこの汽船は丹越汽船株式會社に屬せり。

天の橋立

天の橋立（第二十一圖）は日本三景の一にして、對岸江尻より一帶の砂嘴長く宮津港の海岸に突出したる光景を言ふ。砂嘴には松影邐迤として相接し、海水の深碧なる、白帆の處々に風を孕みたる、眞に是れ一幅の畫圖と稱すべし。宮津港の北文珠村に、智恩寺あり。もしそれ、船を碧灣の中に艤し、或は青松白沙の下、或は蒼波瀲灩の間、靜かに名勝を巡覽せば、其興更に盡きざるものあるべし。ことに、海を渡りて江尻に至り、成相山の絶巓に立てば、其眺矚更に一層の美を加ふる者あるべく、其の大觀多く他に求む可らず。蓋しこの丹後の海岸、犬牙相出入し、山影波光、奇岩怪石と相待つて、一種他に

成相山

見るべからざる風景を展開するに由るなるべし。成相山は其頂上を鼓ヶ岳といひ、山上に成相寺あり。またその山麓に、籠神社あり。阿層の海の西岸に成瀧港あり。港内狹きにあらされども、水淺きを以て、僅かに小舟を泊せしむるに過ぎず。

宮津町より東して上司に至り、栗田灣の海岸を傳へば、一名丹後富士を以て有名なる由良嶽の麓に、由良の一小邑あり。由良川の河口に臨み、人口一千五百餘を有し、船舶また來り泊するもの多し。かの院本に名高き三莊大夫の故地として名高く、三莊大夫が鋸刑に處せられたりといふ一松樹、今猶存し、山畔の小祠には安壽姫の靈を祀れり。路はこれより南に向ひ、一里餘にして中山に達し、これより猶二里にして舞鶴町に至る。

舞鶴町

舞鶴町は舞鶴灣の灣頭にありて、加佐郡の中央に位し、丹後國第一の都邑なり。殊に、日本海頭唯一の軍港として、海軍鎮守府の設けられてより、今は汽車も亦これに通じ、交通の頻繁、將來の發達また更に期して待つべし。町を東舞鶴・西舞鶴の二つに分つ。西舞鶴町は即ち在來の舞鶴町にして、昔は

田邊と稱せし地、戸數二千、人口一萬餘を有し、地方の行政機關皆な此地にあり。港頭には船舶常に群集し、宮津・敦賀間航海の汽船は常に此地に寄港するを例とす。城址は町の東端にありて、慶長年間、細川幽齋が西軍を拒ぎし地なり。維新前は牧野氏の城邑たりしが、今は公園として衆庶の來り樂しむところとなれり。公園の名を心種園といふ。中に、紀念碑一基あり。以て其の來由を記せり。城壁は大半崩壞し盡したれど、庭內の蓮池は依然として、紅白其妍を爭ひ、遊覽者多し。又、町に、瑞光寺・桂林寺等の巨刹あり。また、宇朝代に朝代神社あり。官衙は北田邊町に加佐郡役所、南田邊町に、區裁判所、上安町に、舞鶴聯隊區司令部等あり。海軍鎭守府の所在地なる東舞鶴町には、西舞鶴廣小路通より一直線に東行し、榎木峠を越え、行くこと一里餘にして達す。此附近はもと荒涼たる原野なりしも、鎭守府の設立以來、忽然として一箇の新市街を形成し、官衙・工廠・邸宅相櫛比し、今は熱鬧の地となれり。ことに水道は敷設せられて、水源を二三里外の山中に求めたるが如き、其規模壯大なるものあり。軍港としての設備、また頗る至れるものあれど、

舞鶴鎭守府

殊更に筆を省く。これより若狹街道を東に進めば、二里にして、市場の一小邑あり。猶東する一里餘、吉阪に、金剛院あり。海臨寺は郡の東北端東大浦寺大字田井にありて、舞鶴町を距ること六里、兜崎と成生崎と相對したる灣內に位し、一丘陵の半腹にあり。これを以て、眺望絕佳、近くは馬建島・片島・葛島・毛島を始めとして、東、若狹の海岸の長汀曲浦を望み、頗る名勝の地と爲すに足れり。

峰山町

更に宮津町に戻りて、但馬街道を辿れば、須津・弓木を經て、口大野に至り、二里餘にして、中郡の都邑、峰山町に至る。地は元、京極氏の城邑にして、人口三千餘を有し、中郡役所あり。四面丘巒の間にありて、交通稍不便なれども、其の近傍、織物及び生糸を產するを以て、商業繁盛なり。かの有名なる丹後縮緬は主に此地及び其近村より出づ。字泉に金毘羅神社あり。其祭禮の賑かなるを以て、名あり。これより北、三里、海に瀕して網野村あり。竹野郡役所の所在地なり。

網野村

熊野郡は國の最西端にありて、西南は全く但馬に連る。其北部に、久美濱

久美濱町

港あり。（第二十圖甲）灣口狹窄にして、襄を括したるがごとく、宛然一湖水の觀を爲せり。港口水淺くして、大船を泊するに足らざれども、また冬期に於ける和船の好碇泊場たるを失はず。町は、人口二千を有するに過ぎざれど、また此地方の一名邑たるに負かず、且つ漁獵に富み、別に絹布を製するもの多きを以て稍繁盛なり。町に、熊野郡役所あり。字小谷に、神谷神社あり。されど風景の卓れたるは、町の東方甲山に鎭座せる金毘羅神社の境內に若くなし。此處に登れば、久美濱灣の風景を始めとして、東は丹後、西は但馬の海岸を望み、青松白沙、宛然小橋立の觀を爲す。惜らくは地僻にして、人のこれを訪ふものなきを。

甲山

大阪府

大阪府

大阪府は近畿の西部に位し、東北は京都府に接し、東は奈良縣に連り、西北は兵庫縣に堺し、南は和歌山縣に隣り、西南の一部は大阪灣に瀕す。府廳は大阪市にありて、その管するところ、二市九郡なり。二市は大阪市及び堺市にして、九郡とは攝津の西成・東成・三島・豐能、和泉の泉北・泉南、河內の南河內・中河內・北河內即ち是なり。其の廣袤は東西二十里餘、南北四十里、全面積百十五方里餘人口百八十一萬三千三百人を有す。一方里の人口一萬五千六百八十人餘に當れり。

人口・面積

地勢

地勢は東西に短く、南北に長く、攝津の北方に位する地は、山嶽丘陵相起伏し、京都府・丹波國に境する附近はことに複雜を極む。また奈良縣に接するの邊は葛城山脈蜿蜒として南北に走りて、明かに其境界をなし、中に生駒山・二上山・葛城山・金剛山等の諸名山あり。南方和歌山縣との界には、和泉山脈の橫はるものあり。其側脈北に延びて河內・和泉の南部に至り、丘陵となりて起伏す。されど、縣下は概して平地に富み、概稱して攝河平野と云ひ、淀川・大和川・武庫川等の灌ぐ所となる。殊に、其の海岸には關西第一の商業都會たる大阪市を有し、水陸交通の便頗る多く、物資の集散從て甚だ盛に、工・商の業大に興り、此他都邑・村落の發達せるもの尠なからず。河川の中、淀川は府の大動脈をなして、攝津平原と京都平野とを連絡し、交通灌漑の便極めて多く、

其他平野の中には大和川・神崎川・中津川・猫間川・武庫川等あれども、何れも水淺く舟楫の便なく、而かも其沿岸の平野を灌漑して、土地をして豐腴ならしむるの効に至りては又少なしとせず。管内池沼また少なからず、就中、最も大なるは和泉國泉南郡の久米田池にして、これに次ぐを狭山池と爲す。共に甚だ灌漑に便なり。

府の北部

管内の北部、丹波の境に近き地方は、丘陵起伏し、田圃少く森林に富み、人口の密度甚だ少し。從つて此附近、木炭薪材に富み、ことに其質良好にして、池田炭のごとき其地方の名産と稱せらる。

府の西南部

府の西南、大和川口より南に至れば皆平滑なる砂濱にして、その延長十餘里の間一岬・一岩の突出するものあるを見ず。處々に白沙青松、頗る明媚なる風光を幻出し、遊客をして佇立去るに忍びざらしむるの地勘なからず。而してこの沿岸には堺市あり、岸和田町あり、貝塚町あり。

交通

府下の交通を略記すれば、鐵道は蛛網のごとく管内を貫通し、京都府より來りて兵庫縣に去るの官線を始めとし、其れと殆んど並行して大阪より京都府木津に達する櫻宮線あり。又大阪の南部より起りて三方に輻射する關西鐵道・南海鐵道の諸線あり。東に向ふ者は奈良に至り、南する者は和歌山に向ひ、而して其中間を走りて東南に向ふ者は高野線と稱し、堺市の東端を掠めて、河内に入り、狭山より長野に至りて停まる。其他、大阪市の東部を一周する城東線、同じく北區より安治川河口に達する西成鐵道等あり。道路の主要なるものは京都府より來りて暫く官線の鐵路と相並行し、芥川より岐れて池田町・伊丹町の間を西走する西國街道を始とし、八幡町より來りて淀川に沿ひ枚方町・守口町を經て大阪市に入れる京都街道、大阪市より淀川を渡りて池田町に達する池田街道等あり。其他、大阪市南區を出てゝ、堺市を過ぎ、長く海濱に添ふて走れる和歌山街道あり。大阪市より河内地方に入るものは今福より住道を經て奈良に達するもの、中本及び天王寺より八尾町を經てやがて大和に入り王寺に達するもの等その重なるものなれど、其中間に位する暗峠（クラヤミ）・十三峠等又重要なる道路たり。殊に暗峠は鐵道敷設以前は大阪より奈良に至る最捷路たりしを以て、往來の客頗る頻繁なりき。王寺街道の柏原驛より南に

岐れて南河内郡を縱貫し紀伊地方に赴くものは東高野街道と稱し、堺市より和泉・河内の國境を縫ひて南走せる西高野街道と長野に於て相會せり。堺市より出て、和泉の國内を走るものは淺より出て、長泰寺に至りて二派に分れ、一は鶴田より南に折れて泉北郡の中央を横斷し、一は王寺・國府等を經て、南海鐵道及び和歌山街道に沿ひ、蜿蜒として遠く和歌山縣に達せり。府の北部に至れば三島・豐能兩郡より丹波地方に赴くもの三、一は山崎街道の芥川より岐れ、一は耳原より岐れ、一は池田町より岐れ、共に丹波國亀岡町に向つて集中す。又池田町よりは西北に向ひ、直に兵庫縣に入り、山間を走りて丹波の篠山町に至る線路あり。

これより各地方に亘りて詳しく記せんに、官線鐵路は京都府向日町より來りて、淀川の右岸に近く、直ちに山崎に至る。此地に葛城山脈の餘派と老の阪山脈との一部と相窄迫して、狹隘を爲し、明智光秀が豐臣秀吉の軍を防ぎて破れたる有名なる天王山はその右に聳えたり。山崎驛に入りて、其東北に關戸院址あり。こは寛永七年宇多天皇が京城の四境に立てられし四關の一に

山崎の狹隘

して、その址は今關戸神社の社頭に殘れり。島本村大字廣瀨に、水無瀨神社あり。官幣中社にして、後鳥羽・土御門・順德の三帝を祀れり。此地は文德天皇第一の皇子惟喬親王の舊蹟にして、後、後鳥羽天皇の離宮となせしところとして著名なり。本社は街道を入ること三町餘、修竹路を夾みて晷影を洩さず、清淨にして且幽寂なり。社後に、一茶亭あり、後水尾天皇より賜はりしものと稱し、結構古雅を極む。社の前に隆起せる丘陵を廣瀨山又は水無瀨山と稱し、桓武帝及び嵯峨帝の常に遊獵あらせられしところと傳ふ。頂上の眺望甚だ佳なり。又此地に維新の役忠死の碑あり。天王山の半腹に若山神社あり。山崎驛の茅茨瓦甍相連れる間を過ぎて、大字櫻井に至れば、山崎街道に沿ひ、數頃の地枯松の老幹縱かに存せる處、一大石碑の立てるを見るべく、碑面題するに楠公訣兒所の五字を以てし、且つ元本邦駐劄英國公使たりしパークスの文を刻し、周圍に玉垣をめぐらせり。正成が死を決して闕を辭し、遙かに西に下りたる當年の狀想見すべし。櫻井御所址は櫻井の西方西山の半腹にありて、桓武天皇の御宇滿院法親王幽棲の地と稱す。現今、地の名族清水氏の

水無瀨神社

櫻井驛

楠公訣兒處

高槻町

芥川村

窯、櫻井燒と稱する一種雅致なる陶器を製せり。能因塚は磐手村にありて、鐵道線路を西に距ること十餘町に過ぎず。同村成合村に金龍寺あり。高槻町は山崎街道と茨木街道と岐る處にして、其町より起れる一路は逶迤として淀川の沿岸に達し、直ちに河内なる枚方町と粉壁相望めり。町は舊高槻と上田部の二村を合併せるもの、人口三千餘を有せり。維新以前は永井日向守の領する所にして、市街の西南に、城廓及び塹濠の跡を存せり。址内乾位に當りて、野見神社あり。野見宿禰を祀る。又其附近に永井神社あり。舊城主を祀れり。本山寺は清水村大字原村の北にあり。高槻停車場より四里を距つ。本堂の後に五水の瀑布あり。直下四丈餘に過ずと雖も、日光常に掩映し、瀑底虹を懸くるを以て此名あり。芥川村は山崎街道に位し、人口千八百餘を有せり。此地は歴史上著名にして、ことに足利の末路、三好松永諸族の據りて織田信長に抗し、叛服常ならざりしところ、芥川の小流は清水村大字原の神峯山山中より發し、芥川高槻を經、三個牧村字唐崎の東に於て淀川に注げり。富田村は高槻町の西南一里に位し、街道は三島村より來り、蛇行して村を貫

三島江

き如是村に入る。又、一支道に牧持寺道あり、一に巡禮街道といふ。村に、慶瑞寺・普門寺・本照寺等あり。松永久秀宅址は如是川の北、城垣内と稱する地にあり。久秀の生れたる地と稱す。富田より芥川に添ひて南に下れば、淀川の流溶々として遠く、白帆の去來、風致頗る掬すべきものあるを見る。此附近三個牧村の地は、昔三島江と稱せし處にして、其沿岸猶その小字殘れり。古來、歌の名所として、雅客の咏に上りしもの甚だ多く、今は茅葺竹椽數十戸沿岸に錯落して、人稀に烟少き一寒村たるに過ぎざれども、昔三十石船の盛に往來せし頃は、頗る繁華を呈したりといふ。村に、三島鴨神社あり。延喜式内の古社にして、淀川の隄防を距ること纔かに數町、松樹四境を圍み、自から別天地を爲せり。神社の鎏頭、片葉の芦を生ずること昔に變らず。玉川は如是川の下流にして、三個牧・野々宮の間を西南流し、吹田附近に至りて、安威川といふ。此の一帶の地は、所謂往昔の六玉川の一にして、卯の花を以て顯はれしところなれど、今は全く荒蕪に歸し、芭蕉翁の句を鐫したる斷碑の其間に立てるを見るのみ。其の南方、鳥飼の地亦鳥飼御牧を以て有名なり

吹田村

しところなり。附近に、溝咋神社・藤杜神社等あり。これより淀川の岸を西南に傳ふこと一里餘、津屋に至れば、神崎川は一大分流を爲し、其の西岸に、有名なる往古の江口の里あり。上古は此地淀川の河口を爲し、船舶來り舶し、頗る盛況を呈したりきといふ。吹田村は人口四千四百を有し頗る繁華なり。町の南部、神崎川に一大橋あり。長さ九十六間、幅六間、宛然虹霓の空に横はれるがごとし。汽車此地に近けば、其右手に當りて、一大工場の高く烟を吐けるを認むるなるべし。これ、關西地方に有名なる大阪麥酒株式會社にして、かの朝日麥酒は實に此社の製する所にかゝる。村に一巨刹あり、觀音寺といふ。其他護國寺・瑞光寺等あり。垂水神社は吹田停車場を距ること半里餘、豐能郡豐津村大字垂水にあり。式内の神社にして、旱を祈るに驗あり。

巡禮街道

更に初めに戻りて、富田村より西に向へば、巡禮街道に總持寺あり。眞言宗にして西國巡禮札所二十二番の靈場なり。寺は高地にありて數十級の石階遙かに寺門に通じ、本堂は頗る壯麗を極めたり。往昔歴代の天皇の屢巡幸あらせられし勅願所にして、現今の建物は慶長八年、豐臣秀頼が其臣片桐且元

總持寺

茨木町

に命じて再築せしものといふ。茨木町は人口二千餘を有する一小邑にして、山崎街道・高槻街道の衝に當り、官線の停車場は町の西端にあり。古城址は町の西方にありて、東西二町南北三町餘あり。今は肆店櫛比して遺址の見るべきなく、唯、三方に濠池のごときものを存するに止まる。此城は建武年中楠木正成の築きたるを始めとし、其後天正に至りて中川清秀これに居り、豐臣氏に及びて片桐且元を封ぜり。徳川氏この城を廢してより地は永く高槻城主永井氏に歸せり。其遺址に茨木神社あり。郷社にして春日明神を合祀したるが爲め、世人これを茨木の明神と言ふ。社殿は南に面し、其後に黒井の清水あり。また、此町に、三島郡役所あり。繼體天皇陵は山崎街道に位し、三島村大字太田の東北にあり。一堆の丘陵、其高さ五丈餘、外面に濠渠あり。全山老松鬱蒼として、頂上に自然石五箇を存す。元と、石棺に用ゐしものならんといふ。其の附近に太田神社あり。式内の古社なり。大字耳原の北方毛受野に、三箇の古墳あり。皆な高貴の古陵ならんと傳ふ。其の北方に幣久良神社あり。其杜は鬱然として天に參し、遠くこれを指點することを得。牟禮神社

繼體天皇陵

は安威川の堤畔にあり。中河原の村落より、一路北に岐れ、郡の北部を走り、大岩に至り、一は音羽清水を經て京都府に入り、一は多留見峠を越えて豐能郡に入る。此附近、丘陵・平野相連り、古蹟また少なからず。安威村に

將軍塚

あり。大織冠藤原鎌足の古墳にして、後年、これを大和の多武峯に移せり。山は稚松鬱蒼として欹ち、字越中前より上ること一町餘にして墓に達するを得べし。傍に一祠あり、大織冠神社といひ、鎌足及び其子淡海公・不比等を祀れり。猶、街道を北に進めば、石河村の南方に彌ヶ谷山屹然として聳え、其山腹に老杉多く、蓊鬱として天に攢せり。是、神峯山大門寺にして、眞言宗の古刹なり。殊に、眺望の絶佳なるは、攝河の平野を始めとして、淀川の逶迤として西走せる、皆な指點すべし。それより大岩に至れば、一孤峰あり。

大門寺

其形瘤のごとく、山容甚だ奇なり。國見山といふ。登臨の快、大門寺に比して、更に一層を加ふ。大岩より右折して丹波街道に至れば、一里許にして見

國見山

山村に忍頂寺あり。孤峯兀如として聳え、遠くこれを辨ずべし。攝北の巨刹勝尾寺の末寺にして、清和天皇の御宇の創建にかゝり、實に一千餘年の古刹なり。又この附近に高山古城址・佐保古城址等あり。かくて山崎街道の中河原に戻りて、それより、本街道を西に下ること數町、眞龍寺あり。背後の美人山は眺望に富み、且松茸を生じ、楓葉亦見るに値するを以て、秋日は來り遊ぶ者多し。勝尾寺は攝北第一の巨刹、眞言宗にして、昔は其盛大紀の高野山に

勝尾寺

匹せりと言へり。神龜四年の開基にして、歷代の天皇の勅願所たり。講堂・仁王門・輪藏・開山堂・二階堂等皆見るべし。街道に添へる新家村に一箇の華表あり。これその入口にして、それより三十五町にして山門に達す。境内に入れば、堂塔高く雲表に聳え、寺後は巨樹大木亭々として、千年曾つて斧斤の痕を加へず、幽邃極りなし。ことに、秋に至れば、滿山皆紅葉を着け、其美名狀すべからざるものあり。これを以て來り遊ぶもの甚だ多し。また、其東、字東谷に、光明院廟あり。これより街路に還れば、地は豐能郡に屬す。

豐能の一郡、府の北方に位し、おのづから他に異りたる一種の特色を有せり。蓋し、管内他郡の多くは平地なるに比して、山嶽丘陵深く其の北境を劃りたるを以てなり。郡の中央を南北に横斷する一路、是を池田街道又は丹波

池田町

街道と稱し、山崎街道即ち西國街道は池田町の南一里餘の處を掠めて、川邊郡に入る。三島郡吹田村の西、垂水神社より、服部に至れば、天滿宮あり。熊野田に佛願寺あり。かくて平野の間を北に進むこと二里、忽ちにして池田町に達す。阪鶴鐵道は兵庫縣川邊郡尼ヶ崎町より起りて、神崎に至り、官設線路を横斷して、塚口・伊丹の二驛を置き、池田川の對岸、半里を隔てたる所に、停車場を置けり。其地、兵庫縣に屬す。町は管に郡中に於ける一名都邑なるのみならず、攝津の北部に於ける中心を爲し、從つて商業活潑に、物資の出入また甚だ盛なり。ことに、薪炭植木のごとき、木材及び菜蔬のごとき、皆な此處に集中して市場を開き、大阪・尼ヶ崎・西宮町の商估亦競ひ來りてこれを購ふを以て、其繁華、實に邊陬の市街に望むべからざるものあり。『在所なれども池田は名所、月に十二の市が立つ』の童謠ある、また宜なり。昔は清酒の釀造を以て、池田川對岸の伊丹町と共に、その名天下に聞えしが、今は灘八郷の地に其名聲を奪はれて、稍〻退歩の傾あり。また、此地は往昔呉服の里といひて、呉織・漢織等の絹を織りし所なるを以て、其舊跡多く、町の南に呉

箕面公園

織神社、北に漢織神社あり。町内に豐能郡役所あり。町の北に聳ゆる五月山は一に池田山といひ、甚だ高からずと雖も、摩耶山一帶の翠色と武庫川の蜿蜒たる長流とを隔てゝ、遙かに茅渟の海を指點し、眺望頗る可なり。山腹に大廣寺あり、また名刹なり。箕面公園は池田町の東に位し、阪鶴鐵道の池田驛より二里を隔つ。天王寺・住吉・濱寺と共に府下四公園の一にして、古來、楓錦の美と山水の勝とを以て、善く世に喧傳せられしところ、箕面村大字平尼の北方にあり。平尼村の一村落を離れて、箕面川に架せる一橋を渡れば、地は既に公園に屬す。川は即ち箕面瀑の下流にして、橋畔に一老楓樹あり。奇嬌愛すべし。其附近に一箇の華表あり。これより阪路、稍〻險峻、登攀し盡して一平地を得、四面の眺望廣濶を極む。新道は溪に沿ひ、崖に凭り、紆餘彎曲して、以て寶積院の前に達す。寺の總門の前に、二三の旅亭あり。本坊に通ずる朱欄橋の下を過ぎ、鬼の架して役小角を渡らしめきといふ前後鬼橋を渡り、更に縈紆すること幾回、俄然巨岩の路を壓して横はれるを見る。俗に唐人モドリ岩と云ひ、傳へ云ふ、來朝の唐使の嶮を恐れて歸りたるところな

箕面瀑

瀧安寺

能勢の妙見堂

りと。此間楓樹ことに多く、夕陽これと掩映し、躑躅去るに忍びざるものあり。溪流の盡くる所、有名なる箕面瀑あり。琴々の聲耳底に聞ゆ。瀑の高さ十一丈、亭あり、これに對す。凭つて見るべし。蓋し、此の山水、近畿地方にありては、頗る幽邃の趣を極む。山中に、瀧安寺あり。天台宗にして、歷代天皇の御祈願所たり。ことに、此寺に安置せられたる辨財天は、頗る有名にして、近江の竹生島、相模の江の島、安藝の嚴島と共に、日本四辨天の稱あり。池田町を出でゝ北に丹波街道を進めば、數里にして能勢山中に入らん。久安寺川の對岸に久安寺あり。豐臣氏時代にありては、其庭園頗る美に、秀吉も賞して以て庭園の範と爲せしもの、今は其の址をだに見るを得ず。只、境幽邃なるを以て頗る塵熱を忘るるに足るのみ。これより東北、止々呂美村に、鑛山あり。銀及び銅を產せり。有名なる能勢の妙見堂は、これより猶三里の山中にありて、北は京都府に近く、西は兵庫縣に界を接せり。昔は唯、邊陬の一堂宇たるに過ぎざりしが、德川幕府中葉以降より、その靈驗四方に喧傳し、信徒の來り賽すもの漸く多く、今日に至りては、愈〻隆盛を極め、諸社

突天の產地

の數三百有餘に達し、信徒十萬の上に出で、殊に、厄難病苦のもの、或は瀧に浴し、或は祈請を凝し、參籠十數日に亘るものあるに至る。其盛なる、開東の成田不動に匹すべし。而してその來り賽するもの、京都・大阪・神戸・尾張・美濃及び三備・二丹の地方を最も多しと爲す。山は海面を拔くこと約九百米、堂はその山頂にありて、登路頗る嶮峻なり。寺域には本堂・經堂・繪馬堂・寶庫等、軒稙相接し、接續せる地には、旅舍・肆店・陸續として甍を並べたり。每歲舊二月初午の大祭には賽客の雜踏を極め、滿山殆ど立錐の地なきに至るといふ。蓋し、流行佛としては、近畿地方屈指のものたること、疑を容れず。この山の近傍なる吉川・東能勢の諸村には、銀及び銅を產する鑛坑數百所あり。また、此地方は氣候寒冷なるを以て、殊に寒天の製造に適し、日本有數の主產地と稱せらる。また、多少の海外輸出を爲せり。

更に東に還りて、關西鐵道櫻宮線の橫斷せる河內國東北部の平野を記すべし。此地方は淀川を以て攝津の北部に界し、生駒國見等の山脈を以て大和に接せり。京街道は京都府八幡町の西、橋本より來りて、枚方町に至り、絕え

ず淀川の岸に沿ひて大阪に達し、河内街道は同じく八幡町より來りて郡の中央を横斷し、星田驛より櫻宮線の鐵路と相沿ひ、四條畷に至りて、遂にこれを越えて、直ちに南に走り柏原に至れり。其他、枚方町より天の川の流に添ひて大和に入るの大和街道あり。京街道を淀川に添うて下ること半里、樟葉村に樟葉宮古址あり。歷代の歌集に其名を留めたる有名なる交野の原は、この附近の總稱にして、今の牧野村大字禁野・渚・山田村字中宮・中妻・田・片鉾等の地即ち是なり。この禁野の字は、桓武天皇此地に遊獵し、國民の私に鳥獸を獵するを禁ぜられたるより殘りたるもの、中宮の邊を鳥立の原と稱したりきとぞ。現今に至りても、田口村なる山田池の附近は、冬期、鴨雁等群を爲し、頗る遊獵に適せりといふ。枚方町はこの地を距る、遠からず、前に淀川を帶び、白帆の去來、翠嵐の搖曳、風景甚だ佳なり。維新前は淀川上下の三十石の船着所として、今は、大阪伏見通ひの汽船發着所として、頗る繁華を呈し、人口三千五百を有し、町に北河内郡役所あり。萬年寺は鷹塚山の中腹にあり て、眺望頗る佳なり。又この附近光善寺・蹉跎天神等あり。蹉跎山は獨立せる

樟葉宮古址

枚方町

蹉跎天神社

丘陵にして、其形頗る奇なり。枚方より交野街道を東に入れば、國見山は櫻宮線の長尾驛の東南に聳ゆる丘陵にして、登臨すれば河内・攝津・大和の山川皆目睫の間に集る。又長尾驛附近に王仁塚(第二十六圖乙)あり、落坂村に明尼寺あり。開元寺の瀑は一に元寺の瀑と稱し、津田驛の東南十町、交野村大字倉治の東にあり。直下三丈餘、水清冽にして、水勢又激しからず。これを以て婦女子も猶浴すべし。瀧道の左傍に、不動堂不動岩等の名跡あり。往昔は開元寺と稱せる巨刹ありしも、今は潰えてその礎をだに留めず。此地、楓錦の美を以て著名なり。また、この倉治村附近は、桃樹甚だ多く、花時は頗る壯觀を極む。南して、磐船村に至れば、獅子窟寺石船巖等あり。星田驛の東、十町、一小丘あり、上に妙見を祀れり。之より發する川を妙見川といひ、其沿岸に櫻樹數百株を植ゆ。花時は一奇觀あり。これより河内街道に出て、其鐵道線路と相交錯せる間を過ぎ、甲可村大字岡山に、德川家康が大阪攻擊に際して本陣を布きしといふ忍ヶ岡の故址を尋ね、茶臼山觀音の稱ある大字南野の龍尾寺に詣し、猶西南に進むこと數町、四條畷停車場に達すべし。四條畷神社

開元寺の瀑

倉治の桃林

四條畷神社

は飯盛山の西腹にありて、楠木正行及び弟正時の靈を祀れるもの即ち是。此地たる、正行が決死吉野より出て丶、敵の大軍と奮戰したるところ、四條村大字北條に、今猶畷の遺路を存せり。神社は明治二十二年の創建にかゝり、別格官幣社に屬せり。境内は繞らすに美しき石垣を以てし之に倚りて繪馬堂あり。華表より本社まで五町、兩側に楓樹を植え、境内の清洒なる、堂宇の壯麗なる、賽客をして自から襟を正さしむ。ことに、境内眺望に富み、晴天の日は遠く播丹の諸翠微を眉睫の間に集るを得べし。小楠公の墓は本社を距る西九町田畝の間にあり。巍然たる大石碑には刻するに贈從三位楠朝臣之墓の九字を以てし、傍にある老楠樹は蒼翠天を蔽ひ、轉た楠氏の功業を追想せしむ。これより河内街道を南に傳へば、野崎村に、野崎觀音あり。本尊十一面觀音は大阪府有數の流行佛なり。例年五月一日より十日に至る間は無緣經修業中とて、賽者雲のごとく、關西鐵道はこれが爲めに、臨時汽車を發し、假停車場を設くるに至る。生駒山はこの東に聳ゆる名山にして、其山脈は河内大和の界を爲せり。其山麓に鷲尾寺あり。山背の寶山寺には聖天を祀れり。

野崎觀音

生駒山

枚岡神社

（奈良縣地方誌參照）此の附近、神社佛閣甚はだ多く、一々枚擧するに暇あらず。而して最も有名に、最も古き由緒を有するは、枚岡神社に若くなし。社格は官幣大社にして、古より河内の一宮と稱す。神武天皇の御宇、種子命の創建にかゝり、天兒屋根命・姫大神・武甕姫命・經津主命を祀る。社殿朴古、森嚴にして、自から神德の高きを表せり。後山を枚岡山といふ。明治に及びて其中腹を開き、數百株の梅萩等を栽培し、以て遊園地と爲せり。この附近は神武天皇東征の時、浪華より大和に向ひたまひし草香の津にして、當時長髓彦が拒ぎたる孔舍衞坂もまたこの邊なりといふ。此より東、大和の國境に、暗峠・十三峠の二路あり。河内より大和に出づる要路にして鐵道未だ開通せざりし頃にありては行旅通行少なからざりしなり。十三峠の麓山林の中には古墳極めて多く、塚穴の千態萬狀亦一奇觀なり。

淀川の沿岸なる京街道、また記すべきもの少なからず。枚方町より蹉跎山を過ぎ、庭窪村に至れば、大字佐太に來迎寺あり、佐太天神社あり。此附近に大庭一番・大庭二番の小村あり、唱へて七番に至る。蓋し、仁德帝以下歷代

守口町

の天皇が命じて淀川の隄防を修めしめし遺趾の名ならんといふ。守口町は淀川に瀕し、高瀬の淀と稱せし地、昔は要津に當りて、船舶去來し、頗る繁華を呈したりしも、今は全く衰退して、人口千四百を有するに過ぎず。附近、宇世木村に高瀬神社あり。また、式内の古社なり。これより東成郡に入れば、大阪市の瓦甍烟筒は、驚くべき活動を吾人の眼前に展げ來らん。

大阪市

大阪市は有名なる商業都會にして、その市街の繁盛なる、その商機の活潑なる、わが帝國の首府たる東京市も將に三舍を避けんとの觀あるは爭ふべからず。（第八十圖甲）蓋し商工業の地としては、東洋のマンチエスターと稱すべく、將來に於ても、益〻隆昌の域に進み、東洋第一の大都會たらんとするの兆歴々たり。唯〻其地たるや、往昔より商業的發達をのみ經過し來りたるを以て、風俗に於て、氣風に於て、東京市と異れる點甚だ多く、旅客一たび梅田停車場を下れば、家屋の構造、市街の區劃、道路の布置、市民の風采、皆な一種特色ある光景を存したるを見るべし。而して、その活動、その繁華、また全く一種の商業的趣味を帶びたるを發見せむ。これ、蓋し往昔の上方氣風の發達

市の地位

したるものにして、實に大阪市及び大阪市民の一異彩と稱すべし。市の地位は攝津國の南部、大阪灣の海濱に位し、行政區劃上大阪府の管轄に屬せり。西北は西成郡に接し、東南は東成郡に連り、西南は全く海に瀕す。東西約二里十九町、南北約二里二十四町、面積三方里六分餘を占め、人口百一萬餘を有す。

市の地勢

地勢は概して平坦なれども、東部は漸く隆起して、一帶の低き丘陵性の臺地を爲し、大阪城址を有する邊より、宰相山・眞田山に至る邊には、標高約十米以上に上る。而してこれ等の諸丘陵より望めば、大阪市の瓦甍粉壁は悉くこれを掌に指すべく、安治川の迂回して海に注ぐの狀、築港附近一帶の地に巨船大舶の來り集れるの景、木津・尻無の兩川に日本船の帆檣相重れるのさま等皆來りて眼中に落ちん。古代の沿革によれば、此の一帶低窪の地は曾て蒼波の奔跳せる處にして、この丘陵の一角を難波ヶ崎と稱し、海中には大小の島嶼洲渚星散羅列して、其風景實にこの近畿に冠たるものありしと言ふ。ことに、此市の特色と稱すべきは、河川の縱横に貫通せることにして、橋梁の多き、往昔より八百八橋の稱ありたるを以て推すべし。察するに、此一帶

の低地は主として淀川の三角洲の發達して成れるものなるを以て、多くは有史時代の塡築を經て今日に至りしものにして、二千有餘年を經過したる仁德帝時代にありては、おさかと稱する今の上町附近の一角に部落を存したるに過ぎざりしがごとし。

市附近を流るゝ河川の交通

淀川は市の北部を貫流する大河にして、源を琵琶湖に發し、山城盆地より攝河平野に出て、其下流長柄に到りて始めて市に入り、將棊島に於て、猫間川を合せ、西に轉じて中の島に至り岐れて土佐堀堂島の二川となり、後復合して直に再び分れ、一は木津川と爲り、本流安治川は天保山に至りて海に注ぐ。舟楫の便極めて多く、小汽船和船の來往する者跡を絶たず。殊に北區の一角、安治川橋の西方、富島町には、川口波止場ありて、汽船の出入最も盛、大阪市の呑吐する物資は多くこの波止場を經由す。政府はこの淀川の流域の往々恐るべき水害を釀すを以て、近年長柄より傳法に至るの新河を開き、これを新淀川と稱して、以て疏通を便にしたれど、しかも交通の權は安治川猶これを握れり。木津川は土佐堀の分流にして、木津川橋大渉橋松島橋千代崎

市況概説

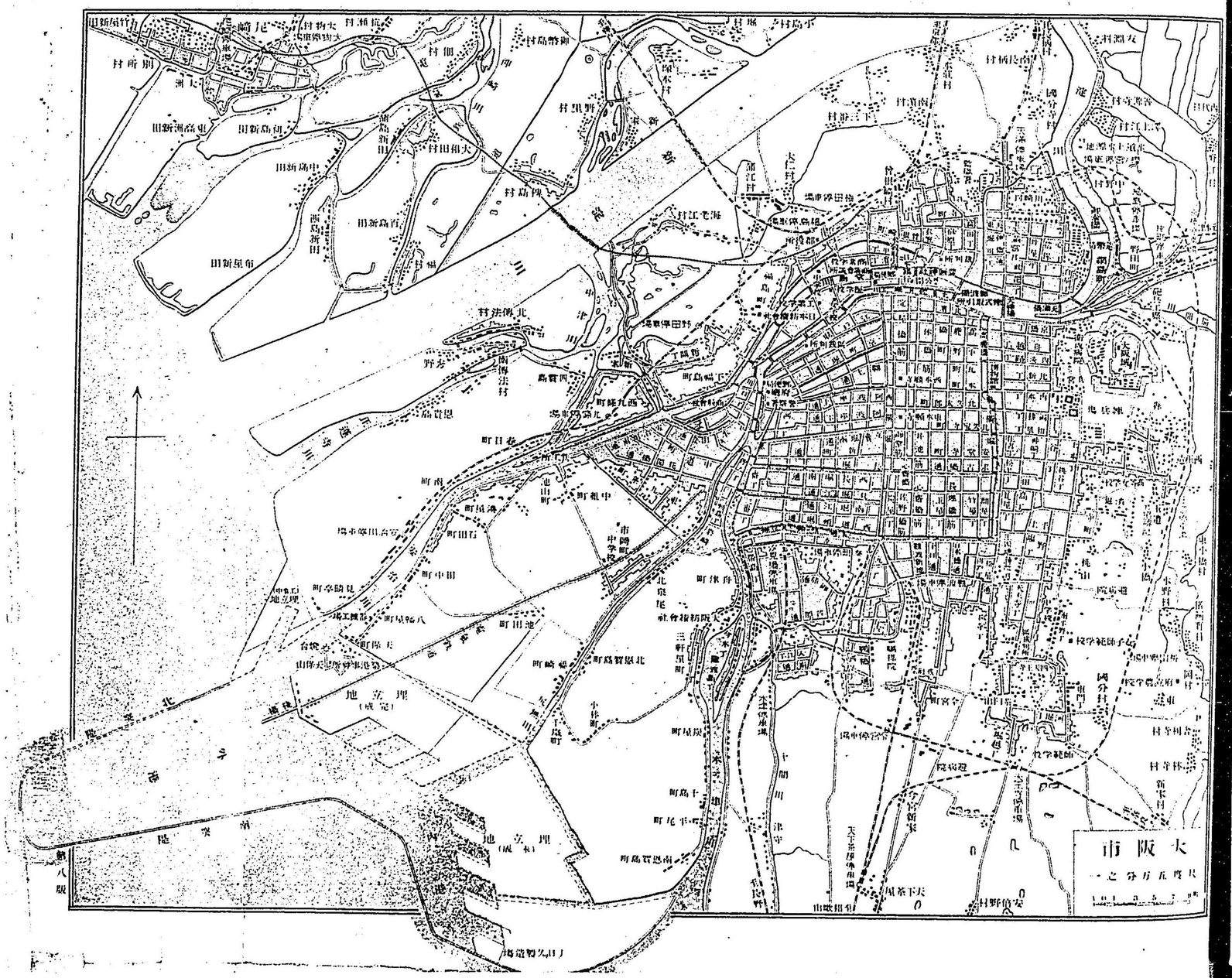
橋の諸橋を架し、南に流るゝこと二里許、南恩加島町に至りて海に入る。而してその河口は、新築港埋立地の東を劃れり。此川は古來和船の碇泊所として名高く、沿岸到る處帆檣の林立するを見る。而して其沿岸木津川町には材木河岸ありて、其光景恰も東京深川木場に髣髴たり。尻無川は木津川より更に分流したるものにして、その長さ河口まで大凡一里、その沿岸及び舟楫の便は木津川沿岸と酷肖せり。其他市の西北に、中津川六軒屋川傳法川正蓮寺川等あれど、新淀川の工事の爲めに遮斷せられて、其水量甚だ小なり。河渠は市の中部に、東横堀西横堀江戸堀京町堀海部堀阿波堀薩摩堀立賣堀堀江長堀道頓堀等あり。又、天滿堀川曾根崎川道川古川百間堀川高津入堀櫻川鯽川難波入堀等の諸運河あり。船舶常に出入し、甚だ水利に富めり。ことに、市中數箇の小汽船會社あり、蒸汽或は石油エンジンの小汽船を用ゐて、縱橫にこの河渠を往來し、以て市內交通の便を助けつゝあり。

大阪市は現今の市制により、東西南北の四區に分ち、町數八百五十七町を有せり。今其概略を記せば、其の繁華は東區の船場、西區の島の內と稱する

道路

地、及び西區の東部、北區の堂島川・土佐堀に面せる附近に集りて、淀屋橋通・心齋橋通等最も殷昌を極めたり。而して船場には大問屋及銀行等多く、自から市の金融市場をなす。北濱より北區に移れば、各種の官公衙は皆な巍々たる巨館を起し、其壯觀恰も東京丸の内附近のごとし。それより稍西して、堂島及び中の島の西部に至れば、各種の學校此附近に相集り、自から市の教育區をなす。西區の東部、木津川橋附近には、大阪府廳及び大阪市役所あり。それより稍北すれば、市街愈狹く、繁華の光景また船場附近に比すべからざれども、舊幕府時代の古風なる面影は最も多くこの附近に殘りて、座ろに當年の大阪市街を想見せしむ。京町堀附近のごとき、最も其の特色を有せり。南區に至れば、大阪の淺草とも稱すべき道頓堀千日前あり。其喧騷囂へんにものなし。而して大阪の工業を盛ならしむる諸工場は多くは市の西部及び北部にありて、東部及び南部には甚だ少し。猶其他南區の外部に多少小規模の工場あるを見る。

道路は劃然として布置正しく、横なるを筋と稱し、縱なるを道といふ。而



して東區の東横堀に架したる高麗橋を以て里程元標の地點と爲せり。街道は東區野江より守口町を經て東北に走れるを京都街道と爲し、北區長柄より服部を經て北に向ふを池田街道と爲し、梅田より神崎・尼ヶ崎を經て西に赴くを西國街道と爲し、南區今宮より堺市を經て南に行くを和歌山街道と爲す。其他今福より住道に達する街道、玉造より八尾町に至る街道、天王寺より平野町を經て大和に向ふ街道等皆河内に向つて相輻射す。鐵道は此市の附近に於て殊に複雜を極め、京都より梅田を經て神戸に達する官線を始めとして、關西鐵道會社は、高野・河南・大阪等の諸線を合同し、その狀恰も蛛網を張れるが如し。即ち湊町を發端驛として奈良・名古屋に達する湊町線、櫻宮驛を起點として大和木津に達する櫻宮線、汐見橋驛を發端とせる高野線、梅田を發して市の東部を一周する城東線等あり。又難波驛を起點として和歌山地方に赴く南海鐵道あり。梅田より安治川口に至る西成鐵道あり。其線路の交叉複雜せる、一過眼の旅客にしては、容易に識別する能はざるものあり。而して梅田驛は最も樞要なる地點を占め、其の發着の頻繁なる、人群の雜遝せる、新橋

停車場も三舍を避くるの大驛たり。蓋し大阪市陸運の中心と稱すべき也。海運は前に述べたる川口波止場を他にして、只今工事中なる大阪築港あり。工事既にその半を終り、突堤・棧橋既に成り、巨船大舶を容易に碇繫せしめ得る而已ならず、陸上の設備も次第に整ひ、電車は九條町花園橋畔より坦途直ちに築港棧橋に達したるを以て、この工事落成の曉には、大阪市は更に偉大の發展を見るに至るべく、大阪水運の中心も漸次此方面に向つて移るなるべし。

これより區を分ちて、更に細説を試むべし。

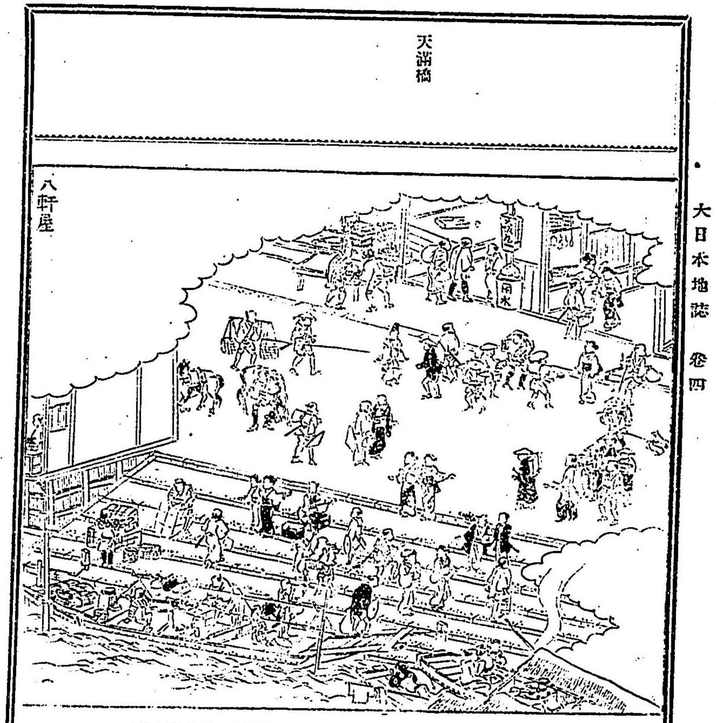
東區　市の東方に位し、其南の一部は深く南區に突入せり。西は西區に接し、北は淀川を隔てゝ北區に連り、東は東成郡に隣る。區の東部には丘陵相連り、大阪城址より亘して宰相山・眞田山に至るの間多くは兵營・寺院・邸宅等を含む。西部は市の繁華なる部分にして東横堀川は南北に貫流し、其東を上町と云ひ、其西にある一區劃を船場と言ふ。大阪城址（第三十九圖甲）は東北の一角にありて、豐臣氏時代の遺物なる白堊の城壁は今猶ほ高く城濠の上に聳ゆるを見る。殊に大石を以て高く築きたる石垣は頗る人目を驚かしむ。豐臣氏

大阪城址

時代に於ては、其規模廣大、二の丸・三の丸等遠く今の桃谷の邊に及び、宏壯偉麗、殆ど目を眩せしむるものありたるならん。されどかの慶長・元和の兩役に、二の丸・三の丸は破壞せられ、周圍の深濠は埋却し盡されたるを以て、その壯觀は恰も其三の二を失ひたるなり。德川氏の時に及び、其本丸を修築して、城代を此處に置き、稍〻舊觀を復するに至りしと雖も、屢〻雷火の爲めに燒け、寛文五年遂にその天主閣をすら失ふに至れり。現今、存在せるは本丸の全部にして、大手口・玉造口・青屋口・京橋口の四箇所に城門を存し、内には第四師團司令部及び其他の官衙・兵營あり。又、天主閣の下に貯水池あり。大阪市民の飲料水は櫻の宮の水源池より此地に來り、それより鐵管を縱横に通じて、以て市内を貫流す。城の西部及南部は第八聯隊・第三十七聯隊・野戰砲兵・輜重隊等の兵營相連なり、又病院・偕行社等あり。偕行社は其構造清楚にして、時々至尊の行宮たりしことあり。庭中に二十七八年役の紀念碑あり。頗る宏大壯麗なり。砲兵工廠は城の東北、青屋口の一角にありて、其の規模頗る大に、烟筒の煤烟、機關の運轉、座ろに人をして眼を刮せしむ。猫間川は其北を流

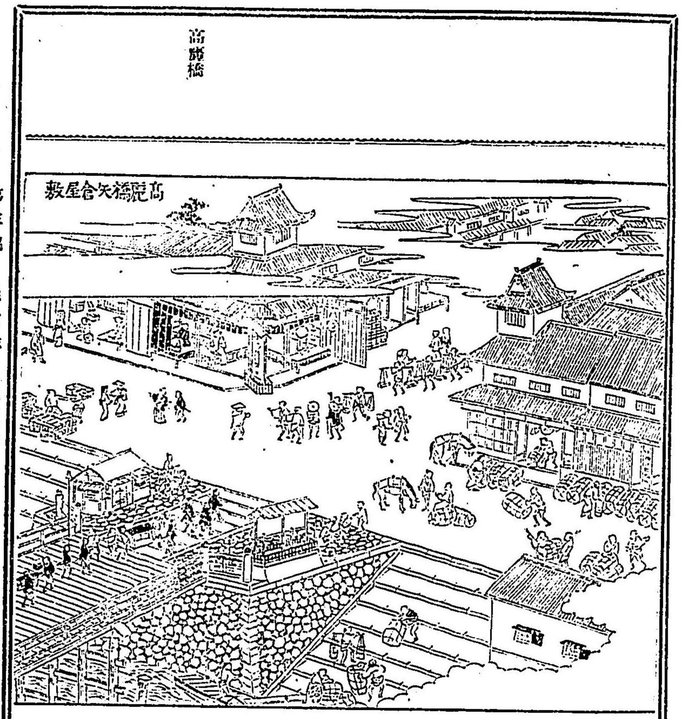
貯水池

砲兵工廠



大阪舊時の八軒屋（攝津名所圖繪所載）

れ、屈曲して淀川に注げり。これ、往昔大和川の水路なり。かくて城外の地を西に廻れば、猫間川の淀川に注がんとする處に京橋あり。天滿橋（第八十圖乙）は其の下流數町の處に架し、天神橋の南詰より天滿橋の南詰に至る間は、八軒家と稱し、往昔の大江の岸の跡なりと傳ふ。ことに、其名の起れる所以は維新前此處に八軒の旅店ありて、京阪上下の旅客を宿泊せしめ、三十石船



大阪舊時の高麗橋（攝津名所圖繪所載）（第八十一圖乙參照）

の船着所たりしに由れり。今日、其の形見として淀川汽船株式會社あり。數隻の小汽船を用ゐて大阪伏見間を日毎に往來す。天神橋の下流に於て溝渠の南に通ずるもの之を稱して東横堀と云ふ。東横堀の淀川に會する所、其西岸の一角を築地と稱し、旅館旗亭相連る。東横堀に架する高麗橋は市内有名なる橋梁にして、橋畔に里程元標あり。橋の西畔を高麗橋筋一丁目、東畔

を兩替町といひ、西畔の南側に城櫓のごとき一屋あり、俗にこれを櫓屋敷と稱し、昔は北畔にもありたりしといふ。（第八十一圖乙）橋の大阪に於ける、猶三條大橋の京都市に、日本橋の東京市に於けるがごとく、交通起算の中心を爲せり。ことに今橋・北濱附近は大阪市に於ける金融市場の中心と稱すべく、株式取引所を始めとして著名なる銀行・會社多くは此處に集り、北濱銀行・鴻池銀行・三十四銀行・住友銀行・日本生命保險會社・商業興信所等皆なその附近にあり。北濱の西、大川町には旅館甍を列べ、高麗橋の西より西横堀に通ずる地を高麗橋通と稱し、繁華の街路にして、各種の大問屋軒をつらねたり。伏見町通また大商賈の廛舗を構ふる者多く、道修町通には、藥舗の軒を並ぶること、恰も東京の本町通のごとし。東横堀の東岸松屋町に博物場あり。大都會の博物館としては猶幼稚なるの觀を免れず。區の北緣淀川の一支、土佐堀川に架せる淀屋橋より南に通ずる街路を淀屋橋筋と云ひ、平野町筋に至るまでは、雜貨の大賈軒を連ねて甚だ繁盛なり。淀屋橋筋の東は、大阪市街南北の軸ともいふべき心齋橋筋にして、市中最も繁華を極め、幅狹き街路の兩側には各種

金融市場の中心

心齋橋筋

の商店相櫛比し、人車絡繹として織るがごとく、其光景宛然東京に於ける日本橋銀座・人形町通のごとし。平野町通は毎月一六の夜店を以て有名なるの地にして、其長さは東横堀の平野橋より西横堀の京町橋に達し、この街路に大阪電話交換局あり。本町通はその南に當りて、街路稍廣濶に、第三銀行支店・東區役所・東警察署あり。御靈神社は淀屋橋筋の西に隣れる御靈にあり。社域は千二百餘坪を有し、社殿は東面し、左に神樂殿右に神輿庫あり。賽客常に群を爲し、市内有名の遊園地として其名甚だ高し。かの大阪の名物なる文樂座またこの境内にあり。かくてこの御靈筋を南に進めば、備後町通これに接し、其附近に本派本願寺別院あり。津村別院または北御堂と稱し、一道の石階直に東に面せる表門に達し、正面に本堂あり、堂宇の宏大なるを以て名あり。其附近に對面所・二祖堂・鐘樓・鼓樓等あり。又征清役の紀念として建てられたる尖塔ありて、高く空を摩せり。この筋を猶南に傳へば、北久太郎町四丁目に大谷派本願寺別院あり。本派の別院と對して、共に此方面の偉觀を爲せり。牆壁左右より起れる表門を入れば、正面に本堂あり。對面所・鼓樓等皆

御靈神社

東本願寺別院

西本願寺別院

座摩神社

な本派別院と相似たり。境内清洒にして、地に一塵を留めず。其附近に座摩神社あり。住吉神社の末社なれども、社殿は輓近の改築にかゝり、甚だ壯麗を極めたり。ことに、此社は大阪市中の鎮守神として名高く、東京に於ける神田明神に似たり。また、博勞町四町目に難波神社あり。社中の博勞稲荷は流行神として其名高く、賽者陸續として常に絶えず。

生田魂神社

區の南部は南區と犬牙相出入し、高津・天王寺の區劃と相接せり。生國魂神社（第五十八圖乙）は西高津にありて、市中第一の大社なり。延喜式内の舊社にして、今は官幣大社に列す。創建は天武天皇紀元前戊午の歳九月難波の高津丘即ち今の城址内に勅請せしものと傳ふれども、歳月遼遠にして、その眞僞を知るべからず。社は一帶の高地にありて、其廣さ七千二百餘坪を有し、壯麗なる大華表は生玉町の道衢に高く聳ゆ。正面に拜殿・本殿あり。本殿の構造は檜皮葺八ッ棟造にして、素樸古雅、賽客をして自ら襟を正さしむ。社後に眺望臺あり。遠く市の万甍と茅渟の海を隔てゝ淡路の青螺を望み、眺矚頗る廣濶なり。また社殿の右側に北向八幡社あり。此より東して寺町に入れば、無數の寺院門宇相接し、眞にその町名に背かざるを見る。五町目より東に進めば、往昔の高津宮址あり。其傍に味原の池あり。共に大阪市最古の遺址たり。

高津宮址

（第五十八圖丙）桃山は、小橋寺町の南にありて、桃園多く、花時は遊客麕至、頗る雜遝を極む。また其の西方に、梅園あり。産湯稲荷は味原池の南にあり、眺望甚だ佳なり。これより元町を經て小橋町に至れば、眞田山・宰相山の丘陵相連り、大阪市に於ける最高地點と稱せらる。眞田山は大阪の役眞田幸村が出城を築きて東軍を拒ぎたる爲め、宰相山は加賀宰相の陣屋の跡なりし爲め共にその名を得たり。今、其地に姫山神社及び三桂神社あり

眞田山

玉造

玉造と稱する地區は區の東部にありて、大阪城址の南に連れり。地には邸宅別墅多く、城東線の鐵路はその東端を横斷して、其の中央に玉造驛を置けり。新玉造町に騎兵營あり。清水谷に高等女學校あり。

北區

北區　市の北部に位し、北は西成郡に接し、新たに開鑿せられたる新淀川は其西北を流れて、溶々として海に入る。而して淀川の舊流は東北より來り、區の東を包みて漸くに西に折れ、難波橋に至りて別れて土佐堀川・堂島川とな

梅田停車場

堂島

中の島公園

り、其間に中の島を挾む。本邦鐵道幹線の大驛なる梅田停車場（第六十二圖甲）は區の北部にありて、近畿地方陸運の中心を爲し、各方面より連絡せる汽車の發着頗る頻繁に、乘降の客常に雜遝を極む。停車場は本邦有數の大建築にして、附近には旅店・商肆軒をつらねたり。梅田より南すること數町、堂島の地に至れば、古來より著名なる米穀取引所ありて、毎朝の繁華、東京に於ける蠣殼町と異ることなし。此附近、測候所・商業會議所・商業學校等あり。商業會議所に隣れる商品陳列所は其設備頗る整頓し、材料また豐富に、本邦有數の商業博物館と稱するに足る。濱通なる大江橋を渡れば、地は既に中の島に屬し、其の東端は所謂中の島公園をなし、長さ約五町、幅一町餘、規模狹小にして、園內欝葱たる老樹を見るなしと雖も、位置の樞要を占めたると、公園としての設備の稍〻完きとを以て、士女の來り遊ぶもの甚だ多く、市中第一の遊園地たり。豐國神社は園の東端にある別格官幣社にして、社殿境內甚だ清洒を極む。門前に木村長門守重成の紀念碑あり。遠く錦城の天主閣と相對して、共に人をして豐臣民の偉業を追想せしむ。園中に、花崗石造の宏屋あり。

福島

是中島圖書館（第五十五圖甲）にして、富豪住友氏が市に献納したるものなり。且此難波橋一帶の地は古より有名なるを以て、夏の夜は市民群集し、岸頭より河心に向ひて長大なる凉棚を設くるなど又奇觀なり。公園より西に堂島川の岸を傳へば、巨館高閣相連り、中に、淀屋橋筋に面して日本銀行支店（第七十三圖甲）其西に郵便局（第六十三圖乙）等あり。共に壯大なる建築なり。渡邊橋より以西は、學校・病院・會社等相連り、大阪醫學專門學校（第五十一圖甲）・大阪病院・高等工業學校（第五十圖甲）・大阪電燈會社・大阪商船學校等あり。其他、常安橋畔に稅務署、堂島大橋畔に製紙所あり。

これより堂島大橋を渡り、合羽島を過ぎ、福島に至れば、此地には紡績會社多く、日本紡績會社・福島紡績會社等の諸工場ありて、烟筒の煤烟常に高く天に漲れり。梅田停車場より分れて安治川河口に達する西成鐵道は、三島町に福島驛を置けり。福島天神社は上福島町二丁目・上福島三丁目・下福島町二丁目の三ヶ所にありて、共に菅原道眞を祀れり。五百羅漢は上福島中三町目妙德寺にあり。此寺亦有名なる古刹にして、堂宇の結構、全く支那風を摸せり。

鐵工所

川口波止場

曾根崎

それより西成鐵道の線に沿ひて西南に下れば、其附近は野田と稱せらるゝ地にして、安治川北通の一路は安治川に沿ひて長く四貫島村に接せるを見る。玉川町に圓滿寺あり。又その附近に有名なる野田の藤花あり。又、安治川北通の絶端、春日橋畔に、鐵工所あり。篭多龍太郎の所有にして、船渠・鋏工場等の設備頗る完全し、千噸以上の汽船を製造すといふ。

安治川橋の西部、富島町の地も、亦此區に屬せり。此沿岸は川口波止場（第六十四圖甲）のある處にして、關西水運の中心をなし、近海航路に屬する淺吃水の汽船は深く安治川を溯り爰に來りて碇泊するもの其數を知らず。之に加ふるに和船の帆檣林立し、幾多の汽船會社運漕問屋は其岸に櫛比し、船客の來往貨物の出入頗る繁華の光景を呈せり。就中大阪商船會社は其主要なるものにして、汽船は主として關西地方の水運を始め、此港の主要貿易たる清韓貿易の衝に當れり。輓今、西區に、築港工事起り、着々竣功の途に近づきつゝあるを以て、この川口波止場の繁華も次第に西漸するに至るならむ。

更に梅田停車場に還りて、區の東部を觀んに、此方面は曾根崎北野、及び

北野

天滿

天滿宮

天滿と稱し、其繁華は船場上町島之内等に及ばざれども、商賈櫛比し、工場亦少なからず。蜆橋の北曾根崎上二丁目に露天神社あり。俗にオハツ天神といふ。其東北に寒山寺あり。境内の地藏堂は日限地藏と稱し、賽者少なからず。これより北野に入れば、太融寺町に太融寺あり。市内屈指の古刹にして、嵯峨天皇の弘仁中僧空海の開基と稱せらる。境内なる大師堂には香火常に絶えず。又其地域に淀君の墓あり。北野天神は其東北數町にありて、一名綱引天神と稱し、本殿・拜殿等頗る美なり。此に隣りて、監獄署あり。四面高く牆壁を繞らし構造宏壯なり。猶東して天滿に入れば、その中央に有名なる天滿宮あり。府社にして、祭神は菅原道眞なり。建立は村上天皇の天曆三年にして、天滿の名も亦これより起る。社殿は明治卅四年の修繕改築にかゝり、結構壯麗にして、數座の末社に至るまで、皆雅ならざるなく、市中稀に見るところと稱するも、決して溢美にあらず。又此附近に國分寺及び興正寺・天滿別院あり。夕日天神は老松町にありて一に神明宮と稱す。難波小橋に至れば其傍に大阪控訴院（第四十七圖乙）あり。赤煉瓦の宏壯なる建築なり。また其附近に、

天滿青物市場

造幣局

泉布觀

網島

北區役所あり。控訴院の東方太平橋より天滿橋に至る一帶の地には、乾物魚類・青物の市場ありて、一種名狀すべからざる繁華を保つ。ことに、天神・天滿兩橋間の青物市場は、頗る古き沿革を有し、西區の雜喉場生魚市場と共に、此市の兩市場と稱せらる。天滿橋を右にし、淀川に沿ひて北に屈曲すれば、造幣局（第四十七圖丙）の巍々たる工場は忽ち眼前に顯れ來る。これ大阪市中最も初めに建てられたる洋館にして、事、維新の大阪遷都と關したる次第はこれを沿革の中に記せり。其北に泉布觀あり。元、造幣局に屬し、應接所の用に充てられたりしもの、明治五年至尊西巡の際此處を行在所と定め給ひ、今の名稱を賜ひぬ。後屢〻行幸あり。廿四年宮內省の所管に移れり。更に其北に隣り三菱製煉所あり、貴金屬を製煉す。新に架設せる御幸橋は其傍にありて淀川に架し、恰も虹霓の空に橫はるがごとく、壯觀極りなし。上流には源八の渡ありて、櫻の宮に至るべく、關西鐵道の城東線は一停車場を此處に設く。其の北に隣り、都島には大阪水道の水源地ありて、其の構造設備頗る完全せり。網島は猫間川・寢屋川の二支流と淀川との會點にありて、櫓聲帆影、景致

西區

に富めり。これを以て、富豪の別墅多く、旗亭また尠なからず。大長寺は此地より櫻宮に達する道路にありて、境內に、比翼塚あり。

西區　市の西部に位し、東は東區、東南は南區に接し、北は北區に連る。西は新たに開かれたる築港地方を以て海に瀕せり。築港大工事の着手せられてより、此區は著るしく西方に發展し、其面積實に東南兩區を併せたるほどの廣さを有するに至れり。蓋し、築港工事の竣功せる曉には、其繁華殆ど刮目するものあるべく、大阪市の中心は次第に西漸しつゝあるは爭ふべからず。區は他區に比して河渠ことに多く、東區南區と相界せる西橫堀を始めとして、江戸堀・京町堀・立賣堀・長堀・道頓堀等あり。川は木津川北より南に流れて直に海に入り、又木津川より岐れたる尻無川は、西南に向ひ築港內に注ぐ。區の最繁華なるところは京町堀通にして、商賈櫛比、商業活潑なり。其他、江戸堀通・靭北通・阿波座通等、問屋業者多しと雖も、其規模は船場に比して一歩を讓らざるを得ず。區の北端、土佐堀に面する邊は、北區中の島の影響を受けて、稍〻同質の發達を爲し、土木出張所・區裁判所・二三の官衙を始め又青年會館等あ

雜喉場生魚市場

り。先、北區中の島の西角湊橋より此區に入れば、區中最も有名なる雜喉場生魚市場は、忽ちにしてその繁華なる光景を眼前に展け來らん。市場は江戸堀下通・京町堀上通・京町堀通の各五町目の西端、百間堀河畔一帶の地にありて、其沿革は頗る古く、承應の頃は鷲島と稱して、只、白沙の邊、芦葦の生ずる處なりしを、其頃上魚屋町にありし當市場の地、魚類の運搬に不便なるを以て、延寶年中鮮魚の最も腐敗し易き夏期に限り、特に茲に店を開きて魚市を立てしより、地の利は遂に本店を此處に移さしむるに至り、爾來雜喉場の名は市内に喧傳せらる。生魚水揚の光景、早朝開市の模樣、魚商人の群集雜遝するの狀は、東京に於ける日本橋魚河岸に異ることなく、日出三竿にして、賣買全く了る。それより江の子島に至れば、巍然たる洋館の高く空を摩せるを見ん。これ、大阪府廳にして、市民俗に稱して政府と云ふ。（第四十四圖乙）其傍に府會議事堂・大阪市役所（第四十五圖乙）あり。木津川橋を渡れば、川口町と稱する一區劃あり。數多の洋館整然として相並び、巨松扶疎たるの邊、おのづから一種の特色を有す。これ、即ち舊外國人居留地にして、幕府時代には北方に川

大阪府廳

舊外國人居留地

口奉行所あり。南に一橋・清水の諸邸宅ありし地なり。明治の初年に於ては、此附近の建築は頗る人目を惹きたれど、今は大厦巨屋至る處に巍然たるを以て其の宏壯を說くものなし。蓋し清韓以外外國貿易の振はざるが爲めなるべし。

靱町

靱町は北京町堀・南阿波堀より、東は西横堀に至る一區を稱し、其の盡頭は永代濱を爲して細く阿波堀に通じ、京町堀と海部堀と相合するの處、地形三角狀を爲して、之を劒先と稱し、肥料を始め、鹽魚乾魚等を販賣せる商賈軒をつらね、賣買頗る盛なり。永代濱には住吉神を祀れる小社あり。阿波堀を隔てゝ阿波座町あり。また繁華の區なり。瀨戸物町と稱する地は、新町橋西詰より北方京町堀西詰に至る西横堀川一帶の地にして、陶磁器を販賣する商廛多し。長堀・堀江附近に至れば、材木商甚だ多く、宛然東京に於ける深川木場のごとき光景を呈せり。和光寺は堀江下通四町目にある淨土宗にして、緣起を難波堀江の古事に有し、今日其境内にたゝへられたる阿彌陀池は實にその堀江の一部なりと傳ふ。池には架するに小橋を以てし、中央に放光閣と稱

阿彌陀ヶ池

する寶塔を建つ。境内清淨、堂宇壯麗にして、賽者常に群集し、殊に涅槃藩佛の兩會には頗る雜遝を極む。其西三町餘を隔てゝ、舊土佐藩の藏屋敷内に土佐稲荷あり。堂宇壯麗なり。境内に合祀せる石宮は海上守護の神なりと稱し、船員舟子の賽するもの多く、繁華北區の天滿宮に次ぐ。

木津川

木津川の沿岸には、無數の帆檣林立し、和船の出入織るがごとく、從つて回漕業者多く、さながら東京の越中島・小網町沿岸に髣髴たり。千代崎橋の西、松島町に天滿宮あり。尻無川の西岸、梅本町に竹林寺あり。九條町に茨住吉神社あり。これより木津川に從ひて南に下れば、三軒屋町に大阪紡績會社あり。（第六十九圖甲）本邦有數の大工場にして、烟筒の烟日夜絶えず、產額また巨大なり。社の南に大なる船圍場あり、船舶陸續として來り泊す。

大阪紡績會社

九條町

安治川と尻無川との中間に位せる地積は、近年築港と共に新開せられたるもの、其東端なる九條町より港頭まで延長一里を超ゆ。九條町一帶の地は、淀川三角洲の最も近く發達したるものにして、寛永年中、香西哲雲の堤築に係れり。九島院は其當時、新拓地の安全、五穀成就を祈らんが爲め、哲雲の建立せしものにして、今、本田町通二丁目にあり。寺域甚だ廣からざれども、境内清楚なり。新たに開かれたる築港大道路は、九條町花園橋畔より坦々として西に通じ、電車は一直線に港頭に向ひて遠く駛り、一見人をしてその規模の大なるに驚かしむ。而して其の停留所は市岡・田中・八幡屋にありて、港頭に近く右に天保山の舊砲臺を望み、前に數箇の倉庫を隔てゝ長大なる棧橋の海中に突出したるを認むべし。

築港大道路

築港

築港の規模は更に壯大にして、内港外港の二區域に分ち、外港は南北突堤に由りて圍繞せられ、中に棧橋及び數箇の船渠亦將に成らんとす。北突堤は安治川河口の北岸を基點とし、南突堤は尻無川口燈臺附近を基點とし、西に向ひ海中に突出すること共に千四百有餘間、其極端は鉤形を成して相迫り、港口を作成せり。港口の幅約百間にして、一道の船路はそれと同じ幅をなしつゝ港岸に達せり。棧橋の長さは二百五十間、水深優に一萬噸以上の大船を碇繫せしむるに足る。内港は木津川河口の舊砲臺地附近に起り、一度北西微西に進み、更に轉じて北微西に至り、南突堤の基點に達する船渠堤によりて